十圓以下ノ罰金ニ處ス

第七十九條　認可ヲ得スシテ試掘ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ認可ヲ得タル者又ハ認可ノ期限ヲ過キ尚ホ試掘ヲ爲シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十條　第二十七條ヲ犯シタル者及第五十九條ノ豫防ニ著手セサル者又ハ第六十二條但書ノ規定ヲ犯シタル者ハ十五圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條第一項及第二項ヲ犯シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十一條　第十條ヲ犯シタル者ハ其ノ賣得金ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十二條　第十一條ノ販賣代價ヲ隱匿シタル者ハ其ノ隱匿シタル金額ノ半額ニ相當スル罰金ニ處ス

第八十三條　第三十九條ニ依リ屆出ツヘキ事項ヲ詐テ逋稅シタル者ハ其ノ逋稅金額ノ三倍ニ相當スル罰金ニ處シ其ノ逋稅ニ關セサル事項ニ係ルモノハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十四條　第四十條ノ帳簿ヲ調製セス若ハ記載ヲ怠リ若ハ詐テ記載シタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十五條　第六十四條第二項第六十九條及第七十二條ヲ犯シタル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八十六條　第六條第三十七條第六十八條及第七十條ニ違背シタル者ハ一圓以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

第八十七條　第八十一條第八十二條及第八十三條ノ場合ニ於テ自首シタル者ハ其ノ納付スヘキ金額ヲ追徵シ其罪ヲ問ハス

第八十八條　此ノ條例ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

明治三十三年法律第七四號ヲ以テ第九十三條以下追加

鑛業人未成年瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此ノ罰則ヲ犯シタルトキハ其ノ後見人ヲ處罰ス

第九章　附則

第八十九條　此ノ條例實施以前ニ許可ヲ得タル試掘人又ハ借區人ハ其ノ許可ヲ得タル年限中試掘又ハ鑛業ヲ爲スコトヲ得

第九十條　此ノ條例實施以前ニ借區人ノ許可ヲ得借區年限滿期後尚ホ引續キ鑛業ヲ爲サントスル者ハ借區滿期以前ニ此條例ニ依リ出願スヘシ

第九十一條　此ノ條例ノ施行ニ關スル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九十二條　此ノ條例ハ明治二十五年六月一日ヨリ施行ス明治六年太政官第二百五十九號布告日本坑法ハ同日限之ヲ廢止ス

第九十三條　明治三十二年十一月三十日以前ヨリ引續キ蒼鉛鑛、格魯謨鐵鑛、燐鑛、亞炭又ハ土瀝青ヲ採取スル者ニシテ明治三十三年六月三十日迄ニ其ノ鑛物採掘ノ特許ヲ出願スルトキハ其ノ採取區域ニ限リ第十六條及鑛區ノ面積ニ關スル第四十一條ノ規定ニ拘ラス特許ヲ與フヘシ

前項ノ採取者ハ明治三十三年六月三十日迄、其ノ特許ヲ出願シタル者ハ其ノ指令ノ日迄本法ノ規定ニ拘ラス其ノ採取ヲ繼續スルコトヲ得

第九十四條　前條ノ規定ニ依リ採掘ノ特許ヲ出願スル者ハ第二十二條又ハ第二十三條ノ承諾ヲ得ルコトヲ要セス

第九十五條　第九十三條ノ規定ニ依リ特許ヲ得タル鑛區ノ面積三千坪未滿ナル場合ニ於テハ其ノ特許ハ五箇年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

○鑛業條例施行細則　明治三十二年二月一日省令第三號

第一條　鑛業ニ關スル願書、請求書、屆書及圖面ハ一件毎ニ調製スヘシ

鑛業ニ關スル願書又ハ其ノ添附圖面ニシテ本令ニ書式又ハ雛形ヲ定メタルモノハ其ノ書式又ハ雛形ニ準シテ之ヲ調製スヘシ

第二條　鑛業ニ關スル願書、請求書及屆書ニシテ登錄稅法第十四條又ハ明治三十二年勅令第四號ニ規定シタル事項ニ係ルモノニハ第十二號ノ書式ニ準シ相當ノ收入印紙ヲ點用シタル上納書ヲ添附スヘシ

第三條　試掘願書及試掘地圖ヲ同時ニ差出シ難キトキハ願書ニ試掘地略測圖ヲ添附シテ差出シ置キ試掘地圖ハ出願ノ日ヨリ五十日以內ニ之ヲ差出スヘシ

第四條　鑛業條例第十二條第二項ノ規定ニ依リ鑛區圖ヲ添附セスシテ採掘願書ヲ差出ストキハ鑛區略測圖ヲ添附スヘシ

第五條　鑛業條例第四十七條ノ規定ニ依リテ測量ノ認可ヲ受ケントスル者ハ測量スヘキ土地ノ地名ヲ詳記シタル請求書ヲ差出スヘシ

前項ノ請求ニ因リテ測量認可證ヲ下付スルトキハ鑛山監督署長ニ於テ其ノ有效期限ヲ定メテ之ニ記載スヘシ

測量スヘキ土地ノ所有者又ハ關係人ニ於テ其ノ測量ヲ承諾シタルトキハ認可ヲ受クルコトヲ要セス

第六條　試掘地略測圖及鑛區略測圖ハ出願地ノ位置及區域ヲ確定スル目的ヲ以テ調製スヘシ

試掘地圖及鑛區圖ハ出願地ノ位置、境界及地形ヲ明示スル目的ヲ以テ調製スヘシ

第七條　出願區域ハ成ルヘク方形ニ近キ形狀ニ區劃スヘシ

略測圖ヲ以テ試掘又ハ採掘ヲ出願スルトキハ出願地ノ各隅ト爲ルヘキ測點ニハ不動物體ヲ選定スヘシ若シ不動物體ナキトキハ近傍ニ不動物體ヲ選定シ測點ニ對スル關係ヲ測定スヘシ

試掘地圖ヲ以テ試掘ヲ出願スルトキ又ハ鑛區圖ヲ以テ採掘ヲ出願スルトキハ顯著ナル不動物體二箇以上ヲ成ルヘク反對ノ位置ニ選定シテ之ヲ基點ト爲シ測點ニ對スル關係ヲ測定スヘシ若シ測點カ顯著ナル不動物體ニ符合スルトキハ之ヲ基點トナスヘシ

出願區域ノ各隅ト爲ルヘキ測點ニハ堅固ナル標杭ヲ設置シ之ニ測點ノ番號ヲ記載スヘシ若シ其ノ標杭カ不動物體ニ符合スルトキハ之ヲ設置スルコトヲ要セス

第八條　試掘地略測圖、鑛區略測圖、試掘地圖及鑛區圖ニハ左ノ事項ヲ明示スヘシ

一　基點及不動物體並ニ其ノ名稱、特徵

二　南北線及縮尺

三　出願地ヨリ五十間以內ニ他ノ試掘地、鑛區又ハ砂鑛採取地アルトキハ之ト出願地トノ關係

四　出願地內又ハ其ノ附近ニ鑛業條例第二十四條又ハ第二十五條ニ定メタルモノアルトキハ其ノモノ

五　出願地內又ハ其ノ附近ニ在ル鑛床露頭及其走向、傾斜

第九條　試掘地訂正願書又ハ鑛區訂正願書ニ添附スヘキ圖面ハ試掘地圖又ハ鑛區圖ニ準シテ調製シ新舊區域ヲ明示スヘシ

第十條　試掘地ノ區域ハ鑛業條例第四十一條第二項ノ規定ニ依ルヘシ

第十一條　他人ノ試掘地又ハ鑛區ニ鄰接シテ試掘地又ハ鑛區ヲ得ントスル者ハ中間ニ十間以上ノ距離ヲ置キ出願スヘシ但鄰接鑛業人ノ承諾ヲ得タルトキ又ハ試掘地ニ於テ採掘ヲ出願スルトキハ此ノ限ニ在ラス

鑛業ノ監督又ハ鑛利保護ノ爲メ必要ナリト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ前項ノ距離ヲ五十間

迄延長スルコトヲ得

第十二條　試掘若ハ採掘ヲ出願スル者、鑛業特許證書換願ニ因リテ新ニ鑛業人ト爲ルヘキ者又ハ出願人變更願ニ因リテ新ニ出願人ト爲ルヘキ者二人以上ナルトキハ總代一名ヲ選定シテ之ヲ願書ニ記載スヘシ若シ之ヲ記載セサルトキハ初筆出願人ヲ以テ總代ト看做ス

前項ノ總代ハ出願ノ取消及出願人ノ變更ヲ除ク外共同出願人ヲ代表スルモノトス

第十三條　會社カ鑛業ニ關スル願書、請求書又ハ屆書ヲ差出ストキハ其ノ書類ニ社印ヲ押捺シ且會社ノ代表者之ニ署名捺印スヘシ

第十四條　試掘又ハ採掘ヲ出願シタル者ハ其ノ出願區域ノ變更ヲ出願スルコトヲ得ス

第十五條　採掘出願人ヲ變更セントスルトキハ新舊出願人ノ連署連印シタル願書ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第十六條　相鄰接スル鑛區ノ鑛業人カ鑛業條例第四十四條ノ規定ニ依リ關係鑛區ヲ增減シテ相互ノ境界ヲ訂正セントスルトキハ連署連印シタル鑛區訂正願書ニ改定境界ヲ圖示シタル現鑛區聯絡圖及各別ニ調製シタル訂正鑛區圖ヲ添附スヘシ

第十七條　採掘權ニ對シ抵當權ヲ有スル債主アル場合ニ於テ鑛區ノ減區訂正ヲ出願セントスルトキハ願書ニ其ノ債主ノ承諾書ヲ添附スヘシ

第十八條　鑛業特許證書換願書、鑛區訂正願書、鑛區合併願書、鑛區分割願書、採掘權書入登錄願書、採掘ノ廢業屆書及鑛業條例第九十條ノ規定ニ依ル採掘特許願書ニハ鑛業特許證若ハ借區券ヲ添附スヘシ

第十九條　試掘願書、採掘願書、試掘地訂正願書、鑛區訂正願書、試掘延期願書及試掘又ハ採掘ノ廢業屆書ハ書留郵便ヲ以テ差出スヘシ

前項ノ書類ヲ差出ス者ハ發送郵便局ニ於テ受付ノ年月日及時刻ヲ記載シタル書留郵便物受取證ヲ請置クヘシ

第三條又ハ鑛業條例第十二條第二項ノ規定ニ依リテ願書ト同時ニ差出サヽル試掘地圖又ハ鑛區圖及第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ依リテ所轄鑛山監督署長ヨリ期日ヲ指定シテ修正又ハ補充ヲ命セラレタル願書又ハ其ノ添附圖面ヲ差出ストキハ前二項ノ手續ニ依ルヘシ但期限ノ末日ニ差出ストキハ三日以內ニ書留郵便物受取證ヲ差出スヘシ

第二十條　試掘、採掘、試掘地訂正、鑛區訂正竝ニ試掘延期ノ出願日時及前條第三項ノ願書、圖面竝ニ廢業屆書ノ差出日時ハ發送郵便局ヨリ交付シタル書留郵便物受取證ニ記載シタル日時ニ依リテ之ヲ定ム

前條第二項ノ受取證ノ差出ヲ命シタル場合ニ於テ其ノ指定期日迄ニ之ヲ差出サヽルトキハ郵便物消印便ノ締切時刻ニ書類又ハ圖面ヲ差出シタルモノト看做ス

第二十一條　鑛山監督署長カ試掘願書又ハ採掘願書ヲ受理シタルトキハ其ノ出願地ノ地方長官ニ其ノ願書ノ要旨ヲ通知スヘシ

地方長官ハ出願地ノ試掘又ハ採掘ニ付キ意見アルトキハ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ五十日以內ニ其ノ意見書ヲ所轄鑛山監督署長ニ送付スヘシ

第二十二條　鑛業ニ關スル願書、請求書又ハ圖面カ不完備ナルトキハ所轄鑛山監督署長ハ期日ヲ指定シ出願人ヲシテ之ヲ修正又ハ補充セシムヘシ

第二十三條　試掘又ハ採掘ノ出願區域ノ一部カ鑛業條例ニ依リ鑛業ヲ許可スヘカラサルモノナルトキ又ハ他人ノ試掘地若ハ鑛區ト重複スルトキハ所轄鑛山監督署長ハ期日ヲ指定シ出願人ヲシテ願書及圖面ヲ修正セシムヘシ試掘地又ハ鑛區ノ訂正願書ニ付テモ亦同シ

第二十四條　採掘出願地ニ鑛物ノ存在スル事實ヲ認定スル爲メ必要ナリト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ期日ヲ指定シ出願人ヲシテ鑛床ニ關スル證明書又ハ鑛物ノ標品ヲ差出サシムルコトヲ得

第二十五條　鑛山監督署長ハ公益上豫防ノ設備ヲ命スル必要アリト認ムルトキハ期日ヲ指定シ鑛業出願人又ハ鑛業人ヲシテ其設備ニ關スル設計書ヲ差出サシムルコトヲ得

第二十六條　鑛業出願人又ハ鑛業人カ所轄鑛山監督署長ヨリ鑛業ニ關スル書類又ハ圖面ノ差出ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日迄ニ之ヲ差出スヘシ

第二十七條　鑛業ニ關シ農商務大臣又ハ鑛山監督署長ニ差出シタル書類、圖面又ハ標品ニシテ必要ト認ムルモノハ之ヲ返付セス

第二十八條　鑛業出願人又ハ鑛業人カ所轄鑛山監督署長ヨリ試掘地、鑛區其ノ他鑛業ニ關スル調査ノ爲メ立會ヲ命セラレタルトキハ指定ノ期日ニ立會ヲ爲シ且調査事項ニ關スル說明ヲ爲スヘシ立會ノ期日ハ正當ノ理由アルニ非サレハ之ヲ變更スルコトヲ得ス

立會ヲ命スルニハ正當ノ理由アル場合ヲ除ク外少クトモ十五日前ニ之ヲ豫告シ期日確定シタルトキハ少クトモ三日前ニ之ヲ通知スヘシ

鑛業出願人又ハ鑛業人カ自ラ立會ヲ爲スコト能ハサルトキハ代理人ヲ差出スヘシ

第二十九條　鑛業ニ關スル願書、請求書又ハ届書カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ受理セス此ノ場合ニ於テハ其ノ事由ヲ明示スヘシ

一　第十九條第一項ノ規定ニ違反シ書留郵便ヲ以テ差出サヽルトキ

二　登錄稅又ハ手數料ノ上納書ヲ添附セサルトキ

三　試掘願書、採掘願書、試掘地訂正願書又ハ鑛區訂正願書ニ圖面ヲ添附セス又ハ添附圖面ニ依リ出願ノ區域分明ナラサルトキ

第三十條　鑛業ニ關スル願書又ハ請求書カ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ所轄鑛山監督署長ニ於テ事由ヲ明示シテ之ヲ却下スヘシ

一　第三條ニ定メタル期間內ニ試掘地圖ヲ差出サヽルトキ

二　第二十二條又ハ第二十三條ノ規定ニ依リテ所轄鑛山監督署長カ指定シタル期日迄ニ修正又ハ補充ヲ爲サヽルトキ

三　第二十四條ノ規定ニ依リテ所轄鑛山監督署長カ指定シタル期日迄ニ證明書又ハ標品ヲ差出サヽルトキ

四　出願人カ第二十五條ノ規定ニ依リテ所轄鑛山監督署長カ指定シタル期日迄ニ設計書ヲ差出サヽルトキ

五　出願人カ正當ノ理由ナクシテ第二十八條ノ規定ニ違反シテ立會ヲ爲サヽルトキ

六　出願地調査ノ際出願人カ其ノ區域ヲ明示スルコト能ハサルトキ、其ノ指示スル區域カ願書ニ添附シタル圖面ト著シク相違スルトキ又ハ鑛物ノ存在ヲ證明スルコト能ハサルトキ

第三十一條　試掘ヲ認可スルトキハ試掘地圖ニ認可ノ番號ヲ記入シ所轄鑛山監督署ニ保存スル試掘地圖ト契印シテ之ヲ出願人ニ下付ス

採掘ヲ特許スルトキハ鑛區圖ニ特許ノ番號ヲ記入シ農商務省及所轄鑛山監督署ニ保存スル鑛區圖ト契印シテ之ヲ鑛業特許證ニ添附シ出願人ニ下付ス

第三十二條　試掘又ハ採掘ヲ許可シタルトキハ官報ヲ以テ之ヲ公告ス

第三十三條　鑛業人カ第三十一條ノ規定ニ依リテ下付セラレタル圖面ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其ノ再下付ヲ出願スルコトヲ得

第三十四條　鑛業條例第六條ノ總代屆書ハ試掘、採掘又ハ鑛業特許證書換ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ

三十日以内ニ之ヲ差出スヘシ

第三十五條　鑛業人カ前條ノ期間内ニ總代届書ヲ差出サヽルトキハ第十二條第一項ニ定メタル出願ノ總代ヲ以テ鑛業條例第六條ノ總代ト看做ス

第三十六條　鑛業人カ自ラ鑛業ヲ管理セサルトキハ鑛業代理人ヲ選定シ連署連印シタル届書ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第三十七條　鑛業代理人ハ左ノ權限ヲ委任セラレタルモノト看做ス但鑛業人カ其ノ代理權ニ制限ヲ加ヘタルトキハ鑛業代理人選定ノ届出ト共ニ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

一　試掘延期ヲ出願スルコト、試掘鑛物販賣ノ認可ヲ出願スルコト、鑛業條例第十一條第一項ノ金額ヲ納ムルコト、鑛業施業案ノ認可ヲ出願スルコト、坑内實測圖ヲ差出シ又ハ坑内實測圖ノ證明ヲ請求スルコト、鑛業條例第三十九條ノ届出ヲ爲スコト、同第四十條ノ帳簿ヲ調製スルコト、同第五十五條ノ判定又ハ裁定ヲ請求スルコト、鑛夫使役規則及鑛夫救恤規則ノ認可ヲ出願スルコト、鑛夫名簿ヲ調製スルコト、鑛業税及鑛區税ヲ納ムルコト及鑛業條例第九十條ニ依リテ採掘特許ヲ出願スルコト

二　第三十三條ノ規定ニ依リテ圖面ノ再下付ヲ出願スルコト、第四十二條及第四十三條ノ届出ヲ爲スコト、鑛業警察規則第十四條、第十七條、第十九條及第二十一條ノ出願又ハ届出ヲ爲スコト

三　所轄鑛山監督署長ノ命令通知ヲ受クルコト及其命令ヲ執行スルコト

第三十八條　試掘人ハ試掘地圖、採掘人ハ左ノ書類及圖面ヲ鑛業事務所ニ備ヘ置クヘシ

一　鑛區圖

二　鑛業施業案

三　鑛業條例第四十條ノ帳簿

第三十九條　試掘延期ハ滿期前ニ出願シ且其ノ願書ニ試掘ノ成績及其ノ事業ヲ竣ヘ難キ事由ヲ詳記スヘシ

第四十條　鑛業條例第十條ノ規定ニ依リテ鑛物ヲ販賣セントスル者ハ試掘ノ認可番號、試掘地ノ地名、鑛物名、數量及見積代價ヲ記載シタル認可願書ヲ差出スヘシ但試掘地ニ於テ採掘ヲ出願シタルトキ試掘ノ滿期又ハ廢業ノトキニ非サレハ之ヲ認可セス

第四十一條　鑛業施業案、鑛業條例第三十九條ノ届書及同第四十條ノ帳簿ハ第四號乃至第六號ノ雛形ニ準シテ之ヲ調製スヘシ

二箇以上ノ鑛區ニ付キ合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ前項ノ書類モ亦各合併シテ之ヲ調製スヘシ

第四十二條　鑛業條例第三十九條ノ規定ニ依リ届出ツヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第四十三條　鑛業條例第三十九條ノ届書ハ採掘ノ廢業又ハ採掘權讓渡ノ場合ニ於テハ其ノ日ヨリ三十日以内ニ之ヲ差出スヘシ但届出ツヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ届出ツヘシ

第四十四條　坑内實測圖ハ第三號ノ雛形ニ準シテ調製シ毎年六月末日及十二月末日ノ現況ヲ明示シ各八月末日及二月末日迄ニ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ但前期ニ差出シタル坑内實測圖ハ請求ニ因リ之ヲ下付ス

二箇以上ノ鑛區ニ付キ合併施業ヲ爲ス場合ニ於テハ坑内實測圖モ亦合併シテ之ヲ調製スヘシ

第四十五條　鑛業條例第三十一條第三項ノ規定ニ依リテ坑内實測圖ノ證明ヲ得ントスル者ハ其ノ事由ヲ記載シタル請求書ヲ差出スヘシ

第四十六條　鑛業條例第三十五條ノ規定ニ依リテ鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スル者ハ請求書二通ヲ作リ之ニ對手人ノ氏名、住所及請求ノ理由ヲ記載シ請求人ノ出願セントスル試掘地又ハ鑛區ノ圖

面ヲ添附シテ之ヲ差出スヘシ

鑛業條例第五十五條第一項ノ規定ニ依リテ鑛山監督署長ノ判定ヲ請求スル者ハ請求書及對手人ノ數ニ相當スル副本ヲ作リ之ニ請求ニ關スル土地ノ種目、番號、坪數、地價、對手人ノ氏名、住所、請求ノ事項竝ニ理由對手人ト協議シタル事實及請求人ニ於テ仕拂ハントスル金額ヲ記載シ關係土地ノ實測圖及工事設計書ヲ添附シテ之ヲ差出スヘシ

鑛業條例第三十六條又ハ第五十五條第二項ノ規定ニ依リテ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スル者ハ前二項ノ規定ニ從ヒテ作リタル請求書ニ判定書ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

第四十七條　鑛山監督署長カ前條ノ請求書ヲ受理シタルトキハ之ヲ對手人ニ送付スヘシ

對手人カ請求書ノ送付ヲ受ケタルトキハ三十日以內ニ辯明書ヲ差出スヘシ

對手人カ前項ノ期間內ニ辯明書ヲ差出サヽルトキハ鑛山監督署長又ハ農商務大臣ハ其ノ辯明書ノ差出ヲ待タスシテ判定又ハ裁定スルコトアルヘシ

第四十八條　相續ニ因リテ鑛業人ト爲リタル者又ハ氏名ヲ變更シタル鑛業人ハ戶籍吏ニ屆出テタル日ヨリ三十日以內ニ其證明ヲ受ケ且鑛業特許證又ハ借區券ヲ添附シテ所轄鑛山監督署長ニ屆出テ其ノ訂正ヲ受クヘシ

鑛業出願人カ死亡シタルトキ又ハ其ノ氏名ヲ變更シタルトキハ前項ニ準シテ屆出ヲ爲スヘシ

第四十九條　會社カ鑛業出願人又ハ鑛業人タル場合ニ於テ其ノ社名又ハ代表者ヲ變更シ其ノ營業所ヲ移轉シ又ハ會社カ解散シタルトキハ十日以內ニ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署長ニ屆出ツヘシ

第五十條　鑛業出願人又ハ鑛業人ニ命令通知ヲ要スルコトアル場合ニ於テ其ノ住所カ不分明ナルトキハ十日間其ノ要旨ヲ所轄鑛山監督署ノ掲示場ニ掲示スヘシ此ノ場合ニ於テハ其ノ期間ノ末日ニ

命令通知ヲ受ケタルモノト看做ス

第五十一條　鑛業條例第三十條、第三十三條第二項、第三十四條第二項、第四十三條第二項若ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ行政裁判所ニ出訴シタル者又ハ同第三十四條第一項ノ規定ニ依リテ農商務大臣ニ訴願シタル者ハ七日以內ニ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署長ニ屆出ツヘシ

第五十二條　鑛業條例第二十八條、第二十九條、第四十三條第一項若ハ第七十六條ノ規定ニ依リテ採掘特許ヲ取消シ又ハ同第三十七條ノ規定ニ依リテ廢業ヲ屆出テタル場合ニ於テ其ノ採掘權ニ對シ抵當權ヲ有スル債主アルトキハ所轄鑛山監督署長ハ之ヲ其ノ債主ニ通知スヘシ

第五十三條　試掘又ハ採掘ハ廢業屆書差出ノ日時ニ於テ廢業シタルモノト看做ス

第五十四條　左ノ場合ニ於テハ鑛業人ヲ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　坑內實測圖ニ記載スヘキ事項ヲ記載セス又ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキ

二　第二十五條又ハ第二十六條ノ規定ニ依リテ書類又ハ圖面ノ差出ヲ命セラレタル場合ニ於テ指定ノ期日迄ニ之ヲ差出サヽルトキ

三　第二十八條ノ規定ニ違反シテ立會ヲ爲サス又ハ調査事項ノ說明ヲ爲サヽルトキ

四　第三十八條ノ書類又ハ圖面ヲ備ヘ置カサルトキ

五　第三十六條、第四十二條、第四十三條、第四十八條、第四十九條、第五十一條、第六十條又ハ鑛業條例第三十九條ノ規定ニ違反シテ屆出ヲ爲サヽルトキ

第五十五條　前條ノ規定ハ鑛業代理人及會社ノ代表者ニ之ヲ適用ス

附　則

第五十六條　鑛業條例施行以前ニ差出シタル試掘願書又ハ借區願書ニシテ本令施行ノ日迄ニ處分ヲ終ラサルモノハ鑛業條例ニ依レル試掘願書又ハ採掘願書ト看做シ處分スヘシ

第五十七條　本令施行以前ニ差出シタル願書又ハ請求書ニシテ本令施行ノ日迄ニ處分ヲ終ラサルモノハ本令ニ依レル願書又ハ請求書ト看做シ處分スヘシ

第五十八條　本令施行以前ニ差出シタル願書又ハ請求書ニシテ明治二十七年勅令第百號ニ定メタル手數料ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタルモノハ明治三十二年勅令第四號施行ノ後ト雖モ仍ホ有效トス

第五十九條　本令施行以前ニ差出シタル區域變更願書ハ本令施行ノ後ト雖モ仍ホ有效トス

第六十條　本令施行ノトキニ於テ會社カ鑛業出願人又ハ鑛業人タル場合ニ於テハ本令施行ノ日ヨリ三十日以內ニ其ノ代表者ヲ所轄鑛山監督署長ニ屆出ツヘシ

第六十一條　本令施行前ノ行爲ニ付テハ其ノ施行ノ後ト雖モ明治二十七年農商務省令第六號ニ定メタル罰則ヲ適用ス

第六十二條　本令ハ明治三十二年二月十日ヨリ施行ス

第六十三條　明治二十七年農商務省令第六號及明治二十九年農商務省令第七號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

書式（用紙美濃紙）

第一號（正副二通）

何鑛試掘認可願

何府縣國郡市町村大字內別紙試掘地（略測）圖ニ詳記セル箇所ニ於テ何鑛試掘致度候間認可相成度此段相願候也

年　月　日

住所族籍
願人氏　名印

何鑛山監督署長氏名殿

（注意　試掘地圖五枚又ハ試掘地略測圖三枚ヲ添付シ適宜契印スヘシ）

（共同人アラハ連署連印シ出願總代ノ肩書ヲ爲ス）

第二號（正副二通）

何鑛試掘地訂正願

一何年何月何日認可第何號

何府縣國郡市町村何鑛試掘地何坪

增（又ハ減）何郡市町村大字小字何坪

合計（又ハ差引）何坪

右試掘地何々（事由ヲ記ス）ノ爲メ別紙訂正試掘地圖詳記ノ通區域訂正致度候間認可相成度此段相願候也

年　月　日

住所族籍
鑛業人　氏　名印

何鑛山監督署長氏名殿

（注意　訂正試掘地圖五枚ヲ添付シ適宜契印スヘシ）

第三號（正副二通）

何鑛試掘延期願

一何年何月何日認可第何號

何府縣國郡市町村何鑛試掘地

右試掘地何々（試掘ノ成績及事業ヲ竣ヘ難キ事由詳記）ノ爲メ年限繼續試掘致度候間認可相成度此段相願候也

年　月　日

住所族籍
鑛業人　氏　名　印
（又ハ總代若ハ鑛業代理人氏名印）

何鑛山監督署長氏名殿

第四號（正副二通）

何鑛採掘特許願

何府縣國郡市町村大字內別紙鑛區（略測）圖ニ詳記セル箇所ニ於テ何鑛存在致候ニ付キ採掘致度候間特許相成度此段相願候也

年　月　日

住所族籍
願人　氏　名　印
（共同人アラハ連署連印シ出願總代ノ肩書ヲ爲ス）

農商務大臣氏名殿

（注意　鑛區圖五枚又ハ鑛區略測圖三枚ヲ添附シ適宜契印スヘシ）

第五號（正副二通）

何鑛區訂正願

一何年何月何日特許第何號
何府縣國郡市町村何鑛區何坪

增（又ハ減）何郡市町村大字小字何坪
合計（又ハ差引）何坪

右鑛區何々（事由ヲ記ス）ノ爲メ別紙訂正鑛區圖詳記ノ通訂正致度候間許可相成度鑛業特許證相添此段相願候也

年　月　日

住所族籍
鑛業人　氏　名　印

農商務大臣氏名殿

（注意　訂正鑛區圖五枚ヲ添附シ適宜契印スヘシ）

第六號（正副二通）

鑛業條例第九十條ニ依ル何鑛採掘特許願

一借第何號
何府縣國郡市町村何鑛借區

右借區年限滿期後引續キ鑛業致度候間特許相成度鑛區圖及借區券相添此段相願候也

年　月　日

住所族籍
鑛業人　氏　名　印
（又ハ總代若ハ鑛業代理人氏名印）

農商務大臣氏名殿

（注意　鑛區圖三枚ヲ添附シ適宜契印スヘシ）

第七號（正副二通）

何鑛區合併願

一何年何月何日特許第何號
何府縣國郡市町村何鑛區何坪
一何年何月何日特許第何號
何府縣國郡市町村何鑛區何坪
合計何坪

右ノ鑛區別紙合併鑛區圖詳記ノ通合併致度候間許可相成度鑛業特許證相添此段相願候也

住所族籍
鑛業人　氏　名印

年　月　日

農商務大臣氏名殿

（注意　合併鑛區圖三枚ヲ添附シ適宜契印スヘシ）

第八號（正副二通）

何鑛區分割願

一何年何月何日特許第何號
何府縣國郡市町村何鑛區何坪
此分割
何府縣國郡市町村何坪
何府縣國郡市町村何坪

右ノ通鑛區分割致度候間別紙分割鑛區圖及鑛業特許證相添此段相願候也

住所族籍
鑛業人　氏　名印

年　月　日

農商務大臣氏名殿

（注意　分割鑛區圖各三枚ヲ添附シ適宜契印スヘシ）

第九號（正副二通）

鑛業特許證書換願

一何年何月何日特許第何號
何府縣國郡市町村何鑛

右ノ採掘權今般賣買（讓與）ノ契約相整候間鑛業特許證書換相成度鑛業特許證相添此段相願候也

住所族籍
賣渡（讓渡）人　氏　名印
住所族籍
買受（讓受）人　氏　名印
（共同買受又ハ讓受人アラハ連署連印シ出願總代ノ肩書ヲ爲ス）

年　月　日

農商務大臣氏名殿

第十號（正副二通）

採掘權書入登錄願

一何年何月何日特許第何號
何府縣國郡市町村何鑛

右今般債權者某ニ書入契約相整候間登錄相成度契約書謄本及鑛業特許證相添此段相願候也

年　月　日

何鑛山監督署長氏名殿

第十一號（正副二通）

鑛業特許證（鑛區又ハ試掘地許可圖）再下付願

一何年何月何日特許（認可）第何號

何府縣國郡市町村何鑛

右特許證（鑛區又ハ試掘地許可圖）何々（事由ヲ記ス）ノ爲メ毀損（亡失）致候間再下付相成度此段相願候也

年　月　日

住所族籍
鑛業人　氏　名　印
住所族籍
債權者　氏　名　印

第十二號

農商務大臣氏名殿（許可圖再下付願ハ所轄鑛山監督署長宛）

登錄稅（手數料）上納書

一何々願（屆又ハ請求）

印紙　印紙

住所族籍
鑛業人　氏　名　印
（又ハ總代若ハ鑛業代理人氏名印）

年　月　日

（雛形略ス）

願人（屆出人又ハ請求人）　氏　名　印

○鑛業ニ關スル登錄稅額　明治三十二年三月二十二日法律第八十三號第十四條摘載

一　試掘　金七十五圓
二　採掘　金百五十圓
三　試掘增區及增減區ニ係ル訂正　金三十圓
四　採掘增區及增減區ニ係ル訂正　金七十五圓
五　買受、讓受　金七十五圓
六　採掘權書入又ハ試掘延期　金二十圓
七　減區ニ係ル訂正　金五圓
八　鑛區ノ合併又ハ分割　金十五圓
九　廢業　金五圓

○鑛業條例第十四條及第四十五條ニ依ル旅費日當納付手續　明治二十五年四月六日省令第九號

第一條　鑛業條例第十四條第一項第三十一條第四項及第四十五條第一項ニ依リ吏員ノ出張ヲ命シタルトキハ鑛山監督署長ハ出張吏員ノ氏名及ヒ旅費日當ノ概算額ヲ出願人又ハ鑛業人ニ通知スヘシ

第二條　出願人又ハ鑛業人ハ前條ノ通知書到達ノ日ヨリ十四日以內ニ旅費日當ノ概算額ヲ出張吏員ニ交付スヘシ

第三條　出張吏員ハ實地臨檢ヲ終ヘタル後旅費日當ノ精算ヲ爲シ過不足アルトキハ鑛山監督長ヨリ

之ヲ出願人又ハ鑛業人ニ通知シ出張吏員ヲシテ超過額ヲ返付シ又ハ不足額ヲ追求セシムヘシ

○鑛業條例第三十一條ニ依リ差出スヘキ坑内實測圖ニ關スル件（明治二十五年三月十六日 告示第五號）

鑛業條例第三十一條ニ據リ差出スヘキ坑内實測圖ハ坑道ノ延長夥多ナル鑛區ニ在リテハ初度ノ分ニ限リ別ニ配付スル雛形ニ從ヒ鑛區ノ全部ヲ千二百分一ニ調製差出シ爾後追補ニ係ル分ハ同雛形ニ準シ增加ノ坑道ノミヲ記載シ差出スモ妨ケナシ此場合ニ於テハ前キニ差出シ置キタル圖面ト接續ノ關係ヲ明瞭ニ記スルコトヲ要ス

○御料地若クハ官有地ニ係ル出願ニ付協議ノ件（鑛山監督署）（明治二十五年四月五日 訓令第七號）

試掘若クハ採掘ノ出願御料地若クハ官有地ニ係ルトキハ主管ノ官廳ニ協議ヲ遂クヘシ

○鑛業、砂鑛採取業出願地名其他ニ付報告請求ノ件（道廳、府縣、監督署）（明治三十二年三月一日 訓令第一三號）

鑛山監督署長ハ鑛業砂鑛採取業出願地ノ地名、地種目ノ異同、出願地ニ鑛業條例第二十四條及第二十五條ニ掲ケタルモノヽ有無又ハ出願地内ノ土地所有者ニ關スル事實判明ナラサルトキハ出願地ノ支廳長、郡市長、島司又ハ之ニ準スルモノニ其ノ報告ヲ請求スヘシ

廳、府縣長官ハ管内ノ支廳長、郡市長、島司又ハ之ニ準スルモノヲシテ前項ノ請求ヲ受ケタル場合ニ遲滯ナク其ノ報告ヲ爲サシムヘシ

○鑛業條例第七十四條ニ依ル鑛業稅賦課ノ標準價格改正ノ件（明治三十三年十二月二十八日 告示第一四三號）

明治二十三年（九月）法律第八十七號鑛業條例第七十四條ニ據リ鑛業稅賦課ノ標準トスル鑛業製產物ノ價格ヲ左ノ通改正ス

但左ニ掲ケサル鑛業製產物ハ總テ販賣代價ニ據ル

一金	一匁ニ付	四・九九円	一安質母尼　同　一九・六〇円
一銀	同	〇・一四	一硫化安質母尼　同　一〇・四六
一銅	百斤ニ付	三八・六三	一石炭及石油

石炭

產地	石炭塊	石炭粉	一萬斤ニ付 切込炭	無煙炭	一煙炭	石
福岡縣遠賀郡	一六・六八円	一〇・〇六円	一四・二八円	—	—	—
同　鞍手郡	二一・八六	一四・七九	一八・八〇	—	—	—
同　嘉穗郡	二二・三六	一四・八九	一六・七四	—	—	—
同　田川郡	二六・〇六	一三・四〇	一九・五二	—	—	—
同　粕屋郡	二〇・七五	八・二五	一四・一三	—	—	—
同　三池郡三池	三〇・七一	一三・七八	二三・五三	—	—	—
佐賀縣東松浦郡	一八・六八	五・五五	一一・五八	—	—	—
同　杵島郡	一八・〇四	五・六二	—	—	—	—
同　小城郡	一七・〇〇	五・三三	八・五八	—	—	—

長崎縣西彼杵郡	高島端島	四二・〇〇	三五・一〇	三八・二四	—	—
同	松島	一三・一三	五・五四	八・八六	—	—
同	北松浦郡	一〇・六二	六・三七	六・三三	—	—
山口縣	厚狹郡	一・五四	四・四四	八・一八	—	—
和歌山縣	東牟婁郡	—	—	—	一八・六六	—
三重縣	南牟婁郡					
茨城縣	多賀郡	二・九二	—	一九・五五	—	—
福島縣	石城郡	二〇・三八	一・四五	—	—	—
雙葉郡						
北海道	空知郡	三六・七五	二三・三四	二八・九五	—	—
夕張郡						

石油

新潟縣	中蒲原郡	一石三付 円 七・六	同	古志郡	一石三付 円 三・四八	
同	三島郡尼瀬町	七・〇〇	同	中頸城郡	六・四一	
同	刈羽郡	二・〇六				

○出願地又ハ許可地ニ於テ他ノ鑛物ノ試掘又ハ採掘出願手續ノ件 明治三十三年三月十九日 省令第四號

第一條　鑛業出願人又ハ鑛業人其ノ出願地又ハ許可地ニ於テ他ノ鑛物ノ試掘又ハ採掘ヲ出願セントスルトキハ新規出願ノ手續ニ依ルヘシ

第二條　本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○鑛業及砂鑛採取業ニ關スル出願又ハ請求ニ要スル手數料ノ件 明治三十三年四月十七日 勅令第一五〇號

鑛業及砂鑛採取業ニ關シ左ニ掲クル出願又ハ請求ヲ爲ス者ハ收入印紙ヲ以テ毎件左ノ手數料ヲ納ムヘシ

一　採掘特許出願人變更願　金十圓
二　坑內實測圖證明請求　金十圓
三　測量認可願　金五圓
四　鑛業特許證再下付願　金五圓
五　鑛業條例第九十條ニ依ル採掘特許願　金十圓
六　鑛區圖又ハ試掘地許可圖再下付願　金五圓
七　鑛區圖又ハ試掘地許可圖修正願　金五圓
八　砂鑛採取願　金十圓
九　砂鑛採取許可地合併又ハ分割願　金五圓
十　砂鑛採取許可地增區訂正願　金十圓
十一　砂鑛採取出願中增區訂正願　金十圓
十二　砂鑛採取業讓渡願　金十圓
十三　砂鑛採取人加名願　金十圓
十四　砂鑛採取出願人變更願　金十圓

十五　砂鑛採取地許可圖再下付願　金五圓
十六　砂鑛採取地許可圖修正願　金五圓
十七　鑛山監督署長ノ判定請求　金十圓
十八　農商務大臣ノ裁定請求　金十圓

前項第八號、第十號及第十一號ノ出願ニ就キテハ河床ニ在リテハ延長二里迄毎ニ其ノ他ニ在リテハ十萬坪迄毎ニ一件分ノ手數料ヲ納ムヘシ

附　則

本令ハ明治三十三年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年勅令第四號ハ之ヲ廢止ス

○鑛業條例第九十三條ニ依ル採掘出願手續ノ件　明治三十三年三月三十日　省令第六號

第一條　鑛業條例第九十三條ノ規定ニ依リ採掘ノ特許ヲ出願スル者ハ願書及圖面ニ左ノ書類ヲ添附スヘシ

一　事業ノ現狀ヲ詳記セル書類及圖面

二　明治三十二年十一月三十日以前ヨリ引續キ出願鑛物ヲ採取セルコトヲ證スル書類、圖面等

第二條　前條ノ出願人其ノ採取區域以外ニ涉リ採掘ノ特許ヲ出願スルトキハ其ノ理由書ヲ差出スヘシ

第三條　本令ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

○鑛物標品差出方ノ件　明治二十五年三月十六日　告示第四號

鑛業條例施行細則ノ鑛物標品ハ方一寸以上三寸以下ノモノヲ箱詰トシ箱ノ內外ニ採取地名、出願年月日及願人ノ氏名ヲ明記シテ差出スヘシ

但鑛物流動體ナルトキハ三勺以上一合以下ヲ同樣封裝ニテ差出スヘシ

○鑛業ニ關スル書類書留郵便ヲ以テ差出ストキ封筒ニ朱書ノ件　明治三十二年七月一日　告示第六三號

鑛業條例施行細則ノ定ムル所ニ依リ書留郵便ヲ以テ書類又ハ圖面ヲ差出ストキハ自今其封筒ノ表面ニ「鑛業ニ關スル書類(又ハ圖面)」ト朱書スヘシ

○明治三十二年五月一日以降改正鑛業特許證樣式　明治三十二年四月二十六日　告示第三三號

雛形(第一面ノ輪廓形狀ヲ略ス、(一)ヲ附スルモノハ記載ノ例ナリ示スモノナリ第二面及第三面ハ賣買讓與書入等ヲ記載スル位置ナリ)

注　意

一農商務大臣採掘ノ特許ヲ與フルトキハ鑛業特許證ヲ下付スヘシ特許證ニハ特許ノ鑛區圖ヲ添附ス

一採掘權ヲ賣買讓與スルトキハ所轄鑛山監督署ヲ經由シテ農商務大臣

ニ出願シ鑛業特許證ノ書換ヲ受クルニ非サレハ法律上其ノ效ナキモノトス

一採掘權ノ書入ハ所轄鑛山監督署ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ法律上其ノ效ナキモノトス

一鑛業特許證ヲ毀損若ハ亡失シタルトキハ事由ヲ具シ所轄鑛山監督署ヲ經由シテ其ノ再下付ヲ農商務大臣ニ出願スヘシ

一鑛業人廢業シタルトキハ鑛業特許證ヲ返納スヘシ

第四面

二尺七寸壹分

第　號

鑛業特許證

何府縣族籍

折リ目

第一面

何鑛山

何府縣國郡村地內

坪

何某

前記名之者ニ對シ第　號鑛區圖ノ區域ニ於テ　鑛ノ採掘ヲ特許ス

明治　年　月　日

農商務大臣

氏名印

九寸二分

第二面

一尺七寸壹

折リ目

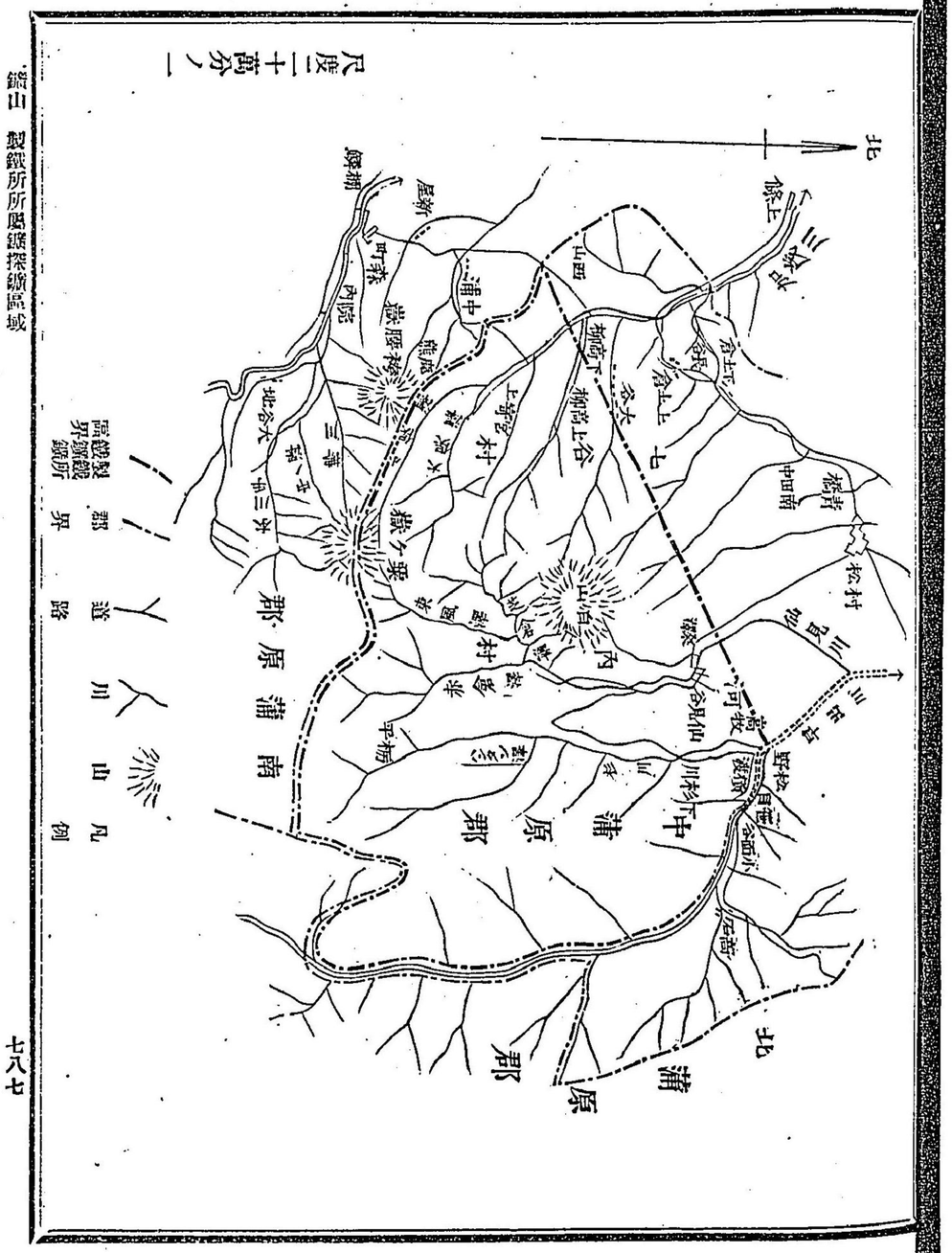
第三面

分

九寸二分

○製鐵所所屬鐵鑛探鑛區域ノ件　明治三十三年十二月二十五日　告示第四一號

明治三十二年告示第五十號新潟縣越後國北蒲原郡中蒲原郡東蒲原郡南蒲原郡ニ亘ル製鐵所所屬鐵鑛探鑛區域中中蒲原郡早出川ト杉川トノ落合點ヨリ早出川ノ上流ニ沿ヒ中蒲原郡境ト分離スル點ニ到リ更ニ中蒲原、南蒲原両郡境ニ沿ヒ森町ト川内村大字下高柳間ニ開鑿セル縣道交叉點ニ到リ此點ヨリ直線ニ早出川杉川落合點ニ達スル左記圖面區域ヲ自今製鐵所所屬鐵鑛區ト定メ其他ノ區域ハ製鐵所所屬鐵鑛探鑛區域タルコトヲ廢止ス


北
尺度二十萬分ノ一
三條
長岡
新潟
中蒲原郡
東蒲原郡
南蒲原郡
那原蒲南
蒲原郡
早出川
杉川
中蒲原郡
東蒲原郡
南蒲原郡
鐵山
製鐵所
鐵山
鐵山
鐵山

○鑛業警察規則

明治二十五年三月十六日
省令第七號

三十二年八月省令第二八號ヲ以テ第二條改正

第一條　鑛夫五十人以上ヲ同時ニ入坑セシムル鑛山ニハ坑内ノ奥部ニ於テ連續シ且何時ニテモ出入シ得ヘキ裝置ヲ爲シタル二箇以上ノ坑口ヲ設クヘシ但同時ニ入坑セシムル鑛夫五十人未滿ノ鑛山ト雖モ鑛山監督署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ本文ノ坑口ヲ設ケシムルコトアルヘシ

第二條　堅坑ノ坑口ニハ安全柵ヲ設ケ主要ノ坑道ニハ通信機ヲ設クヘシ

第三條　卷揚臺ヲ用ヰテ人ヲ昇降セシムル竪坑ニハ板圍アル堅牢ノ梯子道ヲ設クヘシ

第四條　堅坑内ニ架設スヘキ梯子ノ傾斜ハ八十度以内トシ少クトモ三十尺毎ニ蹈棚ヲ設クヘシ

第五條　人ヲ昇降セシムル卷揚臺ニハ上蓋ヲ備フヘシ

前項ノ卷揚臺ニ用ヰル繩綱ハ少クトモ重量ノ十倍ニ耐ユルモノヲ要シ昇降ノ速力ハ一分時間ニ六百尺ヲ超ユルコトヲ得ス

廿六年三月十八日省令第七號ニテ第五條ヲ削除シ第六條ヲ第五條ニ改メ同條中「安全機及」ノ四字ヲ削ル

第六條　人ヲ通行セシムル坑内ノ自轉車道及機械卷揚道ニハ軌道ノ一方ニ通行ニ差支ナキ人道ヲ設クヘシ

前項ノ人道ヲ設ケサルトキハ軌道ノ傍側ニ於テ便宜避害所ヲ設ケ白色ニ塗リ置クヘシ

全上省令ヲ以テ第七條ヲ第六條ニ改メ下ノ如ク改正

第七第　交通運搬ニ供スル坑道ハ幅三尺高五尺以上タルヘシ

第八條　坑内ニハ鑛夫ノ衞生上必要ナル分量ノ新鮮空氣ヲ給送スヘシ

所轄鑛山監督署長ニ於テ必要ト認ムルトキハ豫備ノ通風機ヲ設ケシムルコトヲ得

三十二年八月省令第二八號ヲ以テ第八、九條改正

石炭坑ニ於テハ第一項ノ通氣量ヲ二倍以上ニ增加スヘシ

石炭坑ニ於テハ測風器、氣壓計、驗溫器ヲ備ヘ置キ鑛山係員ヲシテ少クトモ毎日其經過ヲ特別ノ帳簿ニ記載セシムヘシ

全上ヲ以テ第十條第一項追加

鑛業人ハ鑛山係員ヲ選定シ履歷書ヲ添ヘ所轄鑛山監督署ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　石炭坑ニ於テハ鑛山係員ヲシテ安全燈ヲ携ヘ鑛夫就業前ニ坑内各工場ヲ巡視セシムヘシ

若シ危際ノ虞アルトキハ相當ノ豫防法ヲ施行シタル後ニ非サレハ鑛夫ヲ入坑セシムルコトヲ得ス

石炭坑ニ於テハ安全燈十箇以上ヲ備ヘ置クヘシ

石炭坑ニ於テ鑛夫ノ携帶スル提燈ニハ石油ヲ使用セシムルコトヲ得ス

石炭坑ニ於テハ人命救護及消防ニ關スル設備ヲ爲シ所轄鑛山監督署長ノ認可ヲ受クヘシ此ノ設備ハ鑛業人數名申合ハセ之ヲ爲スコトヲ得

石油坑口及貯油場ヨリ十間以内ニ於テハ發火具及危險ナル燈火ヲ使用スルコトヲ得ス

第十條　破裂瓦斯ヲ發出スル坑内各工場ニ於テハ鑛夫ヲシテ安全燈ヲ携帶セシムヘシ

安全燈ハ鑛夫ノ入坑毎ニ破損其他危險ノ虞ナキヤ否ヤヲ檢査シ鎖鑰ヲ施シタル後ニ非サレハ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス

第十一條　安全燈ヲ開クコトヲ得ス

鑛夫ハ安全燈ヲ用ヰル坑内ニ於テハ鑛夫ハ發火具ヲ携帶スルコトヲ得ス

第十二條　鑛業人ハ一日間ノ使用見積高ヨリ多量ノ破裂藥ヲ鑛夫ニ渡スコトヲ得ス

使用ノ後殘餘アルトキハ出坑ノ節坑口ニ於テ還付セシムヘシ

第十三條　裝藥ノ際鐵製込棒ヲ使用スルコトヲ得ス又込土ハ粘土其他發火ノ虞ナキ土類ノ外使用スルコトヲ得ス

導火線ニ點火スルモ破裂セサルトキハ點火後少クトモ十五分間ハ同場所ニ近寄ルコトヲ得ス

三十二年二月一日省令第五號及八月省令第二號ヲ以テ第二十四條改正第十六條追加

前項ノ場合ニ於テハ其破裂藥ハ之ヲ掘出スルコトヲ得ス

第十四條　鑛業ニ使用スル煙突、瀉罐選鑛場、燒鑛場又ハ製錬場ヲ新設セントスルトキハ使用ノ目的ヲ記シタル設計書及圖面ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出シ認可ヲ受クヘシ

發電機ヲ新設シタルトキハ使用ノ目的ヲ記シ其旨ヲ所轄鑛山監督署ニ屆出ツヘシ

第十五條　同一鑛内ニ於テ二人以上ノ鑛業人各自ニ試掘若クハ採掘ノ認可ヲ得タル鑛物ノ鑛脈交叉スルトキハ各鑛業人ハ互ニ鑛利ヲ損セサル樣協議ノ上試掘又ハ採掘スヘシ若シ協議整ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ノ指定スルトコロニ依ルヘシ

第十六條　試掘ノ認可若クハ採掘ノ特許ヲ取消サレタルトキ又ハ廢業シタルトキハ危險ノ虞アル坑口ヲ閉塞シ後害ナキ樣修理スヘシ

前項ノ工事ヲ完成シタルトキハ直ニ所轄鑛山監督署長ニ屆出ツヘシ

二十六年省令第七號ヲ以テ本條ヲ追加ス

第十七條　鑛業條例第五十九條第一項ノ場合ニ於テ鑛業人危險ノ豫防ヲ完成シタルトキハ所轄鑛山監督署長ニ屆出ツヘシ

第十八條　農商務省鑛山局員及監督署員ハ鑛業ヲ臨視シ若クハ鑛業ニ關スル總テノ帳簿ヲ査閲スルコトヲ得

第十九條　鑛山ニ於テ不時ノ變災アリタルトキハ鑛業人ハ直ニ所轄鑛山監督署ニ其事由ヲ屆出ヘシ

第二十條　鑛業條例第六十四條第二項ノ鑛夫使役規則及同條例第七十二條ノ救恤規則ハ鑛夫ノ視易キ場所ニ掲ケ置クヘシ

第二十一條　鑛山ノ狀況ニ依リ本則第一條第三條又ハ第四條ノ規定ヲ實施シ難キトキハ理由ヲ具シ所轄鑛山監督署長ニ出願シ其免除ヲ受クヘシ

三十二年二月省令第五號及八月省令第二號ヲ以テ第二十二條改正

第二十二條　鑛業人鑛山係員又ハ鑛夫カ本則ニ違反シタルトキハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ規定ハ鑛業代理人及會社ノ代表者ニ之ヲ適用ス

第二十三條　本則實施以前ニ許可ヲ得タル鑛山ニシテ本則ニ違フモノハ明治二十五年九月三十日迄ニ相當期限ヲ定メ實施ノ延期ヲ所轄鑛山監督署長ニ出願スヘシ

前項ノ期限ハ本則實施ノ日ヨリ五箇年ヲ超過スルコトヲ得ス

第二十四條　本則ハ鑛業條例實施ノ日ヨリ施行ス

二十八年四月十三日法律第三十號ヲ以テ第一條ヲ挿入シ現行法第四條ヲ第三條ト以下順次繰下ク

○砂鑛採取法　明治二十六年三月四日　法律第一〇號

第一條　此ノ法律ニ於テ砂鑛トハ砂金、砂錫及砂鐵ヲ謂フ

第二條　砂鑛ヲ採取セント欲スル者ハ所轄鑛山監督署長ヲ經由シ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　採取ノ事業ヲ讓渡サムトスルトキハ所轄鑛山監督署長ヲ經由シ農商務大臣ノ許可ヲ受クヘシ

共同採取人中ニ於テ除名スルトキハ其人名ヲ所轄鑛山監督署長ニ屆出ヘシ

第四條　帝國臣民ニ非サレハ採取人トナリ又ハ採取業ニ關スル組合員又ハ會社員トナルコトヲ得ス

採取人未成年、瘋癲、白痴又ハ瘖瘂ナルトキハ後見人ヲ立ツヘシ

農商務省鑛山局及鑛山監督署ノ官吏ハ在職中採取人トナリ又ハ採取業ニ關スル組合員又ハ會社員トナルコトヲ得ス

第五條　採取區域內ノ土地他人ノ所有ニ係ルトキハ所有者又ハ關係人ノ承認ヲ受クヘシ
土地所有者又ハ關係人ハ自ラ採取ヲ出願スルトキノ外前項ノ承諾ヲ拒ムコトヲ得ス但シ承諾ヲ與フルトキハ相當ノ砂鑛採取料ヲ要求スルコトヲ得
第六條　採取ノ事業公益ヲ害スト認ムルトキハ農商務大臣ハ其ノ出願ヲ許可セス
第七條　採取ノ事業公益ニ害アルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スコトヲ得
第八條　採取業上ニ危險ノ虞アリ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ所轄鑛山監督署長ハ採取人ニ其豫防ヲ命シ又ハ採取業ヲ停止スヘシ
所轄鑛山監督署長ニ於テ採取業ヲ停止セムトスルトキハ其ノ猶豫シ難キ場合ヲ除クノ外ハ農商務大臣ノ認可ヲ經ヘシ
採取業ヲ停止シタル後其ノ事故止ミタルトキハ所轄鑛山監督署長ハ其ノ停止ヲ解クヘシ
第九條　採取人前條ニ依リ命セラレタル豫防ヲ怠ルトキハ農商務大臣ハ既ニ與ヘタル許可ヲ取消スコトヲ得
第十條　採取人正當ノ理由ナクシテ一ケ年以上休業シ又ハ採取ノ許可ヲ受ケタル日ヨリ一ケ年以內ニ採取ニ着手セサルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得
第十一條　詐僞又ハ錯誤ニ由リ採取ノ許可ヲ得タルコトヲ發見シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ許可ヲ取消スヘシ若其ノ許可ニ付利害ノ關係ヲ有スル者ニ於テ之ヲ發見シタルトキハ許可ノ日ヨリ三十日以內ニ其ノ取消ヲ農商務大臣ニ請求スルコトヲ得
第十二條　第七條第九條第十條及第十一條ノ處分ニ不服アルトキハ其ノ達ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得
第十三條　採取許可取消ノ處分ヲ受ケタル採取人ハ同一區域ニ付一ケ年間採取ノ出願ヲ爲スコトヲ得ス
第十四條　左ノ場合ニ於テ採取人他人ノ土地ヲ使用スルコトヲ必要トシ其ノ貸渡ヲ請求シタルトキハ其ノ土地所有者又ハ關係人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
一洗鑛ノ爲
一製錬所建設ノ爲
一洗滌用水路及溜池開設ノ爲
第十五條　採取人ハ使用スル土地ニ對シ其ノ土地所有者ニ相當ノ借地料ヲ仕拂フヘシ
其ノ質入トナリタル土地ニ對スル借地料ハ質取主ニ於テ之ヲ受領スルモノトス
土地使用ニ依リ貸渡人又ハ關係人ニ損害ヲ加フルトキハ採取人ハ之ニ對シ相當ノ賠償ヲ爲スヘシ
第十六條　採取人借地料ノ支拂ヲ延滯シタルトキハ土地所有者ハ其ノ土地ヲ取戻スコトヲ得
第十七條　第十四條ノ場合ニ於テ採取人五箇年以上土地ヲ使用スルトキハ其ノ土地所有者ハ土地ノ買取ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ採取人ハ其ノ買取ヲ拒ムコトヲ得ス
第十八條　採取人ノ請求ニ依リ土地ヲ分割シテ賣渡シ又ハ貸渡シタルカ爲殘地ノ利用ヲ害スルトキハ土地所有者ハ採取人ニ對シ其ノ土地全部ノ買取若ハ借受ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ニ於テ採收人ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス
第十九條　土地所有者又ハ關係人ト採取人トノ間ニ於テ土地貸渡、採取料、借地料、損害賠償金又ハ土地賣買代金ニ付協議調ハサルトキハ所轄鑛山監督署長ニ其ノ判定ヲ請求スルコトヲ得
所轄鑛山監督署長ノ判定ニ不服アルトキハ其ノ判定ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ土地貸渡ニ就テハ農商務大臣ニ其ノ裁定ヲ請求シ採取料、借地料、損害賠償金若ハ土地賣買代金ニ就テハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得

前項農商務大臣ノ裁定ニ對シテハ他ニ出訴スルコトヲ得ス

第二十條　所轄鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定請求ノ爲ニ要スル費用ハ民事訴訟費用ノ例ニ依リ負擔スヘキモノトス

第二十一條　採取人ハ土地所有者又ハ關係人ニ於テ所轄鑛山監督署長ノ判定シタル採取料、借地料、損害賠償金又ハ土地賣買代金ニ不服アルモ其ノ金額ヲ土地所有者又ハ關係人ニ渡シ若之ヲ受ケサルトキハ其ノ金額ヲ供託所ニ預置キ土地ヲ使用スルコトヲ得

第二十二條　許可ヲ得スシテ採取ヲ爲シタル者又ハ詐僞ニ由リテ許可ヲ得タル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

附則

第二十三條　此ノ法律施行以前ニ許可ヲ得タル採取人ハ此ノ法律ニ依リ引續キ其業ヲ爲スコトヲ得

第二十四條　砂鑛採取ノ警察其ノ他國土保安ニ關シ必要ナル規定及此ノ法律ノ施行細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

第二十五條　此ノ法律ハ明治二十六年四月一日ヨリ施行ス

○砂鑛採取法施行細則　明治三十二年二月一日省令第四號

第一條　砂鑛採取ニ關スル願書及添附實測圖ハ本令ニ定メタル書式及雛形ニ準シテ之ヲ調製スヘシ

前項ノ願書ニハ第四號ノ書式ニ準シ明治三十二年勅令第四號ニ定メタル手數料ニ相當スル收入印紙ヲ貼用シタル上納書ヲ添附スヘシ

第二條　採取區域內ノ土地カ他人ノ所有ニ係ルトキハ採取願書ニ土地所有者又ハ關係人ノ承諾書ヲ添附スヘシ若シ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

前項ノ書類ヲ添附セサル採取願書ハ之ヲ受理セス

第三條　土地所有者又ハ關係人カ採取ノ出願ヲ承諾セサルトキハ所轄鑛山監督署長ハ六十日以上ニ於テ期日ヲ指定シ其ノ土地所有者又ハ關係人ニ採取願書ノ差出ヲ命スヘシ若シ其ノ期日迄ニ願書ヲ差出サヽルトキハ出願セサルモノト看做ス

第四條　砂鑛採取ニ關スル書類ヲ郵便ニテ差出シタルトキハ發送郵便局ノ消印ニ依リテ差出ノ日ヲ定ムルモノトス

第五條　鑛業條例施行細則第四十六條及第四十七條ノ規定ハ砂鑛採取法第十一條ノ規定ニ依リテ採取許可ノ取消ヲ請求シ又ハ同法第十九條ノ規定ニ依リテ鑛山監督署長ノ判定又ハ農商務大臣ノ裁定ヲ請求スル場合ニ之ヲ準用ス

第六條　採取人ハ第三號ノ雛形ニ準シテ前年中ノ砂鑛採取業明細表ヲ調製シ毎年二月末日迄ニ之ヲ所轄鑛山監督署長ニ差出スヘシ

採取人カ廢業シ又ハ採取業ヲ讓渡シタルトキハ三十日以內ニ第三號ノ雛形ニ準シテ調製シタル明細表ヲ差出スヘシ

前二項ノ規定ニ依リテ明細表ヲ差出ス場合ニ於テ之ニ記載スヘキ事項ナキトキハ其ノ旨ヲ屆出ツヘシ

第七條　採取人カ廢業シタルトキハ其ノ旨ヲ所轄鑛山監督署長ニ屆出ツヘシ

廢業ノ日ハ前項ノ屆書差出ノ日トス

第八條　鑛業條例施行細則第十三條、第二十一條乃至第二十三條、第二十五條乃至第三十條、第三十二條及第四十八條乃至第五十條ノ規定ハ砂鑛採取ニ之ヲ準用ス

第九條　左ノ場合ニ於テハ採取人ヲ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第六條ノ手續ヲ爲サヽルトキ

二　鑛業條例施行細則第二十五條又ハ第二十六條ノ規定ニ準シテ差出スヘキ書類又ハ圖面ヲ指定ノ期日ニ差出サヽルトキ

三　鑛業條例施行細則第二十八條ノ規定ニ準シテ爲スヘキ立會ヲ爲サス又ハ調査事項ノ說明ヲ爲サヽルトキ

四　鑛業條例施行細則第四十八條、第四十九條又ハ第六十條ノ規定ニ準シテ爲スヘキ屆出ヲ爲サヽルトキ

第十條　前條ノ規定ハ會社ノ代表者ニ之ヲ適用ス

第十一條　本令施行以前ニ差出シタル砂鐵採取願書ハ明治三十二年勅令第四號施行ノ後ト雖モ仍ホ有效トス

第十二條　鑛業條例施行細則第五十七條、第五十八條、第六十條及第六十一條ノ規定ハ砂鑛採取ニ之ヲ準用ス

第十三條　本令ハ明治三十二年二月十日ヨリ施行ス

第十四條　明治二十七年農商務省令第七號ハ本令施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

書式(用紙美濃紙)

第一號(正副二通)

砂(金)(錫)(鐵)採取願

何府縣國郡市町村大字內別紙實測圖ニ詳記セル箇所ニ於テ砂(金)(錫)(鐵)存在候ニ付キ採取致度候間許可相成度此段相願候也

年　月　日

農商務大臣氏名殿

住所族籍

願人氏名　印

(共同人アラハ連署連印シ出願總代ノ肩書ヲ爲ス)

(注意　採取地實測圖四枚ヲ添附シ適宜契印スヘシ)

第二號(正副二通)(河床ニ於ケル採取願ノ分)

砂(金)(錫)(鐵)採取願

何府縣國郡市町村大字何川筋別紙實測圖ニ詳記セル箇所ニ砂(金)(錫)(鐵)存在候ニ付キ採取致度候間許可相成度此段相願候也

年　月　日

農商務大臣氏名殿

住所族籍

願人氏名　印

(共同人アラハ連署連印シ出願總代ノ肩書ヲ爲ス)

(注意　採取地實測圖四枚ヲ添附シ適宜契印スヘシ)

第三號(正副二通)

砂(金)(錫)(鐵)採取業讓渡願

何年何月何日第何號許可

一何府縣國郡市町村大字砂(金)(錫)(鐵)採取地

右採取事業今般讓渡致度候ニ付キ許可相成度此段相願候也

住所族籍

年　月　日

第四號　　農商務大臣氏名殿

手數料上納書

一何々願又ハ請求

印紙　印紙

年　月　日

（雛形略ス）

願人又ハ請求人　氏　名　印

讓渡人　氏　名　印

（共同人アラハ連署連印ス）

住所族籍

讓受人　氏　名　印

（共同人アラハ連署連印ス）

○鑛山監督署官制

明治二十九年八月十二日勅令第二八二號

第一條　鑛山監督署ハ農商務大臣ノ管轄ニ屬シ鑛山監督ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　鑛山監督署ニ左ノ職員ヲ置ク

鑛山監督官

鑛山監督官補

三十四年勅令第四〇號ヲ以テ第四條第五條第六條中人員改正

書記

第三條　鑛山監督署長ハ每署一人監督官ヲ以テ之ヲ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ署中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條　鑛山監督官ハ奏任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ專任廿四人ヲ以テ定員トス鑛山監督署ニ分屬シテ署務ニ從事ス

第五條　鑛山監督官補ハ判任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ專任百三十人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ署務ニ從事ス

第六條　書記ハ判任トシ各鑛山監督署ヲ通シテ專任廿一人ヲ以テ定員トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　鑛山監督署ノ名稱、位置及其管轄區域ハ別表ニ依ル

（別表）

鑛山監督署名稱位置區域管轄區域表

名稱	位置	管轄區域
東京鑛山監督署	武藏國東京（麴町區道三町三番地）	東京府　神奈川縣　埼玉縣　富山縣　群馬縣　新潟縣　岐阜縣　茨城縣　千葉縣　愛知縣　靜岡縣　栃木縣　長野縣　山梨縣

三十四年勅令第四〇號ヲ以テ改正

仙臺鑛山監督署	陸前國仙臺（仙臺市木町末無三十一番地）	宮城縣	嚴手縣
		山形縣	秋田縣
		青森縣	福島縣
大阪鑛山監督署	攝津國大阪（大阪市東區上本町一丁目二番地）	京都府	大阪府
		兵庫縣	奈良縣
		石川縣	滋賀縣
		福井縣	高知縣
		鳥取縣	香川縣
		愛媛縣	島根縣
福岡鑛山監督署	筑前國福岡（福岡市土手ノ町六番地）	長崎縣	大分縣
		福岡縣	熊本縣
		鹿兒島縣	宮崎縣
		廣島縣	山口縣
		三重縣	佐賀縣
		和歌山縣	沖繩縣
		德島縣	
		岡山縣	
札幌鑛山監督署	石狩國札幌（札幌區北三條西七丁目一番地）	北海道	

○鑛山監督署長權限　明治二十五年四月五日訓令第八號

第一條　鑛山監督署長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ法律命令ノ執行及主管事務ノ管理ニ付凡テ其責ニ任ス

三十一年十月十四日訓令第二二號ヲ以テ第二條第三條第四條中改正

第二條　鑛山監督署長ハ管內ヲ巡視シ又ハ必要ノ場合ニ於テ管外ニ出張ヲ爲シ及ヒ部下ノ官吏ニ管內外巡廻出張ヲ命スルコトヲ得

第三條　鑛山監督署長ハ部下官吏ノ歸省看護墓參轉地療養願ヲ許可シ及ヒ除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第四條　鑛山監督署長ハ月俸十五圓又ハ日給五十錢以下ノ傭員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第五條　鑛山監督署長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ之ヲ處辨セシムルコトヲ得

第六條　農商務大臣ニ經伺ヲ要スヘキ事項ハ總テ鑛山局長ヲ經由スヘシ

特許

○特許法　明治三十二年三月一日　法律第三六號

第一條　工業上ノ物品及方法ニ關シ最先ノ發明ヲ爲シタル者若ハ其ノ承繼人ハ此ノ法律ニ依リ特許ヲ受クルコトヲ得

物品ノ發明ニ係ル特許ハ特許ヲ受ケタル者ニ限リ其ノ發明ノ物品ヲ製作、使用、販賣若ハ擴布スルノ權利ヲ有セシム

方法ノ發明ニ係ル特許ハ特許ヲ受ケタル者ニ限リ之ヲ使用若ハ擴布スルノ權利ヲ有セシム但其ノ特許ノ效力ハ同一方法ニ依リ製作セラレタル物品ニ及フモノトス

第二條　左ニ揭クル發明ハ特許ヲ受クルコトヲ得ス

一　飲食物、嗜好物

二　醫藥又ハ其ノ調合法

三　秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ

四　特許出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヰラレタルモノ但シ試驗ノ爲二年以內公ニ知ラレタルモノハ此ノ限ニアラス

第三條　特許ノ年限ハ十五年トシ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

第四條　特許ハ制限ヲ付シ若ハ付セスシテ讓渡シ、共有ト爲シ又ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ特許局ニ請求シ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第五條　特許局ノ官吏ハ在職中特許ヲ有スルコトヲ得ス但シ相續ニ因リ之ヲ取得シ又ハ在職前ヨリ之ヲ有スルトキハ此ノ限ニアラス

第六條　特許ニ關シ出願若ハ請求ヲ爲サントスル者又ハ特許證主ニシテ帝國內ニ住所ヲ有セサルトキハ帝國內ニ住所ヲ有スル者ニ就キ代理人ヲ定ムヘシ

前項代理人ハ此ノ法律及之ニ基キテ發スル命令ノ定ムル所ニ依リ特許局ニ對シテ爲スヘキ手續又ハ特許ニ關スル民事訴訟及告訴ニ付本人ヲ代表スルモノトス

第七條　特許局長ハ特許ニ關スル代理人ヲ適當ナラスト認ムルトキハ其ノ改任ヲ命スルコトヲ得

第八條　特許ニ關スル代理ヲ常業トスル者ハ特許局長ニ願出登錄ヲ受クヘシ

代理業者ノ登錄ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條　前條ニ依リ登錄ヲ受ケタル代理業者ニシテ其ノ業務ニ關シ犯罪又ハ不正ノ行爲アリタルトキハ特許局長ハ其ノ代理業ヲ停止又ハ禁止スルコトヲ得

第十條　特許ニ關シ出願又ハ請求ヲ爲シタル者此ノ法律若ハ之ニ基キテ發スル命令ノ定ムル期間內又ハ此ノ法律若ハ之ニ基キテ發スル命令ニ依リ特許局長若ハ審判長ノ定ムル期間內ニ成規又ハ指定ノ手續ヲ爲サヽルトキハ其ノ出願又ハ請求ハ無效トス

第十一條　特許ヲ受ケントスル者ハ一發明每ニ發明ノ明細書及必要ノ圖面ヲ添ヘ特許局長ニ出願スヘシ

特許局長ハ出願者ニ對シ必要ト認ムルトキハ雛形若ハ見本ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十二條　特許ヲ出願シタルトキハ特許局審査官其ノ發明ヲ審査ス

第十三條　審査官ニ於テ許特ヲ與フヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登錄シ特許證ヲ下付ス

特許證ニハ特許局長之ニ署名シ明細書及必要ノ圖面ヲ添付ス

第十四條　工業所有權保護同盟條約國ニ於テ發明ノ特許ヲ出願シタル者七箇月以內ニ同一發明ニ付特許ヲ出願シタルトキハ其ノ出願ハ最初出願ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第十五條　政府若ハ府縣ノ開設シタル博覽會若ハ共進會ニ出品スル者ニシテ他日其ノ物品ニ付發明ノ特許ヲ出願セントスルトキハ出品前ニ於テ其ノ旨ヲ特許局長ニ屆出ヘシ

前項ノ場合ニ於テハ博覽會若ハ共進會ニ於テ其ノ物品ヲ受領セシ日ヨリ六箇月以內ニ特許ヲ出願シタル者ニ限リ最初屆出ノ日ニ於テ其ノ出願ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

工業所有權保護同盟條約國ニ於テ萬國博覽會ノ開設アルニ當リ其ノ國ニ於テ出品ニ對シ與ヘタル特許出願ノ期間ハ帝國內ニ於テモ有效トス

第十六條　公益ノ爲普及ヲ要スルモノ又ハ軍事上必要ナルモノ若ハ祕密ヲ要スルモノニ係ル發明ニシテ特許局長ニ於テ必要ト認メタルトキ又ハ主務官廳ヨリ請求アリタルトキハ特許局長ハ特許ニ制限ヲ付シ若ハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ若ハ之ヲ取消スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ政府ハ相當ノ報酬ヲ特許出願者又ハ特許證主ニ與フヘキモノトス

第十七條　他人ノ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ付特許ヲ出願シタル者特許ノ査定ヲ得タルトキハ原特許證主ニ協議シ其ノ發明ヲ使用スルノ承諾ヲ受クヘシ

發明者前項ノ承諾ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ事由ヲ具シ特許局長ニ申告スヘシ特許局長ニ於テ正當ノ理由アリト認ムルトキハ其ノ利用發明ニ對シ特許ヲ與フルコトヲ得但シ原特許證主ニ對シ特許局長ノ相當ト認ムル報酬ヲ仕拂フニ非サレハ其ノ特許ヲ實施スルコトヲ得ス

第十八條　前二條ノ報酬額ニ對シ不服アル者ハ裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ第十六條ノ場合ニ於テハ之カ爲處分ヲ停止セス

第十九條　特許證主ハ自己ノ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ニ對シ追加特許ヲ受クルコトヲ得

追加特許ハ原特許ニ從ヒ移轉若ハ消滅スルモノトス

第二十條　特許ヲ受ケタル發明ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ其ノ特許ヲ無效トス

一　第一條及第二條ニ違反シタルモノ

二　發明ノ實施ニ必要ナル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セサリシモノ

三　發明ノ實施ニ必要ナラサル事項ヲ故意ニ明細書ニ記載セシモノ

第二十一條　審査官ニ於テ特許ヲ與フヘカラスト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第二十二條　審査官ニ於テ特許出願ノ發明カ他人ノ特許出願中ノ發明又ハ他人ノ特許發明ト抵觸スト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第二十三條　前二條ノ査定ニ不服アル者ハ査定書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ特許局ニ不服理由書ヲ差出シ再審査ヲ請求スルコトヲ得

再審査ヲ請求スル者アルトキハ特許局長ハ前査定ニ干與セサル審査官ヲシテ更ニ之ヲ審査セシムヘシ

審査官其ノ不服理由ヲ不當ト査定シタルトキハ特許局長ハ其ノ査定書ヲ不服者ニ送付スヘシ

第二十四條　發明抵觸ノ査定確定シタルトキハ特許局長ハ關係人ヨリ發明ニ關スル始末書ヲ徵シ審査官ヲシテ發明完成ノ前後ヲ審査セシメ其ノ査定書ヲ關係人ニ送付スヘシ

第二十五條　前條ニ依リ既ニ與ヘタル特許ヲ取消シ出願ノ發明ニ特許ヲ與ルトキハ其ノ特許年限ハ前特許登錄ノ日ヨリ起算ス

第二十六條　特許證主其ノ明細書若ハ圖面ノ不完全ナルコトヲ發見シタルトキハ改訂明細書若ハ圖

面ヲ添ヘ特許證ノ改訂ヲ出願スルコトヲ得一箇ノ特許證ヲ分割シテ二箇以上ト爲スノ必要アルコトヲ發見シタルトキ亦同シ但シ發明ノ要部ヲ變更スルモノハ此ノ限ニアラス

第二十七條　前條ノ出願アリタルトキハ審査官之ヲ審査ス

前項ノ場合ニ於テ審査官ノ査定ニ不服アル者ハ第二十三條ニ依リ再審査ヲ請求スルコトヲ得

第二十八條　第二十三條及第二十七條ノ再査定ニ不服アル者ハ査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第二十四條ノ査定ニ不服アル者亦前項ニ同シ

第二十九條　二箇以上ノ特許發明互ニ撞著シ又ハ特許發明ト特許ヲ受ケサル物品若ハ方法ト撞著スルコトヲ發明シタルトキハ利害關係人ハ權利ヲ確認スル爲特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第三十條　特許ヲ受ケタル發明第二十條ニ該當スルコトヲ發見シタル者ハ其ノ特許ヲ無效トスル爲特許局ニ審判ヲ請求スルコトヲ得

第三十一條　特許局ノ審査、審判及報酬額ノ決定ニ關シ必要アルトキハ特許局ハ當事者ノ申立ニ因リ證據調ヲ爲シ又ハ所要ノ事務ヲ取扱フヘキ地ノ區裁判所ニ證據調ヲ囑託スルコトヲ得

前項證據調ニ關シテハ民事訴訟法第二編第一章第五節乃至第十一節ノ規定ヲ準用ス

第三十二條　特許局ニ於テ審判スヘキ事件ハ審判官三人若ハ五人ヲ以テ之ヲ審判ス其ノ三人若ハ五人中ノ一人ヲ審判長トス

審判ノ審決ニハ理由ヲ付スルコトヲ要ス

第三十三條　審判ハ正副二通ノ審判請求書ヲ以テ之ヲ請求スヘシ審判請求書ニハ理由ヲ付スルコトヲ要ス

特許局ニ於テ審判請求書ヲ受理シタルトキハ其ノ副本ヲ被請求人ニ送付シ相當ノ期間ヲ指定シテ

正副二通ノ答辯書ヲ差出サシムヘシ

特許局ハ必要ト認ムル場合ニ於テ期限ヲ付シテ更ニ請求人、被請求人ヨリ辯駁書、答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

審判長ハ職權又ハ當事者雙方ノ申立ニ因リ口頭審判ヲ爲スコトヲ得

口頭審判ハ公開スルモノトス

第三十四條　請求人若ハ被請求人成規又ハ指定ノ期間内ニ答辯書若ハ辯駁書ヲ差出サヽルトキ又ハ辯論期日ニ出頭セサルトキハ審判長ハ相手方ノ意見ヲ聽キ審判ヲ終結スルコトヲ得

第三十五條　第二十八條第二項第二十九條及第三十條ノ請求ニ對シ不服アル者ハ其ノ審決カ法律ヲ適用セス又ハ不當ニ適用シタルコトヲ理由トスルトキニ限リ審決書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ大審院ニ出訴スルコトヲ得

前項ノ訴及裁判ニ付テハ民事訴訟ノ上告及其ノ裁判ニ關スル規定ヲ準用ス

第三十六條　大審院ニ於テ出訴ノ理由アリト認ムルトキハ原審決ヲ破毀シ更ニ審判ヲ爲サシムル爲事件ヲ特許局ニ差戻スヘシ

大審院ニ於テ裁判ヲ爲スニ當リ法律ノ點ニ付表シタル意見ハ其ノ事件ニ關シ特許局ヲ羈束スルモノトス

第三十七條　第二十八條第二項第二十九條及第三十條ノ請求ニ因ル審判ニ關スル費用ノ負擔及其ノ費用額ハ審判長之ヲ決定ス

大審院ニ於テ費用ノ負擔ヲ言渡シタル場合ニ於ケル費用額ニ於テモ亦同シ

前二項ノ費用ニ關シテハ民事訴訟法第七十二條乃至第八十二條第八十六條及民事訴訟費用法ヲ準用ス

第三十八條　特許ヲ受ケタル發明ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ特許局長ニ於テ其ノ特許ヲ取消スコトヲ得

一　特許證主正當ノ事故ナクシテ特許證ノ日付ヨリ三年ヲ經ルモ帝國内ニ於テ其ノ發明ヲ實施公行セサル場合又ハ三年以上其ノ實施公行ヲ中止シタル場合ニ於テ第三者ヨリ相當ノ條件ヲ付シテ其ノ讓受若ハ使用ヲ請求スルモ之ヲ拒絶シタルトキ

二　特許證主特許料納付期限後六十日ヲ經過スルモ仍其ノ納付ヲ怠リタルトキ

三　特許證主正當ノ事故ナクシテ六箇月以上第六條ノ代理人ヲ置カサルトキ

第三十九條　特許證主ハ特許料トシテ各特許ニ付毎年金十圓ヲ納ムヘシ

前項特許料ハ三年毎ニ金五圓ヲ增スモノトス

特許證主追加特許ヲ受ケタルトキハ追加特許料トシテ一時ニ金二十圓ヲ納ムヘシ

第四十條　特許料ハ毎年一年分ヲ特許證ノ日付ニ應當スル日ニ於テ前納スヘシ第一年ニ係ルモノ及追加特許料ハ特許査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

前納セシ特許料ハ之ヲ還付セス但シ一時ニ二年分以上ノ特許料ヲ前納シタル場合ニ於テハ未タ其ノ納付期限ニ至ラサルモノニ限リ之ヲ還付ス

第四十一條　特許證主ハ其ノ特許品ニ特許ノ標記ヲ付スヘシ

第四十二條　特許局ハ特許公報ヲ發行シテ特許發明ノ明細書、圖面特許證ノ改訂、特許ノ異動其ノ他特許ニ關スル必要ノ事項ヲ公示スヘシ但シ祕密ヲ要スルモノハ此ノ限ニアラス

第四十三條　特許ニ關スル書類ノ謄本、圖面ノ調製又ハ特許原簿ノ一覽ヲ要スル者ハ特許局ニ請求スルコトヲ得但シ祕密ヲ要スルモノハ此ノ限ニアラス

第四十四條　證人又ハ鑑定人ニシテ特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ對シ詐僞又ハ詐僞ノ鑑定ヲ

爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シテ僞證又ハ詐僞ノ鑑定ヲ爲サシメタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ査定、審決若ハ決定ニ至ラサル前特許局若ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第四十五條　他人ノ特許品ヲ僞造シタル者又ハ情ヲ知リテ僞造特許品ヲ使用シ若ハ販賣シタル者又ハ他人ノ特許方法ヲ竊用シタル者又ハ情ヲ知リ其ノ竊用シテ製造シタル物品ヲ使用若ハ販賣シタル者ハ十五日以上三年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ特許ヲ侵害スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ輸入シタル物品ヲ使用シ若ハ販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第四十六條　前條ノ場合ニ於テ沒收シタル物件ハ之ヲ特許證主ニ給付ス

第四十七條　詐僞ノ所爲ヲ以テ特許ヲ受ケタル者又ハ特許ヲ受ケサル物品ニ特許標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知リ其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

特許ヲ受ケサル物品ヲ販賣スル爲廣告、看板、引札等ニ於テ特許品タルニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

第四十八條　第四十五條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第四十九條　特許證主特許標記ヲ付スルコトヲ怠リタルトキハ其ノ特許品タルコトヲ知リテ其ノ權利ヲ侵害シタル者ニ對シテノミ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第五十條　特許證主其ノ特許品ノ要部ヲ分離シテ販賣シタルトキハ其ノ販賣シタル部分ニ對シ告訴又ハ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得ス

第五十一條　此ノ法律ニ定メタル書類ノ送付ハ書留郵便又ハ特許局ノ使丁ヲ以テ之ヲ爲ス此ノ場合ニ於テ郵便配達人及特許局ノ使丁ハ民事訴訟法ノ送達吏ト準視ス

附　則

第五十二條　此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五十三條　明治二十一年勅令第八十四號特許條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

專賣特許條例及特許條例ニ依テ受ケタル專賣特許若ハ特許ハ其ノ年限間此ノ法律ニ依テ受ケタル特許ト問一ノ效アルモノトス

特許ニ關スル出願又ハ請求ニシテ此ノ法律施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ此ノ法律ニ依リタル出願又ハ請求ト看做シ處分スヘシ

○特許法施行細則　明治三十二年六月二十日　省令第一三號

第一章　總則

第一條　特許ニ關スル出願、請求、屆出等ハ書面ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

書面ハ一件毎ニ一通ヲ作リ差出人ノ住所及ヒ差出ノ年月日ヲ記載シ之ニ署名捺印スヘシ

關係人又ハ相手方アル場合ニ於テハ其員數ニ應スル副本ヲ添附スヘシ

第二條　本則ニ書式ノ定アル場合ニ在リテハ書面ハ其書式ニ依リテ之ヲ作ルヘシ

第三條　書面ハ日本語ヲ以テ之ヲ認ムヘシ

委任狀、國籍證明書等ニシテ外國語ヲ以テ認メタルモノニハ其譯文ヲ添附スヘシ

第四條　特許出願者其出願シタル發明ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ願書ノ番號及ヒ發明ノ名稱ヲ記載スヘシ

第五條　特許ヲ受ケタル發明ニ關シ書面ヲ差出ストキハ之ニ特許ノ番號及ヒ發明ノ名稱ヲ記載スヘシ

第六條　特許ニ關スル願書、請求書、特許法第十五條第一項ノ規定ニ依ル屆書及ヒ特許法又ハ本則ノ規定ニ依リ差出期間ヲ定メタル書類ヲ特許局ニ差出シタルトキハ受取證ヲ交付スヘシ此場合ニ於テハ書面ノ差出日時ハ其受取證ニ記載シタル日時ニ依リテ之ヲ定ム

第七條　書留郵便ヲ以テ前條ニ揭ケタル書類ヲ差出シタルトキハ其差出日時ハ發送郵便局ヨリ交付シタル書留郵便物受取證ニ記載シタル日時ニ依リテ之ヲ定ム

第八條　書類、雛形又ハ見本カ不明瞭又ハ不完備ナルトキハ特許局長又ハ審判長ハ相當ノ期間ヲ定メ差出人ヲシテ之ヲ訂正、補充又ハ改造セシムヘシ

第九條　書類、雛形又ハ見本ハ差出人ニ於テ之ヲ訂正、補充又ハ改造スルコトヲ得但出願又ハ請求ノ要旨ヲ變更スルトキハ此限ニ在ラス

第十條　帝國內ニ住所ヲ有セサル外國人カ特許ニ關スル出願又ハ請求ヲ爲ストキハ其國籍證明書又ハ住所若クハ營業所ノ所在地ヲ證明スル書面ヲ差出スヘシ

第十一條　發明者ノ承繼人ハ其承繼人タルコトヲ證明スル書面ヲ差出スヘシ

第十二條　代理人カ特許ニ關スル出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ其代理權ヲ證明スル書面ヲ差出スヘシ

第十三條　特許法第六條ノ規定ニ依リ代理人ヲ定メタルトキハ其旨ヲ屆出ツヘシ

第十四條　特許法第七條ノ規定ニ依リ代理人ノ改任ヲ命シタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ代理人ニ通知スヘシ

第十五條　特許法又ハ本則ノ規定ニ依リ特許局長又ハ審判長カ定メタル期日又ハ期間內ニ成規又ハ

指定ノ手續ヲ爲スコト能ハサルトキハ特許局長又ハ審判長ハ當事者ノ請求ニ因リ其期日ノ變更又ハ期間ノ延長ヲ許可スルコトヲ得本則ニ期間ヲ定メタル場合ニ付キ亦同シ

特許局長又ハ審判長カ前項ノ許可ヲ與ヘタルトキハ其旨ヲ關係人ニ通知スヘシ

第十六條　特許局ニ差出シタル書類、雛形又ハ見本ニシテ特許局長又ハ審判長ニ於テ必要ト認ムルモノハ之ヲ還付セス

第十七條　數人カ共同シテ出願、請求其他ノ手續ヲ爲ストキハ特許局ニ對シ全權ヲ有スル代表者一人ヲ選定シテ之ヲ書類ニ記載スヘシ

第十八條　特許局ニ於テ書留郵便ヲ以テ書類ノ送付ヲ爲ストキハ配達證明郵便ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十九條　特許局ノ使丁ヲ以テ書類ノ送付ヲ爲ストキハ使丁ハ其書類ノ封皮ニ送付ノ日時ヲ記載シテ之ニ捺印スヘシ

書類ノ送付ヲ受ケタル者ハ其受領ノ日時ヲ記載シタル受取證ヲ使丁ニ交付スヘシ

第二十條　住所又ハ居所ノ不分明其他ノ事由ニ因リテ書類ノ送付ヲ爲スコト能ハサルトキハ特許局長又ハ審判長ハ官報ヲ以テ其事由ヲ公告スヘシ此場合ニ於テハ官報掲載ノ日ヨリ起算シテ二十日ヲ經過シタルトキハ其末日ニ於テ書類ノ送付アリタルモノト看做ス

第二十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル書類、雛形又ハ見本ハ之ヲ受理セス

一　特許法又ハ本則ニ定メタル方式ニ違背シタルトキ

二　登錄稅又ハ手數料ヲ納付セサルトキ

三　特許法若クハ本則ニ定メタル期間又ハ特許法若クハ本則ノ規定ニ依リ特許局長又ハ審判長ノ定メタル期日若クハ期間ヲ過キタルトキ

特許局ニ於テ受理シタル書類、雛形又ハ見本カ前項各號ノ一ニ該當スルトキハ之ヲ却下ス

前二項ノ場合ニ於テハ附箋ニ其事由ヲ記載スヘシ

第二十二條　特許ニ關スル出願、請求若クハ届出ヲ爲シタル者カ其氏名、住所若クハ印章ヲ變更シタルトキ又ハ其選定シタル代理人ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク其旨ヲ特許局ニ届出ツヘシ

氏名又ハ印章變更ノ届書ニハ證明書ヲ添附スヘシ

第二十三條　特許法第十五條第一項ノ規定ニ依ル届書ニハ說明書及ヒ圖面ヲ添附スヘシ

特許局長カ前項ノ届書ヲ受理シタルトキハ受取證ヲ交付スヘシ

第二十四條　何人ト雖モ其利害關係ヲ疏明スルトキハ特許ニ關スル事項ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得但特許局長ニ於テ祕密ヲ要スト認ムルモノニ付テハ此限ニ在ラス

第二章　出願

第二十五條　特許法第十四條ノ規定ニ依ル特許願書ニハ最初出願ノ當時差出シタル願書、明細書及ヒ圖面ノ謄本ニシテ其出願ヲ爲シタル國ノ政府ニ於テ認證シタルモノヲ添附スヘシ

第二十六條　特許法第十五條第二項ノ規定ニ依ル特計願書ニハ博覽會又ハ共進會ノ物品受領證ヲ添附スヘシ

特許法第十五條第三項ノ規定ニ依ル特許願書ニハ萬國博覽會ヲ開設シタル國ニ於テ特許出願ノ期間ヲ與ヘタル證明書ヲ添附スヘシ

第二十七條　特許局長カ特許ニ關スル願書ヲ受理シタルトキハ出願簿ニ願書ノ番號、發明ノ名稱、出願人幷ニ代理人ノ氏名、住所及ヒ願書差出ノ年月日ヲ登錄スヘシ

前項ノ登錄ヲ爲シタルトキハ特許局長ハ願書ノ番號ヲ出願人ニ通知スヘシ

第二十八條　明細書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　發明ノ名稱

二　發明ノ性質及ヒ目的ノ要領
三　圖面ノ略解
四　發明ノ詳細ナル說明

特許法第十七條又ハ第十九條ニ定メタル出願ナルトキハ其發明ト原特許發明トノ關係

五　特許ノ請求範圍

第二十九條　特許ノ請求範圍ハ發明ノ要部ニ限リ之ヲ記載スヘシ

第三十條　圖面ニハ發明ノ說明ニ必要ナル部分ヲ示シ特許發明ヲ利用シテ爲シタル發明ナルトキハ其發明ト原特許發明トノ關係ヲモ示スヘシ

第三十一條　雛形及ヒ見本ハ堅牢ナル材料ヲ用ヰ曲尺一尺立方以內ニ於テ之ヲ作ルヘシ但此制限ニ從ヒ難キトキハ此限ニ在ラス

製品ノ原料カ發明ノ要部ヲ爲ストキハ雛形及ヒ見本ハ其原料ヲ用ヰ之ヲ作ルヘシ

物質ノ發明ニ付キ見本ヲ提出スルトキハ試驗用ニ供スルニ足ル分量及ヒ其成分ヲ差出スヘシ

第三十二條　雛形又ハ見本カ破損又ハ變化シ易キモノナルトキハ差出人ハ相當ノ手當ヲ爲シテ之ヲ差出スヘシ

第三十三條　雛形又ハ見本ノ滅失、毀損ニ付テハ特許局ハ其責ニ任セス

第三十四條　特許局長カ雛形又ハ見本ヲ還付セントスルトキハ其旨ヲ差出人ニ通知スヘシ

差出人カ前項ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ六十日以內ニ受取ノ手續ヲ爲サヽルトキハ特許局長ハ適宜之ヲ處分スヘシ

第三章　審査

第三十五條　特許局長カ第二十七條第一項ニ定メタル登錄ヲ爲シタルトキハ願書ヲ審査官ニ交付スヘシ

第三十六條　審査官ハ發明ノ種類ニ依リ願書ノ番號ニ從ヒテ審査スヘシ

第三十七條　審査官カ發明ノ審査ニ關シ出願人ヲシテ其試驗ヲ爲サシムル必要アリト認ムルトキハ其旨ヲ特許局長ニ報告スヘシ此場合ニ於テハ特許局長ハ出願人ヲシテ試驗ヲ爲サシムルコトヲ得

第三十八條　査定書ニハ左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

一　願書ノ番號
二　發明ノ名稱
三　出願人ノ氏名
四　出願ノ要領
五　査定ノ主文及ヒ理由
六　査定ノ年月日

第三十九條　再審査査定書ニハ前條第一號、第二號、第五號及ヒ第六號ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

一　再審査請求人及ヒ關係人ノ氏名
二　不服理由ノ要領

第四十條　左ノ場合ニ於テハ發明抵觸ノ査定ヲ爲スヘカラス

一　特許ヲ與フヘカラサル他ノ理由ノ存スルトキ
二　出願人ニ於テ其發明ノ完成カ抵觸スヘキ發明ノ特許出願後ナルコトヲ認ムルトキ

第四十一條　抵觸査定書又ハ發明完成ノ前後ニ關スル査定書ニハ第三十八條ニ揭ケタル事項ノ外左ノ事項ヲ記載シ審査官之ニ署名スヘシ

一　牴觸番號
二　牴觸スヘキ發明ノ願書又ハ特許ノ番號
三　牴觸スヘキ發明ノ名稱
四　牴觸スヘキ發明ノ出願人又ハ特許證主ノ氏名
五　牴觸スヘキ發明ノ要領又ハ關係人陳述ノ要領

第四十二條　發明牴觸ノ査定確定シタルトキハ特許局長ハ關係人ヲシテ三十日以内ニ其發明ニ關スル始末書ヲ差出サシムヘシ

第四十三條　始末書ニハ牴觸番號及ヒ發明ノ完成ニ關スル事實ノ詳細ナル說明ヲ記載スヘシ

第四十四條　特許局長カ始末書ヲ受理シタルトキハ其副本ヲ相手方ニ送付スヘシ

審査官カ答辯ヲ爲サシムル必要アリト認ムルトキハ其旨ヲ特許局長ニ報告スヘシ此場合ニ於テハ特許局長ハ相當ノ期間ヲ定メ答辯書ヲ差出サシムルコトヲ得

前二項ノ規定ハ關係人カ始末書又ハ答辯書ヲ訂正又ハ追加シタル場合ニ之ヲ準用ス

第四十五條　始末書又ハ答辯書ニハ之ニ記載シタル事實ノ證明ニ必要ナル證據物事ヲ添附スヘシ

第四十六條　關係人カ指定ノ期間内ニ始末書又ハ答辯書ヲ差出ササルトキハ審査官ハ直ニ査定ヲ爲スコトヲ得

第四十七條　牴觸ノ原因カ消滅シタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ關係人ニ通知スヘシ

第四章　審判

第四十八條　審判請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　請求人及ヒ被請求人ノ氏名、住所
二　審判事件ノ表示
三　請求ノ要旨及ヒ理由

第四十九條　答辯書又ハ辯駁書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　審判番號
二　請求人及ヒ被請求人ノ氏名、住所
三　審判事件ノ表示
四　答辯又ハ辯駁ノ要旨及ヒ理由

第五十條　第四十四條及ヒ第四十五條ノ規定ハ審判請求書、答辯書及ヒ辯駁書ニ之ヲ準用ス

第五十一條　審判ノ請求人カ其請求ヲ取消シタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ相手方ニ通知スヘシ

第五十二條　口頭審判ヲ爲ストキハ審判長ハ期日ヲ定メ之ヲ當事者雙方ニ通知スヘシ

第五十三條　口頭審判ニ於テハ日本語ヲ用ユヘシ但日本語ニ通セサル者ハ通事ヲ用ユルコトヲ得

第五十四條　口頭審判ニ於テハ調書ヲ作リ審判長及ヒ之ヲ作リタル官吏署名捺印スヘシ

第五十五條　審決アリタルトキハ特許局長ハ其審決書ノ謄本ヲ當事者雙方ニ送付スヘシ

第五十六條　審決書ニハ左ノ事項ヲ記載シ審判官之ニ署名スヘシ

一　審判番號
二　請求人及ヒ被請求人ノ氏名、住所
三　審判事件ノ表示
四　請求、答辯及ヒ辯駁ノ要領
五　審決ノ主文及ヒ理由
六　審決ノ年月日

第五十七條　審判官カ査定ヲ不當ナリト審決シタルトキハ特許局長ハ更ニ審査ヲ爲サシムヘシ

第五十八條　審判ニ關スル費用ノ負擔又ハ其費用額ノ決定ヲ受ケントスル者ハ申請書ヲ作リ費用計算書其他必要ナル書類ヲ添附シテ之ヲ審判長ニ差出スヘシ

審判長ハ必要ト認ムルトキハ相手方ノ意見ヲ聽クコトヲ得

第五十九條　前條ノ決定アリタルトキハ特許局長ハ其決定書ヲ當事者雙方ニ送付スヘシ

第五章　特許

第六十條　審査官カ特許ヲ與フヘシト査定シタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登錄シ且其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第六十一條　特許法第十七條第一項ニ定メタル査定アリタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ出願人ニ通知シ相當ノ期間ヲ定メテ原特許證主ノ承諾書ヲ差出サシムヘシ

出願人カ原特許證主ノ承諾書ヲ差出シタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登錄シ且査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

原特許證主カ承諾ヲ與ヘサル場合ニ於テ特許局長カ出願人ニ特許ヲ與ヘタルトキハ特許原簿ニ登錄シ且査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ此場合ニ於テハ特許局長ハ其旨ヲ原特許證主ニ通知スヘシ

第六十二條　原特許證主ニ支拂フヘキ報酬ノ決定ヲ受ケントスル者ハ申請書ヲ作リ報酬ノ金額及ヒ其計算ニ關スル書類ヲ添附シテ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

前項ノ申請アリタルトキハ特許局長ハ副本ヲ相手方ニ送付シ相當ノ期間ヲ定メテ其意見ヲ聽クコトヲ得

第六十三條　特許局長カ報酬ノ決定ヲ爲シタルトキハ其決定書ヲ當事者雙方ニ送付スヘシ

第六十四條　審査官カ特許證ノ改訂又ハ分割ヲ許可スベキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ其旨ヲ特許原簿ニ登錄シ且其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ

第六十五條　特許證ハ第九號乃至第十三號ノ書式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第六十六條　相續ニ因リテ特許ヲ取得シタル者ハ其證明書ヲ特許局ニ差出シ特許證ノ書換ヲ申請スヘシ

第六十七條　特許法第四條第二項ニ定メタル登錄ヲ受ケントスル者ハ請求書ヲ作リ登錄原因ヲ證スル書面正副二通及ヒ特許證ヲ添附シテ之ヲ特許局ニ差出スヘシ

前項ノ請求アリタルトキハ特許局長ハ特許原簿ニ登錄シタル後其登錄事項ヲ特許證ニ記載シ登錄原因ヲ證スル書面ノ正本ト共ニ之ヲ請求人ニ還付スヘシ

第六十八條　特許法第十六條ノ規定ニ依リ特許ニ制限ヲ附シ若クハ特許ヲ與ヘス又ハ既ニ與ヘタル特許ヲ制限シ又ハ取消ストキハ其理由ヲ出願人又ハ特許證主ニ通知スヘシ

第六十九條　特許原簿ニハ左ノ事項ヲ登錄スヘシ

一　特許ノ番號
二　發明ノ名稱
三　特許證主ノ氏名、住所
四　特許ノ讓渡ニ付テハ其事由、制限ヲ附シタルトキハ其制限
五　特許ノ共有ニ付テハ其事由、持分ノ定アルトキハ各共有者ノ持分
六　特許ノ質入ニテハ債權額、其利息、辨濟期、質權ノ順位及ヒ質權設定ノ年月日
七　帝國内ニ住所ヲ有セサル特許證主ノ代理人ノ氏名、住所
八　特許ノ制限ニ付テハ其事由及ヒ制限ノ範圍
九　利用發明特許ニ付テハ原特許ノ番號、原發明ノ名稱及ヒ原特許證主ノ承諾ノ有無
十　追加特許ニ付テハ原特許ノ番號、原發明ノ名稱及ヒ原特許登錄ノ年月日

十一　特許法第二十五條ノ規定ニ依ル特許ニ付テハ前特許登錄年月日
十二　特許證ノ改訂又ハ分割ニ付テハ其事由
十三　特許ノ無效取消又ハ消滅ニ付テハ其事由及ヒ其事由發生ノ年月日
十四　特許證ノ再下付ニ付テハ其事由及ヒ再下付ノ年月日
十五　登錄ノ年月日

第七十條　特許原簿ニ登錄シタル事項ニ變更ヲ生シ又ハ其事項カ消滅シタルトキハ其變更又ハ消滅ノ登錄ヲ爲スヘシ

第七十一條　特許無效ノ審決カ確定シタルトキ、特許局長カ特許ヲ取消シタルトキ又ハ特許證主カ其特許ヲ拋棄シタルトキハ特許證主ハ其特許證ヲ返納スヘシ

第七十二條　特許料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

第七十三條　特許證主カ特許料ヲ納メタルトキハ特許局長ハ領收證ヲ交付スヘシ

第七十四條　特許證カ滅失又ハ毀損シタルトキハ特許證主ハ其再下付ヲ請求スルコトヲ得特許證ノ再下付ヲ爲ストキハ特許證ニ其事由及ヒ年月日ヲ記載スヘシ

附　則

第七十五條　本則ハ特許法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

書式

第一號

特許願

收入印紙

一發明ノ名稱
一發明者ノ氏名
一發明者ノ氏名
一原特許證主ノ氏名
私(私共)儀別紙明細書ニ記載スル物品(方法)ニ付キ特許相受度此段相願候也

本籍(國籍)及ヒ住所
職業
氏名　印

年　月　日

特許局長氏名殿

第二號

利用發明特許願

收入印紙

一發明ノ名稱
一發明者ノ氏名
一原特許證主ノ氏名
私(私共)儀別紙明細書ニ記載スル物品(方法)ニ付キ特許相受度此段相願候也

本籍(國籍)及ヒ住所
職業
氏名　印

年　月　日

特許局長氏名殿

一發明者ノ氏名
私(私共)儀別紙明細書ニ記載スル物品(方法)ニ付キ特許相受度(特許法第十四條又ハ第十五條ニ定メタル出願ナルトキハ別紙證明書領收證相添)此段相願候也

本籍(國籍)及ヒ住所
職業
氏名　印

年　月　日

特許局長氏名殿

第三號　追加特許願

收入印紙

一發明ノ名稱
一發明者ノ氏名
一原特許ノ番號
私(私共)儀別紙明細書ニ記載スル物品(方法)ニ付キ特許相受度此段相願候也

本籍(國籍)及ヒ住所
職業
氏名　印

年　月　日

特許局長氏名殿

第四號　特許改訂願

收入印紙

一發明ノ名稱
一特許ノ番號
私(私共)儀別紙明細書(圖面)ノ通特許證ノ改訂相受度此段相願候也

本籍(國籍)及ヒ住所
職業
氏名　印

年　月　日

第五號　特許證分割願

收入印紙

一發明ノ名稱
一特許ノ番號
私(私共)儀別紙明細書(圖面)ノ通特許證分割相受度此段相願候也

本籍(國籍)及ヒ住所
職業
氏名　印

年　月　日

特許局長氏名殿

第六號　發明品出品屆

收入印紙

一發明ノ名稱
一發明者ノ氏名
私(私共)儀別紙說明書(圖面)ニ記載スル發明品ヲ何年何月何日ヨリ何所ニ於テ政府(何府、何縣)ノ開設スル博覽會(共進會)ニ出品可致候ニ付特許法第十五條ノ規定ニ依リ此段及御屆候也

本籍(國籍)及ヒ住所
氏名　印

年　月　日

第七號

特許局長氏名殿

登錄請求書

收入印紙

一特許證主ノ氏名

一特許ノ番號

私(私共)儀何某ヨリ前記特許(持分)ヲ讓受(質取)候ニ付登錄相成度別紙契約書(遺言書)相添此段及請求候也

年　月　日

本籍(國籍)及ヒ住所

氏　名　印

第八號

特許局長氏名殿

登錄請求書

收入印紙

一特許證主ノ氏名

一特許ノ番號

私(私共)儀前記特許ヲ共有ト致候ニ付登錄相成度別紙契約書相添此段及請求候也

年　月　日

本籍(國籍)及ヒ住所

共有者　氏　名　印

特許局長氏名殿

第九號

第何號

特許證

一發明ノ名稱

前記發明ハ特許局審査官ニ於テ特許ヲ與フヘキモノト査定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年　月　日

本籍(國籍)及ヒ住所

氏　名

特許局長　氏　名　印

第十號

利用發明特許證

一發明ノ名稱

前記發明ハ明治何年何月何日第何號特許發明ヲ利用シタルモノニシテ特許局審査官ニ於テ利用發明特許ヲ與フヘキモノト査定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年　月　日

本籍(國籍)及ヒ住所

氏　名

特許局長　氏　名　印

第何號

追加特許證

一發明ノ名稱

前記發明ハ明治何年何月何日付第何號特許發明ヲ利用シタルモノニシテ特許局審査官ニ於テ追加特許ヲ與フヘキモノト査定シタリ仍テ特許原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年　月　日　　特許局長　氏　名　印

第十二號

第何號(原特許ノ番號)

改訂特許證

本籍(國籍)及ヒ住所　氏　名

一發明ノ名稱

前記發明ニ對シ特許局審査官ニ於テ明治何年何月何日付第何號特許證ノ改訂ヲ許可スヘキモノト査定シタリ仍テ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年　月　日　　特許局長　氏　名　印

第十三號

第何號(原特許ノ番號)ノ一、二、三、

分割特許證

本籍(國籍)及ヒ住所　氏　名

一發明ノ名稱

前記發明ハ明治何年何月何日付第何號特許證ノ分割ニ係ルモノニシテ特許局審査官ニ於テ分割ヲ許可スヘキモノト査定シタリ仍テ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年　月　日　　特許局長　氏　名　印

○特許出願ニ關スル明細書及圖面ノ標準（明治三十二年六月二十二日告示第五九號）

一　明細書ハ美濃紙二ツ折ニシテ凡ソ其上部曲尺一寸、下部八分、左二分、綴料一寸ヲ餘シ楷書又ハ行書ヲ以テ十三行二十五字詰ニ認ムヘシ

二　明細書中圖面ト對照シテ說明スルモノアルトキハ其指示スヘキ部分ニ適當ナル名稱及ヒ符號ヲ附スヘシ

三　圖面ハ强靭ニシテ平滑ナル白紙若クハ覆寫（トレーシングローズ）布ヲ用ヰ凡ソ其上部曲尺六分、下部四分、左二分、右一寸四分ヲ餘シ竪曲尺八寸、横四寸八分ノ面內ニ濃墨ニテ鮮明ニ調製スヘシ

四　圖面ハ著色スルコトヲ得ス

五　圖ノ離レタルモノハ一箇每ニ番號ヲ附シ又ニ部分ニシテ數圖ニ亘ルモノアレハ必ス同一ノ符號ヲ用ユヘシ但番號及ヒ符號ハ濃墨ニテ明瞭ニ記スヘシ

六　符號ヲ直ニ圖ニ施スコト能ハサルトキハ其部分ヨリ少シク離シテ之ヲ記シ點線若クハ細線ヲ以テ其部分ト符號トヲ接續スヘシ陰ヲ施シタル上ニハ符號ヲ記スヘカラス己ヲ得サルトキハ部分ニ限リ陰ヲ施サスシテ符號ヲ記スヘシ

七　截斷面ヲ現ハスニハ線間凡ソ曲尺三厘ヲ離シタル平行線ヲ斜ニ引クヘシ又截斷面中部分ヲ異ニスルモノハ各方向ヲ異ニシタル斜線ヲ用フヘシ

八　凹凸ノ部分ヲ明瞭ナラシムル爲メ圖面ニ陰ヲ施ス必要アルトキハ線ヲ用ヰテ簡明ニ畫クヘシ
　射影ハ成ルヘク施スヘカラス
九　明細書及ヒ圖面ニハ出願人署名捺印シ他ノ事項ヲ記載スヘカラス

○意匠法　明治三十二年三月一日　法律第三七號

第一條　工業上ノ物品ニ應用スヘキ形狀、模樣、色彩又ハ其ノ結合ニ係ル新規ノ意匠ヲ按出シタル者若ハ其ノ承繼人ハ此ノ法律ニ依リ意匠ノ登錄ヲ受ケ之ヲ專用スルコトヲ得

第二條　左ニ揭クル意匠ハ登錄ヲ受クルコトヲ得ス
一　菊花御紋章ト同一若ハ類似ノ形狀、模樣ヲ有スルモノ
二　秩序又ハ風俗ヲ紊ルノ虞アルモノ
三　意匠登錄出願前公ニ知ラレ又ハ公ニ用ヰラレタルモノ若ハ之ト類似スルモノ但シ自己ノ登錄意匠ト類似スルモノハ此ノ限ニアラス

第三條　意匠專用ノ年限ハ十年トシ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス但シ類似意匠ノ專用年限ハ原意匠ノ有效年限ニ伴フ

第四條　意匠ノ專用ハ農商務大臣ノ定ムル類別ニ從ヒ出願人ノ指定シタル物品ニ限ル

第五條　他人ノ委託又ハ雇主ノ費用ヲ以テ按出シタル意匠ニ係ル登錄出願ノ權利ハ其ノ委託者若ハ雇主ニ屬ス但シ別ニ契約アル場合ニ於テハ此ノ限ニアラス

第六條　意匠專用權ハ制限ヲ付シ若ハ付セスシテ讓渡シ若ハ共有ト爲シ又ハ質權ノ目的ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特許局ニ請求シ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

類似意匠ヲ所有スル者ハ其ノ類似意匠ト共ニ讓渡シ共有ト爲シ又ハ質權ノ目的ト爲スニ非サレハ前項ノ登錄ヲ受クルコトヲ得ス

第七條　特許局ノ官吏ハ在職中意匠專用權ヲ有スルコトヲ得ス但シ相續ニ因リ之ヲ取得シ又ハ在職前ヨリ之ヲ有スルトキハ此ノ限ニアラス

第八條　意匠ノ登錄ヲ受ケントスル者ハ一意匠毎ニ其ノ意匠ヲ應用スヘキ物品ヲ明記シ雛形、見本若ハ圖面ヲ添ヘ特許局長ニ出願スヘシ
特許局長ハ出願者ニ對シ雛形、見本、圖面、說明書ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第九條　二人以上同一又ハ相類似スル意匠ノ登錄ヲ出願スル者アルトキハ出願ノ先ナルモノヲ登錄ス其ノ同時ノ出願ニ係ルモノハ共ニ之ヲ登錄セス但シ出願者共有ノ目的ヲ以テ連名登錄ノ申出ヲ爲シタルトキ又ハ出願者一人ト爲リタルトキハ此ノ限ニアラス

第十條　工業所有權保護同盟條約國ニ於テ意匠登錄ヲ出願シタル者四箇月以內ニ同一意匠ニ付登錄ヲ出願スルトキハ其ノ出願ハ最初出願ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第十一條　登錄ヲ受ケタル意匠ニシテ第一條第二條第五條又ハ第九條ニ違反シタルモノナルトキハ其ノ登錄ヲ無效トス

第十二條　登錄ヲ受ケタル意匠ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ特許局長ニ於テ其ノ登錄ヲ取消スコトヲ得
一　意匠登錄證主意匠料納付期限後六十日ヲ經過シ仍其ノ納付ヲ怠リタルトキ
二　意匠登錄證主正當ノ事故ナクシテ六箇月以上第二十二條ニ依ル特許法第六條ノ代理人ヲ置カサルトキ

第十三條　意匠登錄證主ハ意匠料トシテ各意匠ニ付第一年ヨリ第三年マテハ毎年金三圓第四年ヨリ第六年マテハ毎年金五圓第七年ヨリ第十年マテハ毎年金七圓ヲ納ムヘシ

類似意匠ノ登錄ヲ受ケタルトキハ各類似意匠ニ付一時ニ金三圓ヲ納ムヘシ

第十四條　意匠料ハ毎年一年分ヲ登錄證ノ日付ニ應當スル日ニ於テ前納スヘシ第一年ニ係ルモノ及前條第二項ノ意匠料ハ登錄査定書到達ノ日ヨリ六十日以内ニ之ヲ納ムヘシ

前納シタル意匠料ハ之ヲ還付セス但シ一時ニ二年分以上ノ意匠料ヲ納付シタル場合ニ於テハ未タ其ノ納付期限ニ到ラサルモノニ限リ之ヲ還付ス

第十五條　意匠登錄證主ハ其ノ意匠ヲ應用シタル物品ニ意匠登錄ノ標記ヲ付スヘシ

第十六條　證人又ハ鑑定人ニシテ特許局又ハ嘱託ヲ受ケタル裁判所ニ對シ僞證又ハ詐僞ノ鑑定ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ嘱託シ僞證又ハ詐僞ノ鑑定ヲ爲サシメタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ査定若ハ審決ニ至ラサル前特許局又ハ嘱託ヲ受ケタル裁判ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第十七條　他人ノ登錄意匠ヲ摸擬シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ模擬シタル物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ登錄意匠ヲ侵害スヘキ物品ナルコトヲ知リ之ヲ外國ヨリ輸入シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ罰前項ニ同シ

第十八條　前條ノ場合ニ於テ沒收シタル物件ハ之ヲ意匠登錄證主ニ給付ス

第十九條　詐僞ノ所爲ヲ以テ意匠ノ登錄ヲ受ケタル者又ハ登錄ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ニ登錄標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ物品ヲ販賣シタル者ハ十五日以上六月以下ノ重禁錮又ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

登錄ヲ受ケサル意匠ヲ應用シタル物品ヲ販賣スル爲廣告、看板、引札等ニ於テ其ノ意匠ノ登錄ヲ受ケタルニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十條　第十七條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十一條　意匠登錄證主登錄標記ヲ付スルコトヲ怠リタルトキハ其ノ登錄意匠タルコトヲ知リテ其ノ權利ヲ侵害シタル者ニ對シテノミ要償ノ訴ヲ爲スコトヲ得

第二十二條　特許法第六條乃至第十條第十二條第十三條第十五條第二十一條第二十三條第二十八條乃至第三十七條第四十三條及第五十一條ノ規定ハ意匠ニ關シテ之ヲ準用ス

附　則

第二十三條　此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十四條　明治二十一年勅令第八十五號意匠條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

意匠條例ニ依テ受ケタル登錄ハ此ノ年限間此ノ法律ニ依テ受ケタル登錄ト同一ノ效アルモノトス

意匠ニ關スル出願又ハ請求ニシテ此ノ法律施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ此ノ法律ニ依リタル出願又ハ請求ト看做シ處分スヘシ

○意匠法施行細則　明治三十二年六月二十日　省令第一四號

第一條　意匠登錄願書ハ第七條ニ定メタル類別毎ニ之ヲ作ルヘシ

第二條　雛形及ヒ見本ハ曲尺二尺立方以内ニ於テ之ヲ作ルヘシ但此制限ニ從ヒ難キトキハ此限ニ在ラス

第三條　圖面ニハ意匠ノ說明ニ必要ナル部分ヲ示スヘシ

寫眞ヲ以テ圖面ニ代用スルトキハ臺紙ヲ附スルコトヲ得ス

第四條　審査官ハ願書ノ番號ニ從ヒテ審査スヘシ

第五條　意匠登錄證ハ第五號又ハ第六號書式ニ依リ之ヲ作ルヘシ

第六條　意匠原簿ニハ左ノ事項ヲ登錄スヘシ

一　登錄ノ番號

二　意匠ノ名稱

三　類別及ヒ物品

四　登錄證主ノ氏名、住所

五　類似意匠ニ付テハ原意匠ノ登錄番號及ヒ其登錄ノ年月日

六　意匠專用權ノ讓渡ニ付テハ其事由、制限ヲ附シタルトキハ其制限

七　意匠專用權ノ共有ニ付テハ其事由、持分ノ定アルトキハ各共有者ノ持分

八　意匠專用權ノ質入ニ付テハ債權額、其利息、辨濟期、質權ノ順位及ヒ質權設定ノ年月日

九　帝國內ニ住所ヲ有セサル登錄證主ノ代理人ノ氏名、住所

十　登錄ノ無效取消又ハ消滅ニ付テハ其事由及ヒ其事由發生ノ年月日

十一　登錄證ノ再下付ニ付テハ其事由及再下付ノ年月日

十二　登錄ノ年月日

第七條　出願人ハ左ノ類別ニ從ヒ意匠ヲ應用セントスル物品ヲ指定スヘシ

第一類　被服

衣、裳、外套、襯衣、帶、襟、領卷、肩掛等

第二類　頭飾、服飾

櫛、簪、根掛、胸飾、領飾、腕環、指環、釦鈕等

第三類　時計、附屬品

袂時計、置時計、掛時計、鎖、下ケ物等

第四類　傘、杖、鞭

第五類　携帶品

紙入、貨幣入、名刺入、煙草入、煙管、煙管筒、手提鞄等

第六類　家具、室內裝飾品

棚、簞笥、机、椅子、卓子、寢臺、額、屏風、衝立、窓掛、卓被等

第七類　敷物

段通、油圍、花莚等

第八類　暖室具、附屬品

暖爐、火鉢、煙草盆、炭取、石炭入、火箸等

第九類　燈器

燭臺、手燭、行燈、燈籠、洋燈、瓦斯燈、電燈等

第十類　建築物ノ附屬品

障子、戸、扉、柵、欄間、欄干、引手、釘隱等

第十一類　織物及ヒ他類ニ屬セサル織物製品

絹、綿、麻、毛等各種ノ織物、服紗、手巾等

第十二類　他類ニ屬セサル編物、組物

「レース」、打紐、飾緣等

第十三類　他類ニ屬セサル漆器（假漆塗、油漆塗等モ之ニ屬ス）
第十四類　他類ニ屬セサル陶器（煉瓦、瓦等モ之ニ屬ス）
第十五類　他類ニ屬セサル玻璃
第十六類　他類ニ屬セサル七寶
第十七類　他類ニ屬セサル金屬製品
第十八類　他類ニ屬セサル石材製品
第十九類　他類ニ屬セサル木、竹、牙、角類製品
第二十類　紙及ヒ他類ニ屬セサル紙製品
紋紙、擬革紙、襖紙、壁紙、表紙、色紙、短冊、紙簞、書簡筒等
第二十一類　皮革及ヒ他類ニ屬セサル皮革製品
製品
第二十二類　冠物
帽子、頭巾、笠等
第二十三類　履物附屬品
下駄、草履、靴、鼻緒、爪掛等
第二十四類　扇及ヒ團扇
第二十五類　飲食器
膳、椀、茶椀、皿、鉢、杯、德利、菓子器、鐵瓶、土瓶、茶托、杯臺、紅茶具、珈琲具、匙、箸、箸箱、重箱等
第二十六類　文房具
硯、筆筒、筆架、硯屏、文鎮、墨臺、水滴、印材、肉池、文臺、硯箱、筆、墨、「インキ」壺、「ペン」軸等

第二十七類　樂器、玩具及ヒ遊戲具
第二十八類　菓子及ヒ其他ノ食用品
第二十九類　他類ニ屬セサル物品
第八條　特許法施行細則第一條乃至第二十七條、第三十二條乃至第三十五條、第三十八條、第三十九條、第四十八條乃至第六十條、第六十六條、第六十七條及ヒ第七十條乃至第七十四條ノ規定ハ意匠ニ關シテ之ヲ準用ス

附　則

第九條　本則ハ意匠法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

書式

第一號

意匠登錄願

收入印紙

一意匠ノ名稱
一登錄ノ請求範圍
一意匠ヲ應用スヘキ物品
一案出者ノ氏名
私（私共）儀前記意匠ニ付キ登錄相受度（特許法施行細則第一號書式ニ準ス）此段相願候也

本籍（國籍）及ヒ住所
職業
氏　名　印

年　月　日

特許局長氏名殿

第二號　類似意匠登錄願

收入印紙

一意匠ノ名稱
一登錄ノ請求範圍
一意匠ヲ應用スヘキ物品
一案出者ノ氏名
私(私共)儀前記意匠ニ付キ登錄相受度此段相願候也

本籍(國籍)及ヒ住所
職業
氏　名　印

年　月　日

特許局長氏名殿

第三號　登錄請求書

收入印紙

一登錄證主ノ氏名
一登錄ノ番號
私(私共)儀何某ヨリ前記意匠專用權(持分)ヲ讓受ケ(質取)候ニ付登錄相成度別紙契約書(遺言書)相添此段及請求候也

本籍(國籍)及ヒ住所
氏　名　印

年　月　日

特許局長氏名殿

第四號　登錄請求書

收入印紙

一登錄證主ノ氏名
一登錄ノ番號
私(私共)儀前記意匠專用權ヲ共有ト致候ニ付登錄相成度別紙契約書相添此段及請求候也

本籍(國籍)及ヒ住所
共有者　氏　名　印

年　月　日

特許局長氏名殿

第五號　意匠登錄證

第何號

一意匠ノ名稱
一意匠ノ應用スヘキ物品
前記意匠ハ特許局審査官ニ於テ登錄ヲ與フヘキモノト査定シタリ仍テ意匠原簿ニ登錄シ玆ニ本證ヲ下付スルモノ也

本籍(國籍)及ヒ住所
氏　名

年　月　日

特許局長　氏　名　印

第六號

第何號

類似意匠登錄證

一意匠ノ名稱

一意匠ヲ應用スヘキ物品

前記意匠ハ明治何年何月何日付第何號登錄意匠ト類似スルモノニシテ特許局審査官ニ於テ登錄スヘキモノト査定シタリ仍テ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年　月　日

特許局長　氏　名　印

本籍(國籍)及ヒ住所

氏　名

○商標法　明治三十二年三月一日　法律第三八號

第一條　自己ノ商品ヲ表彰スル爲商標ヲ專用セントスル者ハ此ノ法律ニ依リ其ノ登錄ヲ受クヘシ

第二條　文字、圖形又ハ記號ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノハ商標ノ登錄ヲ受クルコトヲ得ス

一　菊花御紋章ト同一若ハ類似ノ圖形ヲ有スルモノ

二　國旗、軍旗、勳章又ハ外國ノ國旗ト同一若ハ類似ノモノ

三　秩序又ハ風俗ヲ紊リ若ハ世人ヲ欺瞞スルノ虞アルモノ

四　他人ノ登錄商標又ハ其ノ登錄失效後一年ヲ經過セサルモノト同一若ハ類似ニシテ同商品ニ使用セントスルモノ

五　此ノ法律施行前ヨリ他ニ使用者アル商標ト同一若ハ類似ノモノ

六　商品ノ普通名稱、産地ヲ表彰スルモノ又ハ其ノ品位、品質、形狀ヲ商業上慣用ノ文字、圖形若ハ記號ニ依リ表彰スルモノ及普通ニ使用セラルヽ氏名、商號、會社名若ハ組合名ヲ普通ノ書體ニ依リ記載スルモノ

七　欄、地紋其ノ他特別著明ノ外觀ナキモノ

第三條　商標專用ノ年限ハ二十年トシ原簿登錄ノ日ヨリ起算ス

外國ノ登錄商標ニシテ帝國ニ於テ登錄ヲ受ケタルモノヽ專用年限ハ原登錄ノ有效年限ニ從フ但シ二十年ヲ超ユルコトヲ得ス

第四條　商標專用年限滿了ノ後其ノ商標ヲ續用セントスル者ハ更ニ其登錄ヲ受クルコトヲ得

第五條　商標ノ專用ハ農商務大臣ノ定ムル類別ニ從ヒ出願人ノ指定シタル商品ニ限ル

第六條　登錄商標主其ノ營業ヲ讓渡シ又ハ他人ト其ノ營業ヲ共ニスル場合ニ限リ其ノ商標ヲ讓渡シ若ハ共有ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ特許局ニ請求シ其ノ登錄ヲ受クルニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

登錄商標主同商品ニ付類似ノ商標ヲ有スルトキハ共ニ讓渡シ若ハ共有ト爲シ又ハ類似商標ノ使用ヲ廢止スルニ非サレハ前項ノ登錄ヲ受クルコトヲ得ス

第七條　商標ノ登錄ヲ受ケントスル者ハ一商標毎ニ其ノ商標ヲ付スヘキ商品ヲ明記シ見本ヲ添ヘ特許局長ニ出願スヘシ

第八條　二人以上同一又ハ相類似スル商標ヲ同商品ニ使用セントシテ登錄ヲ出願スル者アルトキハ、出願ノ先ナルモノヲ登錄シ同時ニ出願シタルモノハ共ニ之ヲ登錄セス但シ出願者一人トナリタルトキハ此ノ限ニアラス

第九條　工業所有權保護同盟條約國ニ於テ商標登錄ヲ出願シタル者四箇月以內ニ同一商標ニ付登錄ヲ出願スルトキハ其ノ出願ハ最初出願ノ日ニ於テ之ヲ爲シタルト同一ノ效力ヲ有ス

第十條　登錄ヲ受ケタル商標ニシテ第二條又ハ第八條ニ違反シタルモノナルトキハ其ノ登錄ヲ無效トス但シ第二條第四號若ハ第五號ニ該當シ又ハ第八條ニ違ヒ登錄ヲ受ケタルモノニシテ登錄後三年ヲ經タルトキハ此ノ限ニアラス

第十一條　登錄ヲ受ケタル商標ニシテ左ノ場合ニ該當スルモノアルトキハ特許局長ニ於テ其ノ登錄ヲ取消スコトヲ得

一　登錄商標主登錄後其ノ商標ヲ使用スル商品ノ產地、品質等ニ關シ不實ノ事項ヲ附記シタルトキ

二　登錄商標主正當ノ事故ナクシテ六箇月以上第二十條ニ依ル特許法第六條ノ代理人ヲ置カサルトキ

第十二條　商標專用權ハ登錄商標主其ノ商標ヲ使用スル營業ノ廢止ニ因リ消滅ス

第十三條　商標ノ登錄ヲ受クル者ハ一商標ニ付商品一類每ニ商標料金三十圓ヲ納ムヘシ續用ノ登錄ニ付テモ亦同シ

第十四條　特許局ハ商標公報ヲ發行シ商標登錄ニ關スル必要事項ヲ公示スヘシ

第十五條　證人又ハ鑑定人ニシテ特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ對シ僞證又ハ詐僞ノ鑑定ヲ爲シタルトキハ一月以上一年以下ノ重禁錮ニ處シ五圓以上五十圓以下ノ罰金ヲ附加ス

賄賂其ノ他ノ方法ヲ以テ人ニ囑託シ僞證又ハ詐僞ノ鑑定ヲ爲サシメタル者ハ罰前項ニ同シ

前二項ノ罪ヲ犯シタル者其ノ事件ノ查定若ハ審決ニ至ラサル前特許局又ハ囑託ヲ受ケタル裁判所ニ自首シタルトキハ本刑ヲ免ス

第十六條　他人ノ登錄商標ナルコトヲ知リ其ノ承諾ヲ經スシテ之ト同一又ハ類似ノ商標ヲ製造シ之ヲ交付若ハ販賣シタル者又ハ他人ノ登錄商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ同商品ニ使用シタル者又ハ

情ヲ知リテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者ハ一月以上二年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

他人ノ登錄商標ヲ有スル容器、包裝等ナルコトヲ知リ之ヲ同商品ニ使用シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者又ハ他人ノ登錄商標ト同一若ハ類似ノ商標ヲ其ノ商品販賣ノ廣告、看板、引札等ニ使用シタル者ハ罰前項ニ同シ

第十七條　詐僞ノ所爲ヲ以テ商標ノ登錄ヲ受ケタル者又ハ登錄ヲ受ケサル商標ニ登錄標記ヲ付シ若ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ爲シタル者又ハ情ヲ知リテ其ノ商品ヲ販賣シ若ハ販賣ノ爲所藏シタル者ハ十五日以上一年以下ノ重禁錮又ハ拾圓以上三百圓以下ノ罰金ニ處ス

登錄ヲ受ケスシテ登錄標記又ハ之ニ紛ハシキ表示ヲ付シタル商標ヲ其ノ商品販賣ノ廣告、看板、引札等ニ使用シタル者ハ罰前項ニ同シ

第十八條　第十六條及第十七條ノ場合ニ於テハ商標及商標ヲ表示スヘキ原具ヲ沒收ス其ノ商標ト分離スヘカラサル商品、容器、包裝等ハ之ヲ毀壞セシム

第十九條　第十六條ノ犯罪ハ被害者ノ告訴ヲ待テ其ノ罪ヲ論ス

第二十條　特許法第六條乃至第十條第十二條第十三條第十五條第二十一條第二十三號第二十八第乃至第三十七條第四十三條及第五十一條ノ規定ハ商標ニ關シテ之ヲ準用ス

第二十一條　主務官廳ニ於テ認可シタル同業者ノ組合ニシテ標章ヲ商標トシテ專用セントスルトキハ此ノ法律ニ依リ登錄ヲ受クルコトヲ得

前項ニ依リ登錄ヲ受ケタル標章ハ登錄商標ニ準ス

附　則

第二十二條　此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十三條　明治二十一年勅令第八十六號商標條例ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス
商標條例ニ依テ受ケタル商標ハ此ノ法律ニ依テ受ケタル商標ト同一ノ効アルモノトス
商標ニ關スル出願又ハ請求ニシテ此ノ法律施行ノ日マテニ處分ヲ終ラサルモノハ此ノ法律ニ依リタル出願又ハ請求ト看做シ處分スヘシ
第二十四條　明治二十一年勅令第八十六號商標條例第二條等三號ニ該當シ又ハ同第八條ニ違ヒ登錄ヲ受ケタル商標ニシテ同第十條ニ依リ無効タルヘキモノニ對シテハ此ノ法律施行後二年ヲ經過スルトキハ其ノ登錄無効ノ審判ヲ請求スルコトハ得ス

○商標法施行細則　明治三十二年六月二十日　省令第一五號

第一條　商標登錄願書ハ第十五條ニ定メタル類別毎ニ之ヲ作ルヘシ
第二條　帝國ニ於テ登錄ヲ受ケントスル商標カ既ニ外國ニ於テ登錄ヲ受ケタルモノナルトキハ其ノ登錄願書ニ原登錄證及ヒ明細書ノ謄本ニシテ其國ノ政府ニ於テ認證シタルモノヲ添付スヘシ
第三條　商標ヲ續用セントスルトキハ專用年限滿了前ニ其願書ヲ特許局ニ差出スヘシ
前項ノ願書ニハ登錄證ヲ添付スヘシ若シ外國ニ於テ商標續用ノ許可ヲ得タル後帝國ニ於テ其商標ヲ續用セントスルトキハ其國ニ於テ許可ヲ得タル旨ヲ證明スル書面ヲ添附スヘシ
第四條　共有商標ノ登錄ヲ受ケントスルトキハ登錄願書ニ營業ヲ共ニスル事實ヲ證明スル書面ヲ添附スヘシ
第五條　商標ノ見本ハ强靭ナル紙料ヲ以テ之ヲ作ルヘシ
見本ハ三通之ヲ差出スヘシ但特許局長ハ必要ト認ムルトキハ更ニ數通ノ提出ヲ命スルコトヲ得
第六條　審査官ハ願書ノ番號ニ從ヒテ審査スヘシ

第七條　審査官カ商標ヲ登錄スヘキモノト査定シタルトキハ特許局長ハ其査定書ヲ出願人ニ送付スヘシ
出願人カ査定書ノ送付ヲ受ケタルトキハ商標料ヲ納付シ且同時ニ商標ノ印版一箇ヲ差出スヘシ
第八條　商標ノ印版ハ木材又ハ金屬ヲ用ヰ長サ曲尺四寸以內、幅三寸以內及ヒ厚サ七分六厘トスヘシ
印版ハ商標ノ全部ヲ一箇ノ版面ニ彫刻シテ之ヲ作ルヘシ
第九條　特許法施行細則第三十二條乃至第三十四條ノ規定ハ商標ノ印版ニ之ヲ準用ス
第十條　出願人カ第七條第二項ニ定メタル手續ヲ爲シタルトキハ特許局長ハ商標原簿ニ登錄スヘシ
第十一條　登錄證ハ第六號乃至第八號書式ニ依リ之ヲ作ルヘシ
第十二條　商標ノ讓渡又ハ共有ノ登錄ヲ受ケントスルトキハ其請求書ニ營業ヲ讓受ケ又ハ營業ヲ共ニスル事實ヲ證明スル書面ヲ添附スヘシ
第十三條　商標料ハ登錄許可ノ査定書到達ノ日ヨリ六十日以內ニ之ヲ納ムヘシ
第十四條　商標原簿ニハ左ノ事項ヲ登錄スヘシ
一　登錄ノ番號
二　類別及ヒ商品
三　登錄商標主ノ氏名、住所、同業組合ニ在リテハ其名稱、事務所及ヒ其代表者ノ氏名
四　外國ノ登錄商標ニ付テハ原登錄ノ有效年限
五　商標ノ續用ニ付テハ其事由
六　商標專用權ノ讓渡又ハ共有ニ付テハ其事由
七　類似商標ニ付テハ原商標ノ登錄番號

八　帝國内ニ住所ヲ有セサル登錄商標主ノ代理人ノ氏名、住所
九　登錄ノ無效、取消又ハ消滅ニ付テハ其事由及ヒ其事由發生ノ年月日
十　登錄證ノ再下付ニ付テハ其事由及ヒ再下付ノ年月日
十一　登錄ノ年月日

第十五條　出願人ハ左ノ類別ニ從ヒ商標ヲ使用セントスル商品ヲ指定スヘシ

第一類　化學品、藥劑及ヒ醫療補助品
酸類、鹽類、亞爾加里、漂白粉、護謨、膠、燐、石鹼、酒精、佛里設林、規那鹽、莫兒比涅、丁幾劑、含利別、煎劑、水劑、浸劑、丸藥、膏藥、散藥、錠藥、煉藥、生藥、藥油、石灰、硫黃、鑛水、麝香、打粉、食鹽、艾、防腐劑、防臭劑、驅蟲劑、繃帶、綿紗、綿散絲、脫脂綿、海綿等

第二類　染料、顏料及ヒ媒染料
藍玉、藍靛、紫根、紅、朱、丹、綠青、燒青、洋靛、白粉、胡粉、金銀粉、藤黃、染齒料、綠礬、明礬等

第三類　塗料
漆、假漆、油漆、漉、靴墨、靴油、防鏽料、防水料等

第四類　香料、燻料及ヒ他類ニ屬セサル化粧品
香水、香油、髮膏、香袋、炷香、化粧下等

第五類　金屬及ヒ其半加工品
銑鐵、鍛鐵、鋼鐵、條鐵、鐵葉、鐵板、鐵線、銅、銅板、銅線、鉛、鉛板、亞鉛、亞鉛板、錫、合金等

第六類　金屬製品
鑄物、打物、彫鏤品、編物等

第七類　利器及ヒ尖刃器

鎌、鋸、鑿、錐、鑿、斧、鉞、小刀、剃刀、庖丁、鉋、鑢、針、釘、鳶嘴等

第八類　貴金屬、其模造物及ヒ其製品並ニ彫鏤品（「アルミニウム」金、「ニッケル」銀及ヒ「プリタニヤメタル」モ之ニ屬ス）
黃金、銀、四分一、紫銅、其他貴金屬ノ合金、鍍品、「モール」等

第九類　寶石類、其模造物及ヒ其製品並ニ彫鏤品
金剛石、珊瑚珠、眞珠、瑪瑙、水晶、黃玉、碧玉等

第十類　鑛物類

第十一類　石材、其模造物及ヒ其製品並ニ彫鏤品、版石、大理石、砥石、石器等

第十二類　漆喰及ヒ土砂類
漆喰、「セメント」、石膏、土瀝青、土砂等

第十三類　陶磁器類
陶器、磁器、土器、瓦、煉瓦等

第十四類　七寶燒

第十五類　玻璃及ヒ其製品（珐瑯質品モ之ニ屬ス）
玻璃板、玻璃管、玻璃壜、玻璃球等

第十六類　機械類（機械ノ各部モ之ニ屬ス）
織機、紡績機、裁縫機、製糖機、印刷機、其他諸機械、汽機、汽罐等

第十七類　農工器具
犂、鋤、鍬、稻扱、唐箕、耙、釘抜、鐵槌、繩墨等

第十八類　理化學、醫術、測量及ヒ教育用器械、器具、（眼鏡及ロ算數器類モ之ニ屬ス）

第十九類　度量衡
第二十類　運搬用機械並ニ器具類
荷車、馬車、人力車、自轉車、小兒用車、船舶、鐵道用車輛、車輪等
第二十一類　樂器
第二十二類　時計及ヒ其附屬品
第二十三類　銃砲、彈丸及ヒ爆發物類
大砲、小銃、獵銃、短銃、火藥、綿火藥、「ダイナマイト」、雷管、煙火等
第二十四類　蠶種、天蠶種及ヒ繭
第二十五類　眞綿、木棉綿、麻、苧、羽毛類及ヒ其組製品
第二十六類　生絲、絹絲及ヒ天蠶絲（琴絲、金絲、銀絲モ之ニ屬ス）
第二十七類　綿絲
第二十八類　毛絲
第二十九類　麻絲及ヒ第二十六類乃至第二十八類ニ屬セサル絲類
第三十類　絹織物
第三十一類　木棉織物
第三十二類　毛織物
第三十三類　麻織物
第三十四類　第三十類乃至第三十三類ニ屬セサル織物
第三十五類　絲類ノ編物、組物及「レース」類（各種ノ紐類モ之ニ屬ス）
第三十六類　被服類

衣服、冠、帽子、「カラ」、「カフス」、襟飾、襯衣、「ヅボン」下、手袋、足袋、目利安等
第三十七類　清酒
第三十八類　砂糖、蜜類
砂糖、氷砂糖、糖蜜、蜂蜜等
第三十九類　菓子及ヒ麵麭類
干菓子、蒸菓子、掛ケ物、西洋菓子、飴、砂糖漬等
第四十類　茶、珈琲及ヒ「チヨコレート」類
第四十一類　煙草類
第四十二類　穀、菜、種子及ヒ菓物類
五穀、蔬菜、薯、菓實、種子、根球、麹種、「モヤシ」等
第四十三類　挽粉、澱粉及ヒ其製品
穀粉、葛粉、山慈姑粉、麪類、湯葉、蒟蒻、凍豆腐、凍蒟蒻等
第四十四類　味噌、醬物及ヒ漬物類
第四十五類　他類ニ屬セサル食料品及ヒ加味品
肉類、越幾斯類、卵、鰹節、鰻、乾鮑、海苔、昆布、荒布、佃煮、罐詰、雲丹、芥子、胡椒等
第四十六類　牛乳及ヒ其製品
牛乳、凝乳、乳油、乳餅、乳粉等
第四十七類　煙具及ヒ袋物
煙管、煙袋、煙管筒、懷中物等
第四十八類　紙及ヒ其製品

紙、色紙、短冊、板紙、擬革紙、壁紙、油紙、澁紙、書簡筒、張文匣、一閑張、帳簿、元結、水引等

第四十九類　文房具

筆、墨、印肉、墨汁、石筆、鉛筆、「ペン」、「ペン」軸、硯、墨汁壺、文鎮、筆筒、筆架等

第五十類　皮革及ヒ其製品（各種ノ靴類モ之ニ屬ス）

毛皮、柔革、馬具、文匣、革帶、靴、唐弓絃、靴等

第五十一類　摺附木

第五十二類　油、蠟類

石油、種油、魚油、蠟、蠟燭、脂肪等

第五十三類　肥料

干鰯、緋粕、油粕、骨粉、糠等

第五十四類　木竹材（木皮、竹皮類モ之ニ屬ス）

第五十五類　木、竹、籐類ノ製品及ヒ其漆塗、蒔繪品類

指物、挽物、曲物、編物、組物、桶類等

第五十六類　甲、角、牙類ノ製品及ヒ其模造品

第五十七類　藁、草及ヒ他類ニ屬セサル其製品

麥藁、畳表、筵、笠、繩、麥藁眞田等

第五十八類　傘、杖、履物及ヒ其附屬品

傘、蝙蝠傘、杖、下駄、草履、雪駄、鼻緒、爪掛等

第五十九類　扇子及ヒ團扇類

第六十類　燈器、（燈器ノ各部モ之ニ屬ス）

「ランプ」、燭臺、提燈等

第六十一類　齒磨及ヒ洗粉類（磨粉モ之ニ屬ス）

第六十二類　刷子及ヒ髢類

第六十三類　玩具及ヒ遊戲具類（造花及ヒ花簪類モ之ニ屬ス）

鞠、碁、將棋、人形、獨樂、弓、球突具、押繪、骨牌等

第六十四類　圖畫及ヒ寫眞類

第六十五類　書籍、新聞紙、雜誌類

第六十六類　洋酒

葡萄酒、麥酒、「ブランデイ」、「ベルモット」、「ウヰスキー」、「リキユール」等

第六十七類　他類ニ屬セサル各種ノ酒類

味淋、白酒、燒酎、濁酒、龜ノ歳、直シ等

第六十八類　他類ニ屬セサル各種ノ飲料

曹達水、蜜柑水、「ラムネ」氷等

第六十九類　醬油及ヒ酢類

第七十類　燃料類

石炭、「コーク」、薪、炭、附木、燭心等

第七十一類　寢具類

寢臺、蒲團、坐蒲團、枕、蚊帳等

第七十二類　他類ニ屬セサル護謨製品

第七十三類　他類ニ屬セサル商品

第十六條　商標法第二十一條ニ定メタル同業組合カ差出ス書面ニハ其名稱及ヒ事務所ヲ記載シ代表者之ニ署名捺印スヘシ

同業組合カ標章ノ登錄ヲ受ケントスルトキハ其願書ニ主務官廳ノ認可ヲ得タル旨ヲ證明スル書面ヲ添附スヘシ

第十七條　特許法施行細則第一條乃至第二十七條、第三十二條、第三十五條、第三十八條、第三十九條、第四十八條乃至第五十九條、第六十六條、第六十七條及ヒ第七十條乃至第七十四條ノ規定ハ商標ニ關シテ之ヲ準用ス

附　則

第十八條　本則ハ商標法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

書式

第一號

商標登錄願

收入印紙

見印
本

商標ヲ附スヘキ商品

私(私共)儀前掲商標ニ付キ登錄相受度(特許法施行細則第一號書式ニ準ス)此段相願候也

本籍(國籍)及ヒ住所
職業
氏　名　印

年　月　日

第二號

特許局長氏名殿

商標續用登錄願

收入印紙

見印
本

登錄ノ番號
商標ヲ附スヘキ商品

私(私共)儀前掲商標專用致度ニ付更ニ登錄相受度此段相願候也

本籍(國籍)及ヒ住所
氏　名　印

年　月　日

特許局長氏名殿

第三號

組合標章登錄願

收入印紙

見印
本

標章ヲ附スヘキ商品

當組合儀前掲ノ標章ヲ商標トシテ使用致度ニ付登錄相受度主務官廳ノ認可證相添此段相願候也

何府縣郡市町村番地
何々組合

年　月　日

特許局長氏名殿

何府縣郡市町村番地
代表者　氏　　名　印

第四號

登錄請求書

收入印紙

一登錄商標主ノ氏名
一登錄ノ番號
私(私共)儀何某ヨリ前記商標專用權ヲ讓受ケ候ニ付登錄相成度別紙契約書(遺言書)相添此段及請求候也

本籍(國籍)及ヒ住所
氏　　名　印

年　月　日

特許局長氏名殿

第五號

登錄請求書

收入印紙

一登錄商標主ノ氏名
一登錄ノ番號
私(私共)儀前記商標專有權ヲ共有ト致候ニ付登錄相成度別紙契約書相添此段及請求候也

年　月　日

特許局長氏名殿

本籍(國籍)及ヒ住所
共有者　氏　　名　印

第六號

第何號

商標登錄證

見本印

商標ヲ附スヘキ商品
前掲商標ハ特許局審査官ニ於テ登錄スヘキモノト査定シタリ仍テ商標原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年　月　日

特許局長　氏　　名　印

第七號

第何號

外國商標登錄證

見本印

本籍(國籍)及ヒ住所
氏　　名

一商標ヲ附スヘキ商品
一專用年限

前掲商標ハ何國ノ登錄商標ニシテ特許局審査官ニ於テ登錄スヘキモノト査定シタリ仍テ商標原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年　月　日

特許局長　氏　名印

第八號

第何號(原登錄ノ番號)

商標續用登錄證

本籍(國籍)及ヒ住所

氏　名

印見本

商標ヲ附スヘキ商品

前掲商標ハ明治何年何月何日第何號登錄商標ノ續用ニ係ルモノニシテ特許局審査官ニ於テ登錄スヘキモノト査定シタリ仍テ商標原簿ニ登錄シ茲ニ本證ヲ下付スルモノ也

年　月　日

特許局長　氏　名印

○特許法、意匠法及商標法ヲ臺灣ニ施行スル件　明治三十二年六月二十日　勅令第二九〇號

特許法、意匠法及商標法ヲ明治三十二年七月一日ヨリ臺灣ニ施行ス

○特許、意匠又ハ商標ニ關スル登錄稅額　明治二十九年三月　法律第二七號第十一條摘載

特許

一　譲渡又ハ共有　　毎一件金十圓

二　質入　　毎一件金五圓

意匠

一　譲渡又ハ共有　　物品一類毎ニ金二圓

二　質入　　物品一類毎ニ金一圓

商標

譲渡又ハ共有　　商類一類毎ニ金十圓

○特許、意匠及商標ニ關スル願書其他手數料ノ件　明治三十二年五月十三日　勅令第一九五號

第一條　特許、意匠又ハ商標ニ關シ左ニ掲クル書類ヲ差出ス者ハ手數料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ

一　特許願書　　毎一件金五圓

二　追加特許願書　　毎一件金三圓

三　特許證改訂願書　　毎一件金五圓

四　特許證分割願書　　毎一箇金五圓

五　意匠登錄願書　　毎一件金一圓

六　商標登錄願書　　毎一件金三圓

七　標章登錄願書　　毎一件金三圓

八　登錄商標續用登錄願書　　毎一件金二圓

九　再審査請求書　　毎一件金三圓

十　審判請求書　　毎一件金十二圓

十一　書類ノ謄本ノ請求書　謄本十三行二十五字詰一枚ニ付金十錢、字數一枚ニ滿タサルモノハ一枚トス　歐文書類ノ謄本ハ百語ニ付金十錢、百語ニ滿タサルモノ亦同シ

十二　圖面ノ調製ノ請求書　圖面一枚ニ付金三十錢、以上金三十圓以下ニ於テ調製ノ難易ニ從ヒ特許局長ノ定ムル金額　毎一件金十錢

十三　原簿ノ一覽ノ請求書　毎一件金一圓

十四　博覽會又ハ共進會ノ出品ニ關スル屆書

第二條　手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附則

第三條　本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

○特許、意匠及商標ニ關シ差出ス請求書、申請書ニ要スル手數料ノ件　明治三十二年六月二十日省令第一六號

第一條　特許、意匠又ハ商標ニ關シ左ニ掲クル書類ヲ差出ス者ハ手數料トシテ下ニ定ムル金額ヲ納ムヘシ

一　期日ノ變更又ハ期間延長請求書　毎一件金二十錢

二　證明請求書　毎一件金五十錢

三　審判ニ關スル費用ノ負擔及費用額ノ決定申請書　毎一件金五十錢

四　利用發明ノ特許ニ付原特許證主ニ支拂フヘキ報酬額ノ決定申請書　毎一件金五十錢

五　相續ニ因ル特許證、意匠登錄證又ハ商標登錄證ノ書換申請書　毎一件金一圓

六　特許證ノ再下附請求書　毎一件金三圓

七　意匠登錄證又ハ商標登錄證ノ再下附請求書　毎一件金一圓

第二條　手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

附則

第三條　本則ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

○特許、意匠又ハ商標ニ關スル書類書留郵便ヲ以テ差出ストキ封筒ニ朱書ノ件　明治三十二年七月一日告示第六二號

明治三十二年七月一日以後特許法、意匠法及ヒ商標法施行細則ノ定ムル所ニ依リ書留郵便ヲ以テ願書、請求書、博覽會若クハ共進會ノ出品ニ關スル屆書又ハ差出期間ノ定メアル書類ヲ差出ストキハ其封筒ノ表面ニ「特許(意匠又ハ商標)ニ關スル書類」ト朱書スヘシ

○萬國工業所有權保護同盟條約　明治三十二年七月十二日加入公布　同年同月十五日ヨリ效力發生

白耳義國皇帝陛下、伯剌西爾國皇帝陛下、西班牙國皇帝陛下、佛蘭西共和國大統領、瓜地馬拉共和國大統領、伊太利國皇帝陛下、和蘭國皇帝陛下、葡萄牙國皇帝陛下、三薩瓦共和國大統領、塞爾維亞國皇帝陛下、及端西聯邦政府ハ均シク共同一致シテ各內國人ノ工業及商業ニ對シ完全ニシテ有效ナル保護ヲ保證シ且ツ發明者ノ權利及誠實ナル商業ノ取引ニ擔保ヲ與ヘムコトヲ欲シ之カ爲ニ一ノ條約ヲ締結スルコトニ決定シ左ノ者ヲ各其ノ全權委員ニ任命セリ(全權委員ノ名ハ之ヲ略ス)

因テ各全權委員ハ互ニ其ノ委任狀ヲ示シ良好妥當ナルヲ認メ以テ左ノ條條ヲ協定セリ

第一條　白耳義、伯剌西爾、西班牙、佛蘭西、瓜地馬拉、伊太利、和蘭、葡萄牙、三薩瓦、塞爾維亞及端西國ノ諸政府ハ工業所有權保護ノ爲メ玆ニ同盟ヲ組織ス

第二條　各締盟國ノ臣民或ハ人民ハ他ノ同盟國內ニ於テ發明特許、工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標

或ハ商標及商號ニ關シ其ノ國ノ法律カ內國人ニ對シ現ニ許與シ或ハ將來許與スヘキ一切ノ利益ヲ享有スヘシ故ニ該臣民或ハ人民ハ各國ノ法律カ內國人ヲシテ遵由セシムル所ノ手續及條件ヲ遵守スルニ於テハ內國人ト同一ノ保護ヲ受ケ其ノ權利ノ侵害ニ對シテモ亦同一ナル訴權ヲ有スヘシ

第三條　同盟ニ加入セサル國ノ臣民或ハ人民ニシテ同盟中ノ一國ノ版圖內ニ住居シ或ハ工業若ハ商業ノ營業所ヲ有スル者ハ締盟國ノ臣民或ハ人民ニ準スヘキモノトス

第四條　締盟國中ノ一國ニ於テ合式ニ發明ノ特許出願又ハ工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標或ハ商標ノ登錄出願ヲ爲シタル者ハ他ノ締盟國ニ於テ出願ヲ爲スニ方リ第三者ノ權利ヲ保留シテ下ニ定ムル期限間ハ優先權ヲ有スヘシ

故ニ右期限滿了前ニ他ノ締盟國ニ於テ出願シタルモノハ其ノ中間ニ於テ遂行セラレタル事實殊ニ他ノ出願、第三者カ其ノ發明ヲ公ニシ或ハ實施シタルコト意匠或ハ雛形ノ摸本ヲ發賣シタルコト若ハ標章（製造標或ハ商標）ヲ使用シタルコトニ依リ無效トナルコトナシ

上ニ記載セル優先權ノ期限ハ特許ニ在リテハ六箇月、工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標或ハ商標ニ在リテハ三箇月トス但海外ノ諸國ニ對シテハ各一箇月ヲ加フ

第五條　特許證主カ他ノ同盟國ニ於テ製造シタル物品ヲ特許ヲ得タル國ニ輸入スルモ之カ爲ニ特許ノ效力ヲ失フコトナシ

然レトモ特許證主ハ其ノ特許品ヲ輸入スル國ノ法律ニ從ヒテ其ノ特許ヲ實施スヘキ義務アルモノトス

第六條　總テ本國ニ於テ合式ニ出願ヲ爲シタル製造標或ハ商標ハ他ノ同盟國ニ於テモ其ノ儘出願ヲ許容シ且ツ保護ヲ與フヘシ

出願人ノ主タル營業所ノ所在國ヲ以テ其ノ本國ト看做スヘシ

右ノ主タル營業所カ同盟國內ニ存在セサルトキハ出願人ノ屬スル國ヲ以テ本國ト看做スヘシ

製造標或ハ商標ノ登錄ヲ出願シタル物件ニシテ風俗若ハ公安ニ害アルモノト認メラレタルトキハ其ノ出願ヲ拒絕スルコトヲ得ヘシ

第七條　製造標或ハ商標ヲ附スヘキ製產物ノ性質如何ハ如何ナル場合ニ於テモ標章出願ノ妨害トナルコトナシ

第八條　商號ハ製造標或ハ商標ノ一部ヲ爲スト否トニ拘ハラス出願ヲ要スルコトナクシテ各同盟國內ニ於テ保護セラルヘシ

第九條　不正ナル製造標或ハ商標或ハ商號ヲ附ケタル製產物ハ其ノ標章或ハ商號カ法律上ノ保護ヲ受クヘキ同盟國內ニ輸入ノ際之ヲ差押フルコトヲ得ヘシ

右ノ差押ハ檢事若ハ利害關係人ノ請求ニ因リ各同盟國ノ法律ニ從ヒ之ヲ執行スヘシ

第十條　前條ノ規定ハ製產地ノ表示トシテ虛僞ニ一定ノ地名ヲ附セシ總テノ製產物ニ適用スヘシ但此表示ニ虛構ノ商號ヲ附シ若ハ詐欺ノ意思ヲ以テ僭用シタル商號ヲ附加シタルトキニ限ル

右製產物ノ製造或ハ商業ニ從事スル製造者或ハ商人ニシテ產地トシテ詐稱セラレタル地方ニ住居スル者ハ總テ之ヲ利害關係人ト看做ス

第十一條　締盟國ハ互ニ官設或ハ公許シタル萬國博覽會ニ出品スル製產物ニ對シ假ニ特許的發明、工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標或ハ商標ニ關スル保護ヲ與フルコトヲ約諾ス

第十二條　各締盟國ハ互ニ工業所有權ニ關スル特別ナル事務所ヲ開設シ又發明特許、工業的意匠或ハ雛形若ハ製造標或ハ商標ヲ公衆ニ知ラシムル爲メ中央陳列所ヲ設置スルコトヲ約諾ス

第十三條　「萬國工業所有權保護同盟事務局」ナル名稱ヲ附シテ一ノ萬國事務局ヲ設立スヘシ

右事務局ハ端西聯邦中央政府ノ下ニ置カレ其ノ監督ヲ受ケテ事務ヲ處理スヘシ而シテ之ニ要スル

費用ハ各締盟國政府ニ於テ之ヲ分擔スヘシ又右事務局ノ職制ハ同盟國協議ノ上之ヲ定ムヘシ

第十四條　本條約ハ同盟制度ヲ完全ナラシムヘキ改良ヲ加ヘムカ爲メ時時改正ヲ施スヘシ

右ノ目的ヲ達スル爲メ前記締盟國ノ委員ハ遂次締盟國ノ一ニ會シテ會議ヲ開クヘシ

次回ノ會議ハ千八百八十五年羅馬ニ於テ之ヲ開クヘシ

第十五條　各締盟國ハ本條約ノ規定ニ抵觸セサル限ハ各國間互ニ工業所有權ノ保護ニ關スル特殊ノ取極ヲ爲スノ權利ヲ保留スルモノトス

第十六條　本條約ニ加入セサル國ト雖モ其ノ請求ニ因リ加入スルコトヲ許スヘシ

右ノ加入ハ外交上ノ手續ニ由リ瑞西聯邦政府ニ申込ムヘシ而シテ該政府ヨリ之ヲ他ノ締盟國ニ報告スヘシ

新ニ加入スル國ハ當然本條約ノ全部ニ贊同シタルモノトシ本條約ニ規定スル一切ノ利益ヲ享受スヘシ

第十七條　本條約ニ掲クル所ノ相互的契約ノ履行ハ之ヲ要スル限ハ締盟國ノ中ニ就キ自國ノ憲法所定ノ手續及規定ヲ履行スルノ必要アルモノハ之ニ遵由スヘシ且ツ可成速ニ其ノ手續ヲ爲スノ義務アルモノトス

第十八條　本條約ハ批准交換後一箇月ヲ經テ實施セラルヘキモノトス而シテ本條約ハ無期限ニ有效タルヘク若シ之ヲ拋棄スルトキハ拋棄ノ日ヨリ一箇年ヲ經テ效力ヲ失フモノトス

右ノ拋棄ハ加入申込ヲ受理スルノ權アル政府ニ通知スヘシ拋棄ハ其ノ之ヲ爲シタル國ニ對シテノミ有效ナルモノニシテ他ノ締盟國間ニ於テハ依然本條約ヲ繼續スルモノトス

第十九條　本條約ハ之ヲ批准シ其ノ批准ハ遲クモ一箇年以内ニ巴里ニ於テ交換スヘシ

右證據トシテ各全權委員ハ之ニ記名調印スルモノナリ

千八百八十三年三月二十日巴里ニ於テ之ヲ作ル

白耳義國　ベイアン
伯剌西爾國　ヴヰルヌーヴ
西班牙國　公爵デ、フエルナン、ヌニエス
佛蘭西國　ペー、シヤルメル、ラクール
瓜地馬拉國　シヤルル、エリツソン
伊太利國　シヤルル、エーゲルシユミツト
和蘭國　クリサント、メヂーナ
葡萄牙國　レスマン
三薩瓦國　男爵デ、ゾイレン、デ、ニエヴエルト
塞爾維亞國　ジヨセー、ダ、シルヴア、メンデス、レアール
瑞西國　エフ、デ、アゼヴエード
ホタ、エメ、トーレス、カイセード
シマ、マリノヴイツチ
ラルヂー
ヨツト、ヴアイベル

議定書

工業所有權保護ノ目的ヲ以テ本日白耳義、伯剌西爾、西班牙、佛蘭西、瓜地馬拉、伊太利、和蘭、葡萄牙、三薩瓦、塞爾維亞及瑞西國ノ各政府間ニ締結シタル條約ニ調印スルニ方リ下ニ記名セル各全權委員ハ左ノ事項ヲ協定セリ

第一　「工業所有權」ナル語ハ其ノ最モ廣キ意味ニ解スヘシ即チ純粹ナル工業的製產物ノミナラス農業的製產物（各種ノ葡萄酒、穀類、菜物、畜類等）及商業上取引セラルル鑛產物（鑛泉等）ニモ亦之ヲ適用スルモノトス

第二　「發明特許」ナル名稱ノ中ニハ締盟國ノ國法ニ依リ許與サレタル諸種ノ工業的特許即チ輸入特許、改良特許等ヲ包含ス

第三　本條約第二條末段ノ規定ハ何等ノ點ニ於テモ各締盟國ニ於ケル訴訟手續及裁判所ノ權限ニ關スル法律ヲ侵害セサルモノトス

第四　本條約第六條第一項ハ如何ナル製造標或ハ商標ト雖モ之ヲ組成スル所ノ徽章カ其ノ本國ノ法律ニ照シテ適法ニシテ且ツ本國ニ於テ合式ニ出願ヲ爲シタルモノニ係ルトキハ他ノ締盟國ニ於テハ假令其ノ徽章カ該國ノ法律ニ照シテ適法ナラサルモ之ヲ理由トシテ其ノ保護ヲ拒ムコトヲ得スト云フ意味ニ解釋スヘキモノトス但各締盟國ノ法律ハ標章ノ形ニノミ關スル此例外ヲ除キ及本條約中他ノ條項ノ規定ヲ保留シテ之ヲ適用スヘキモノトス

尙誤解ヲ避ケムカ爲メ公共ノ紋章及勳章ノ使用ハ本條約第六條末段ノ意味ニ隨ヒ公ノ秩序ニ背反スルモノト看做ヲ得ルコトヲ玆ニ約諾ス

第五　第十二條ニ記載シタル工業所有權ニ關スル特別事務所ノ構成中ニハ可成各國ニ於テ定期刊行ノ公報ヲ刊行スヘキコトヲモ包含ス

第六　本條約第十三條ニ依リ設置サレタル萬國事務局ノ共同經費ハ如何ナル場合ニ於テモ毎年各締盟國ノ平均負擔額ヲシテ貳千法ニ當ル總額ヲ超過セシムルコトヲ得ス

右ノ費用總額ニ對シ各國ノ醵出割合ヲ定ムル爲メ締盟國竝ニ將來同盟ニ加入スヘキ國ヲ六等ニ區分シ各等ノ醵出スヘキ部數ノ比例ヲ定ムルコト左ノ如シ

第一等　二十五部
第二等　二十部
第三等　十五部
第四等　十部
第五等　五部
第六等　三部

右ノ系數ニ各等ノ國數ヲ乘シテ得タル積ノ和ハ部ノ總數ヲ示シ之ヲ以テ費用總額ヲ除スレハ費用ノ部數ヲ得ルナリ

費用分擔ノ爲メ締盟國ヲ類別スルコト左ノ如シ

第一等　佛蘭西國、伊太利國
第二等　西班牙國
第三等　白耳義國、伯剌西爾國、葡萄牙國、瑞西國
第四等　和蘭國
第五等　塞爾維亞國
第六等　瓜地馬拉國、三薩瓦國

瑞西聯邦政府ハ萬國事務局ノ支出ヲ監督シ必要ナル立替ヲ爲シ且ツ毎年出納ヲ計算シテ他ノ締盟國政府ニ報告スヘシ

萬國事務局ハ工業所有權ノ保護ニ關スル一切ノ報告ヲ蒐集シテ一般ノ統計ヲ調製シ之ヲ各國政府ニ配付スヘシ萬國事務局ハ同盟公共ノ利益ニ關スル事項ヲ講究スヘシ而シテ又諸政府ヨリ受領シタル書類ヲ參照シテ同盟ノ目的ニ關スル諸問題ヲ佛蘭西語ニテ記載シタル定期刊行ノ雜誌ヲ編纂スヘシ

右雜誌並ニ萬國事務局ニ於テ刊行スル他ノ一切ノ書類ハ前ニ記載セル費用分擔額ニ比例セル部數ヲ同盟國政府ニ分配スヘシ

右部數外ニ雜誌若ハ書類ヲ請求スルトキハ其ノ前記政府タルト會社或ハ個人タルトヲ問ハス別ニ代價ヲ支拂フヘキモノトス

萬國事務局ハ常ニ工業所有權ニ關スル萬國事務問題ニ付同盟國ノ爲ニ其ノ要スル所ノ特殊報告ヲ供スルコトヲ怠ラサルヘシ

次回ノ會議ヲ開クヘキ國ノ政府ハ萬國事務局ノ協力ヲ得テ該會議ノ準備ヲ爲スヘシ

萬國事務局長ハ會議ニ列席シテ討論ニ加入スト雖モ議決ノ數ニ入ラス又同局長ハ其ノ所管事務ニ付毎年報告書ヲ作リ之ヲ同盟國ニ報告スヘシ

佛蘭西語ヲ以テ萬國事務局ノ公用語トス

第七　本議定書ハ本日締結セル本條約ト同時ニ批准セラルヘキモノニシテ右條約ノ一部ヲ爲スモノトシ且ツ之ト同一ノ效力及期限ヲ有スルモノトス

右證據トシテ下ニ記名セル全權委員ハ本議定書ヲ調製スルモノナリ

千八百八十三年三月二十日巴里ニ於テ之ヲ作ル

白耳義國　ベイアン

伯剌西爾國　ヴキルヌーヴ

西班牙國　公爵デ、フエルナン、ヌニエス

佛蘭西國　ベー、シャルル、エリツソン

シャルル、エーゲルシユミツト

シャルル、エーゲルシユミツト

クリサント、メヂーナ

瓜地馬拉國　レスマン

伊太利國　男爵デ、ゾイレン、デ、ニエヴエルト

和蘭國　ジョセー、ダ、シルヴア、メンデス、レアール

葡萄牙國　エフ、デ、アゼヴエード

三薩瓦國　ホタ、エメ、トーレス、カイセード

塞爾維亞國　シマ、マリノヴイツチ

瑞西國　ラルヂー

ヨツト、ヴアイベル

○萬國工業所有機保護同盟事務局維持ニ關スル議定書　明治三十二年七月十二日加入公布

白耳義、伯剌西爾、西班牙、北米合衆國、佛蘭西、大不列顛、瓜地馬拉、伊太利、諾威、和蘭、葡萄牙、瑞典、瑞西及突尼斯國ノ各政府全權委員ハ千八百八十三年三月十二日巴里ニ開キタル萬國工業所有權保護同盟會議ノ宣言ニ據リ批准保留ノ上共同一致シテ左ノ議定書ヲ作レリ

第一條　萬國工業所有權保護ニ關スル千八百八十三年三月二十日ノ同盟條約附屬議定書第六項第一節ハ之ヲ廢止シ左ノ規定ヲ以テ之ニ代フ

本條約第十三條ニ依リ設置サレタル萬國事務局ノ經費ハ締盟國共同シテ之ヲ負擔スヘシ而シテ其ノ費額ハ如何ナル場合ニ於テモ一箇年六萬法ヲ超過スルコトヲ得ス

第二條　本議定書ハ之ヲ批准シ而シテ其ノ批准ハ遅クモ六箇月以内ニ「マドリッド」ニ於テ交換スヘシ

本議定書ハ批准交換後一箇月ヲ經テ効力ヲ生スルモノトス而シテ千八百八十三年三月二日ノ條約ノ一部ヲ爲スモノトシ且ツ之ト同一ノ効力及期限ヲ有スルモノトス

右證據トシテ下ニ列記セル各國全權委員ハ千八百九十一年四月十五日「マドリッド」ニ於テ本議定書ニ記名スルモノナリ

白耳義國　テオドール、ド、ブンデル、ド、メルスブルック
伯剌西爾國　ルイス、エフ、ダブルー
西班牙國　エス、モレ
佛蘭西國　侯爵デ、アグイラル
突尼斯國　エンリーケ、カリーハ
大不列顛國　ルイス、マリアーノ、デラーラ
瓜地馬拉國　イー、バード、グラッブ
伊太利國　ベー、カンボン
北米合衆國　ラフンシス、クレア、フォード
諾威國　ホタ、カレーラ
和蘭國　マッフエイ
葡萄牙國　アリルド、ヒユイトフエルト
瑞典國　ゲリツク
瑞西國　伯爵デ、カーザル、リベイーロ
　　アリルド、ヒユイトフエルト
　　シヤルル、ユ、ラルデ
　　モレル

○萬國工業所有權保護同盟條約加入國　明治三十二年七月十三日告示第七一號

千八百八十三年三月二十日巴里ニ於テ締結セラレタル萬國工業所有權保護同盟條約ニ加入セル國ハ左ノ如シ

一白耳義
一伯剌西爾
一丁抹（フロエ島）
一ドミニケン（共和國）
一西班牙
一亞米利加合衆國
一佛蘭西、アルゼリー及佛蘭西殖民地
一英吉利（ニュー、ジーランド及クキンスランド）
一伊太利
一諾威

三十二年告示第一〇三號ヲ以テ佛國及葡國中追加

一和蘭（西領印度、スリナム及クラサオ）
一葡萄牙、アソール及マデール
一塞爾維
一瑞典
一瑞西
一突尼斯

○特許局審判事務章程

明治三十二年六月十七日
勅令第二七九號

第一條　特許局長ハ各審判事件ニ付審判官ヲ指定ス可シ

第二條　特許局長ハ審判官中審判ニ參與スルコト能ハサル故障アル者アルトキハ其ノ指定ヲ解キ更ニ他ノ審判官ヲ指定シテ之ヲ補充ス可シ

第三條　審判長ハ指定審判官ノ中上席者ヲ以テ之ニ充ツ

第四條　審判長ハ審判ニ關スル事務ヲ統理ス

第五條　審判長ハ一名若ハ二名ノ主査審判官ヲ命スルコトヲ得

第六條　審決ハ審判評議ヲ經ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　審決ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ審判長ノ決スル處ニ依ル

第八條　審判官ハ左ノ事件ニ參與スルコトヲ得ス

一　自己又ハ其ノ親族ニ關スル事件

二　直接又ハ間接ニ利害ノ關係ヲ有シタル事件

三　審査官トシテ審査ニ參與シタル事件

附則

第九條　本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

○特許代理業者登錄規則

明治三十二年六月八日
勅令第二三五號

第一條　特許代理業者ト稱スルハ特許、意匠又ハ商標ニ關スル代理ヲ常業トスル者ヲ謂フ

第二條　特許代理業者ノ登錄ヲ受ケントスル者ハ能力者ニシテ且特許代理業者試驗ニ合格シタル者ナルコトヲ要ス

特許代理業者試驗ニ關スル規定ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條　左ニ掲クル者ハ試驗ヲ經スシテ登錄ヲ受クルコトヲ得

一　文官高等試驗又ハ判事檢事登用試驗ニ合格シタル者

二　帝國大學分科大學又ハ之ト學科程度同等ト認ムル內外國ノ學校ニ於テ定規ノ課業ヲ卒ヘタル者

三　辯護士タル資格ヲ有スル者

四　特許局ノ高等官タリシ者又ハ二年以上特許局審査官補タリシ者

第四條　左ニ掲クル者ハ登錄ヲ受クルコトヲ得ス

一　特許法、意匠法、商標法又ハ第十五條ニ定メタル罪ヲ犯シタル者

二　重罪ノ刑ニ處セラレタル者但シ國事犯ニシテ復權シタル者ハ此ノ限ニ在ラス

三　禁錮ニ處セラレ滿期又ハ赦免ノ後三年ヲ經サル者

四　公權停止中ノ者

五　破產若ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者又ハ身代限ノ處分ヲ受ケ債務ノ辨償ヲ終ヘサル者

第五條　特許代理業者ニシテ第二條若ハ第三條ノ資格ヲ失ヒ又ハ第四條ニ該當スルトキハ登錄ハ直ニ其ノ效ヲ失フ

第六條　登錄ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ金十圓ヲ納ムヘシ

前項ノ手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

手數料ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ還付セス

第七條　登錄願書ニハ履歷書及第二條第一項第三條並第四條ノ事項ニ關スル證明書ヲ添附スヘシ

第八條　特許局ニハ特許代理業者名簿ヲ備ヘ左ノ事項ヲ登錄スヘシ

一　特許代理業者ノ氏名、住所

二　事務所

三　登錄ノ年月日

第九條　前條第一號及第二號ニ揭ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ特許代理業者ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ特許局ニ屆出ツヘシ特許代理業者其業務ヲ廢止シタルトキ亦同シ

特許代理業者死亡シタルトキハ其ノ相續人ハ遲滯ナク其旨ヲ屆出ツヘシ

前二項ノ屆出アリタルトキハ特許局長ハ特許代理業者名簿ニ其ノ旨ヲ登錄スヘシ

第十條　特許代理業ヲ停止シ又ハ其ノ停止ヲ解キタルトキハ特許局長ハ特許代理業者名簿ニ其ノ旨ヲ登錄スヘシ

第十一條　特許代理業ヲ禁止シタルトキ及第五條ノ事實アリタルトキハ特許局長ハ特許代理業者名簿ニ抹消ノ登錄ヲ爲スヘシ

第十二條　特許代理業者名簿ニ登錄シタル事項ハ官報特許公報及商標公報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第十三條　特許代理業者ハ相手方ノ代理人トシテ取扱ヒタル事件又ハ特許局在職中取扱ヒタル事件ニ付其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス

第十四條　特許代理業者組合ヲ設ケタルトキハ組合規約ヲ定メテ特許局長ノ認可ヲ受クヘシ組合規約ヲ變更シタルトキ亦同シ其ノ組合ヲ廢止シタルトキハ特許局ニ屆出ツヘシ

第十五條　登錄ヲ受ケスシテ特許代理業ヲ營ミ若ハ特許代理業者ト公稱シタル者又ハ詐僞ノ所爲ヲ以テ登錄ヲ受ケタル者ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

特許代理業ヲ停止若ハ禁止セラレ又ハ第五條ニ依リ登錄ノ效ヲ失ヒ仍業務ヲ營ミタル者亦前項ニ同シ

附　則

第十六條　本令發布前ヨリ特許代理業ヲ營ム者ニシテ第三條ニ該當セサル者ハ特許代理業者試驗委員ノ銓衡ヲ經テ登錄ヲ受クルコトヲ得但シ本令施行ノ日ヨリ三十日以內ニ出願シタル者ニ限ル

第十七條　本令ハ明治三十二年七月一日ヨリ施行ス

○特許代理業試驗規則（明治三十二年十一月四日　省令第二九號）

第一條　特許代理業者試驗ハ特許代理業者試驗委員之ヲ行フ

第二條　試驗ノ期日及ヒ場所ハ豫メ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第三條　特許代理業者登錄規則第四條ニ揭ケタル者ハ試驗ヲ受クルコトヲ得ス

第四條　特許代理業者試驗ヲ受ケントスル者ハ其願書ニ履歷書ヲ添附シ之ヲ試驗委員長ニ差出スヘ

シ

第五條　特許代理業者試驗ヲ受ケントスル者ハ手數料トシテ金五圓ヲ納ムヘシ

手數料ハ收入印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ

手數料ハ如何ナル場合ニ於テモ之ヲ還付セス

第六條　特許代理業者試驗ハ左ノ科目ニ付キ之ヲ行フ

一　特許、意匠及ヒ商標ニ關スル法令

二　民法、刑法、民事訴訟法及ヒ刑事訴訟法

三　數學、物理學及ヒ化學

前項第二號及ヒ第三號ニ掲ケタル科目ハ試驗ヲ受ケントスル者ニ於テ其一ヲ選擇スルコトヲ得

第七條　特許代理業者試驗ハ筆記トス

試驗委員必要ト認ムルトキハ筆記試驗ニ合格シタル者ニ對シテ口述試驗ヲ行フコトヲ得

第八條　不正ノ方法ニ依リ試驗ニ合格シタルトキハ其合格ハ無效トス

第九條　試驗合格者ヲ定ムル方法ハ試驗委員ノ議定スル所ニ依ル

第十條　試驗合格者ノ氏名ハ官報ヲ以テ之ヲ公告スヘシ

第十一條　試驗合格者ニハ合格證書ヲ授與ス

○特許局圖書出納規程（省中一般）

明治二十五年十二月五日
訓令庚第六號

第一章　總則

第一條　此規程ニ於テ圖書ト稱スルハ特許局所管ニ屬スル書籍圖畫及ヒ同局刊行ノ特許明細書公報類其他所藏ノ公文書類ヲ云フ

第二條　圖書出納ハ農商務大臣又ハ特許局長ノ命令ニ依リ之ヲ執行ス

第三條　特許局長ハ圖書ヲ管理シ責任アル官吏ヲ物品會計官吏トナシ之ヲ監督スヘシ

第四條　圖書貸借規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　購入　寄贈

第五條　特許局長ニ於テ圖書ヲ購入シ又特許明細書公報類等ノ如ク刊行物ヲ印刷セントスルトキハ物品會計官吏ニ命シ官房會計課ニ請求ノ手續ヲナサシムヘシ

第六條　圖書ヲ寄贈スルモノアルトキハ特許局長ハ其事由ヲ農商務大臣ニ具申シ命令ヲ得テ之ヲ受入ルヘシ

第三章　不用處分　保管轉換

第七條　不用ニ屬シタル圖書ヲ處分セントスルトキハ特許局長ハ書目員數及ヒ代價ヲ調査シ其處分方法ヲ農商務大臣ニ具申シ裁可ヲ經テ之レカ處分ノ手續ヲナスヘシ

第八條　圖書ノ保管ヲ他官廳若クハ本省各局課ヘ轉換スルノ必要アルトキハ特許局長ハ書目員數價格及ヒ理由ヲ具シ農商務大臣ノ裁可ヲ經テ之ヲ處理スヘシ

但特許局刊行ノ特許明細書及ヒ公報類ハ此限ニアラス

第四章　保管　監督　責任

第九條　購入寄贈其他受入レタル圖書ハ物品會計官吏之ヲ文庫ニ藏置スヘシ

但一時文庫ニ藏置シ難キ場合ニハ相當ノ取締ヲナスヘシ、

第十條　文庫所藏ノ圖書ハ物品會計官吏之ヲ保管スヘシ

第十一條　物品會計官吏故意又ハ怠慢ニ由リ保管ノ圖書ヲ亡失毀損シタルトキハ賠償ノ責ニ任スヘ

シ

第十二條　特許局長ハ圖書ノ亡失毀損盜喰等ノ患害ヲ豫防スル爲メ相當ノ取締方法ヲ設クヘシ

第十三條　農商務大臣ハ特ニ臨時委員ヲ命シ在庫及ヒ貸渡ノ圖書ヲ檢閲セシムルコトアルヘシ

第五章　帳簿

第十四條　物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ圖書ノ出納ヲ整理スヘシ

一　圖書原簿

一　刊行物原簿

一　公文類原簿

前項ノ外必要ノ補助簿ヲ設クルハ適宜タルヘシ

第六章　報告

第十五條　物品會計官吏ハ會計檢査院ノ檢査判決ヲ受クル爲メ毎年度間ニ執行シタル圖書（公文書類ヲ除ク）出納ノ計算書ヲ調製シ證憑書類ヲ添ヘ翌年度六月十五日限リ之ヲ農商務大臣ニ差出スヘシ

物品會計官吏交代シタルトキハ前項ニ準シ計算書ヲ差出スヘシ

但死亡其他ノ事項ニ由リ自ラ計算書ヲ作ル能ハサルトキハ他ノ官吏ヲシテ之ヲ調製セシムヘシ

第十六條　前條ノ計算書ハ特許局長若クハ圖書館監督下檢査ヲ行ヒ其下檢査書ヲ添付シテ期限内ニ之ヲ會計檢査院ニ送付スヘシ

○特許局圖書貸借規程　明治二十五年十二月五日訓令庚第六號

第一章　總則

第一條　此規程ニ於テ圖書ト稱スルハ特許局圖書出納規程第一條ニ掲クルモノヽ外特許局ニ受託シ又ハ借入レタル圖書ヲ云フ

第二條　特許局ニ受託シ又ハ借入レタル圖書ハ同局主管ノ圖書ト共ニ特許局長之ヲ管理ス

第二章　閲覧　貸渡

第三條　特許局所管ノ圖書ハ同局事務上ノ參照ニ供スルモノトス

第四條　圖書ヲ閲覧セントスル者ハ閲覧證ヲ差入レ之ヲ借覧スヘシ

第五條　閲覧ノ圖書ハ即日退廳時間前圖書館ヘ返還スヘシ

第六條　特許局審判官、審査官同補ヲ除クノ外圖書ヲ借受クルコトヲ得ス

但執務上必要アルトキハ此限ニアラス

第七條　圖書ヲ借受ントスルトキハ特許局長ノ承諾ヲ經テ三十日ノ期限内ニ於テ豫メ日限ヲ定メ借受證ヲ差入レ之ヲ借受クヘシ

第八條　借受ノ圖書ハ之ヲ轉貸スルコトヲ得ス

第九條　借覧者轉任出張旅行若クハ退職スルトキハ借受ノ圖書ヲ返還スヘシ

第十條　臨時檢査取調等ノ必要アルトキハ圖書ノ貸渡及ヒ閲覧ヲ拒絶シ又ハ既ニ貸渡シタルモノ及ヒ閲覧中ノモノト雖トモ之ヲ返還セシムルコトアルヘシ

第十一條　借受又ハ閲覧圖書ノ返還アルトキハ物品會計官吏ニ於テ借受證ト引替ノ上貸渡簿ニ返還ノ消印ヲナシ若クハ閲覧證ト引替フヘシ

第三章　受託　借入

第十二條　閲覧ニ供スルノ目的ヲ以テ圖書ヲ委託セント申出ツルモノアルトキハ物品會計官吏ハ其事由書目員數等ヲ詳記シ特許局長ノ認可ヲ得テ受託ノ手續ヲナスヘシ

第十三條　圖書ノ委託ヲ受クルトキハ別紙書式ニ準シ受託證ヲ交付スヘシ

第十四條　執務上ノ必要ニ依リ他官廳若クハ本省各局課ヨリ圖書ヲ借入レントスルトキハ物品會計官吏ハ其事由書目員數等詳記シ特許局長ノ認可ヲ得テ借入ノ手續ヲナスヘシ

第十五條　受託及借入圖書ノ返還ヲ諸求スル者アルトキハ物品會計官吏ハ其事由書目員數等ヲ詳記シ特許局長ノ認可ヲ得テ返還ノ手續ヲナスヘシ

第十六條　受託及ヒ借入ノ圖書ヲ返還スルトキハ物品會計官吏ニ於テ受託證若クハ借受證ト引替ノ上原簿ヘ返還ノ消印ヲナスヘシ

第四章　保管　責任

第十七條　受託及ヒ借入ノ圖書ハ物品會計官吏ニ於テ特許局主管ノ圖書ト同一ニ之ヲ保管スルモノトス

第十八條　借受及ヒ閲覧中ノ圖書ハ借覧者ニ於テ之ヲ保管スルモノトス

第十九條　保管ノ責任アルモノ故意又ハ怠慢等ニヨリ保管ノ圖書ヲ亡失毀損シタルトキハ賠償ノ責ニ任スヘシ

第五章　帳簿

第二十條　物品會計官吏ハ左ノ帳簿ヲ備ヘ圖書ノ貸借ヲ明ニスヘシ

一　圖書貸渡原簿
一　圖書借入原簿
一　圖書受託原簿

（書式）

別記ノ圖書本局圖書館ニ委托セラレ正ニ領收ス右ハ本館規程ニ照準シ厚ク之ヲ保管スヘシ因

テ爰ニ受託ノ旨ヲ證ス

但保管中不虞ノ災害ニヨリ亡失毀損ヲ來スコトアリトモ本館ハ其責ニ任セス

年　月　日

宛

農商務省特許局長

水産

○漁業法　三十四年四月十二日　法律第三四號

第一條　本法ニ於テ漁業ト稱スルハ營利ノ目的ヲ以テ水産動植物ノ採捕又ハ養殖ヲ業トスルヲ謂フ

本法ニ於テ漁業者ト稱スルハ漁業ヲ爲ス者及漁業權ヲ享有スル者ヲ謂フ

第二條　私有水面ニハ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外本法ノ規定ヲ適用セス

第三條　漁具ヲ定置シ又ハ水面ヲ區畫シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ其ノ免許ヲ受クヘキ漁業ノ種類ハ主務大臣之ヲ指定ス

前項ノ外主務大臣ニ於テ免許ヲ必要ト認ムル漁業ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　水面ヲ專用シテ漁業ヲ爲スノ權利ヲ得ムトスル者ハ行政官廳ノ免許ヲ受クヘシ

前項ノ免許ハ漁業組合ニ於テ其ノ地先水面ヲ專用セムトスル場合ヲ除クノ外從來ノ慣行アルニ非サレハ之ヲ與ヘス

第五條　漁業組合ニ於テ其ノ地先水面ノ專用ヲ出願シタルトキハ行政官廳ハ漁業ノ種類ヲ限定シテ免許ヲ與フルコトヲ得

從來ノ慣行ニ因リ前條ノ免許ヲ出願シタルトキハ行政官廳ハ其ノ慣行ニ因リ漁場ノ區域及漁業ノ種類ヲ定メ之ヲ免許ス

第六條　漁業免許ノ期間ハ二十ヶ年以内トス但シ第九條第一項ニ依リ免許ヲ停止シタル期間ハ免許期間ニ算入セス

免許期間ハ免許ヲ受ケタル者ノ申請ニ依リ之ヲ更新スルコトヲ得

第七條　漁業權ハ相續、讓渡共有及貸付ノ目的ト爲スコトヲ得但シ地先水面專用ノ漁業權ヲ處分スルハ行政官廳ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第八條　漁業權ハ免許ヲ受ケタル日ヨリ一箇年間漁業ニ從事スル者ナキトキハ行政官廳ニ於テ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得引續キ二箇年間休業シタルトキ亦同シ但シ行政官廳ノ認可ヲ受ケ休業シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第九條第一項ニ依リ免許ヲ停止シタル期間ハ前項ノ期間ニ算入セス

第九條　行政官廳ハ水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他公益上必要アリト認ムルトキハ漁業免許ヲ制限シ若ハ停止シ又ハ之ヲ取消スコトヲ得

漁業者ニシテ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ違背シタルトキ亦前項ニ同シ

第十條　漁場ノ區域又ハ方位ヲ標示スル爲メ標識ヲ建設セムトスル者ハ他人ノ土地ニ立入リ又ハ之ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ漁業者ハ行政官廳ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條　行政官廳ハ漁業者ニ漁場ノ標識ノ建設ヲ命スルコトヲ得

第十二條　第十條ニ依リ他人ノ土地ニ立入リ又ハ之ヲ使用スルカ爲メ生シタル損失ハ其ノ請求ニ依リ之ヲ補償スヘシ

第十三條　地方長官ハ水産動植物ノ蕃殖保護又ハ漁業取締ノ爲メ主務大臣ノ認可ヲ得テ左ノ命令ヲ發スルコトヲ得

一水産動植物ノ採捕若クハ販賣ニ關スル制限又ハ禁止

一漁具、漁船若ハ採捕ノ方法ニ關スル制限又ハ禁止

一漁業者ノ數又ハ其ノ資格ノ制限
一水産動植物ニ有害ナル物質ノ遺棄ニ關スル制限又ハ禁止
主務大臣ニ於テ前項ノ制限又ハ禁止ヲ爲スノ必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ之ヲ定ム
前二項ノ命令ニハ漁具及漁獲物ノ沒收ニ關スル罰則ヲ設クルコトヲ得

第十四條　主務大臣ハ遡河魚類ノ通路ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ一定ノ區域内ニ於ケル工作物設置ノ制限又ハ禁止ニ關スル命令ヲ發スルコトヲ得
工作物ニシテ遡河魚類ノ通路ヲ害スルモノト認ムルトキハ主務大臣ハ其ノ所有者ニ除害工事ヲ命スルコトヲ得

第十五條　前條第二項ニ依ル除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ハ工作物ノ所有者ニ對シ相當ノ金額ヲ補償スヘシ但シ利害關係人ノ申請ニ依リ除害工事ヲ命シタルトキハ主務大臣ノ定ムル所ニ依リ申請者之ヲ補償スヘシ

第十六條　行政官廳ハ水産動植物ノ蕃殖保護ニ必要アリト認ムルトキハ公有水面ニ通スル私有水面ニ前三條ノ規定ヲ適用スルコトヲ得

第十七條　漁業ニ從事スル雇人及雇主ノ取締ニ關スル規定ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第十八條　一定ノ區域内ニ住所ヲ有スル漁業者ハ行政官廳ノ認可ヲ得テ漁業組合ヲ設置スルコトヲ得
漁業組合ノ地區ハ濱、浦、漁村其ノ他漁業者ノ部落ノ區域ニ依リ之ヲ定ムヘシ
前項ノ區域ニ依リ難キ場合ニ於テハ市町村又ハ之ニ準スヘキ區域内ニ於テ其ノ地區ヲ定ムルコトヲ得
北海道ニ於テハ郡ヲ以テ漁業組合ノ地區ト爲スコトヲ得

第十九條　漁業組合ハ漁業權ノ享有及行使ニ付權利ヲ有シ義務ヲ負フ但シ自ラ漁業ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條　漁業組合ニ於テ其ノ地先水面ノ專用ノ免許ヲ受ケタルトキハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合員ヲシテ漁業ヲ爲サシムヘシ

第廿一條　漁業組合ノ設置、管理及監督ニ關スル規定ハ主務大臣之ヲ定ム

第廿二條　漁業者又ハ水産動植物ノ製造若ハ販賣ヲ業トスル者ハ水産業ノ改良發達及水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ルノ爲水産組合ヲ設置スルコトヲ得
水産組合ニ關シテハ重要物産同業組合法ノ規定ヲ準用ス但シ同法中農商務大臣ニ屬スル職權ハ主務大臣之ヲ行フ

第廿三條　漁業免許若ハ其ノ更新ヲ拒否セラレタル者又ハ第八條、第九條若ハ第十四條第二項ノ處分ヲ受ケタル者其ノ處分ニ不服ナルトキハ訴願ヲ提起スルコトヲ得
前項ノ處分ニ依リ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスル時ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十四條　漁業免許ノ違法許可若ハ其ノ更新ニ依リ權利ヲ傷害セラレタリトスル者ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十五條　漁場ノ區域、漁業權ノ範圍又ハ漁業ノ方法ニ付漁業者ノ間ニ爭アルトキハ關係者ヨリ行政官廳ニ裁決ヲ申請スルコトヲ得
前項ノ裁決ニ依リ違法ニ權利ヲ傷害セラレタリトスル申請者又ハ爭議ノ相手方ハ行政訴訟ヲ提起スルコトヲ得

第二十六條　免許ニ依ラスシテ免許ヲ受クヘキ漁業ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス免許ノ停止中又ハ免許ノ條件若ハ制限ニ違背シテ漁業ヲ爲シタル者亦同シ

前項ノ場合ニ於テハ漁獲物及何人ノ所有ヲ問ハス漁具ヲ沒收ス但シ沒收スヘキ漁獲物ヲ既ニ讓渡シ又ハ消費シタルトキハ其ノ代金ヲ追徵ス

第二十七條　使用人、漁夫其ノ他ノ從業者ノ所爲ハ漁業者ノ所爲ト看做シ前條ノ罰則ハ之ヲ漁業者ニ適用ス

第二十八條　第三條、第四條ノ權利ヲ侵害シタル者ハ被害者ノ告訴ニ因リ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十九條　漁場ノ標識ヲ移轉シ又ハ毀壞シタル者ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十條　明治三十三年法律第五十二號ノ規定ハ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ適用ス

附則

第三十一條　本法ハ明治三十五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三十二條　本法ノ規定ハ臘虎臘鵜獸獵法ノ効力ヲ妨ケス

第三十三條　本法施行前ニ受ケタル漁業ノ免許又ハ公有水面使用免許ニ依ル第三條ノ漁業者ハ本法施行ノ日ニ於テ本法ニ依リ免許ヲ受ケタルモノト看做ス但シ其免許期間ハ第六條ノ期間内ニ於テ行政官廳之ヲ定ム

第三十四條　從來ノ慣行ニ因ル第三條又ハ第四條ノ漁業者ハ本法施行ノ日ヨリ一箇年以内ニ出願スルトキハ之ニ免許ヲ與フヘシ

前項ノ漁業者ハ其ノ免許ヲ出願シタル者ニ在リテハ許否ノ處分ヲ受クル迄ノ間其ノ他ニ在リテハ本法施行後一箇年間仍從前ノ例ニ依リ漁業ヲ爲スコトヲ得

第三十五條　本法施行前ニ於テ水産業ノ改良發達及水産動植物ノ蕃殖保護其ノ他水産業ニ關シ共同ノ利益ヲ圖ル爲行政官廳ノ認可ヲ得テ設置シタル組合ニシテ本法又ハ本法ニ基ツキテ發スル命令ノ規定ニ牴觸セサルモノハ本法施行ノ日ヨリ本法ニ依ル水産組合ト看做ス

○漁業法施行準備ニ關スル臨時職員ノ件　明治三十四年六月二十日　勅令第一三六號

漁業法施行準備ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲農商務省ニ臨時左ノ職員ヲ置キ水産局ニ屬セシム

技師　專任四人

屬　專任二人

技手　專任六人

○漁業法施行準備ニ關スル府縣臨時職員ノ件　明治三十四年六月二十日　勅令第一三七號

府縣知事ハ漁業法施行準備ニ關スル事務ヲ掌理セシムル爲漁業法施行準備費豫算定額内ニ於テ臨時屬及技手ヲ置クコトヲ得

前項職員ノ定員ハ各府縣ヲ通シテ五十五人トシ其ノ配置ハ農商務大臣之ヲ定ム

○捕魚採藻ノ爲メ海面所用ノ件　明治八年十二月十九日　布告第一九五號

從來人民ニ於テ海面ヲ區畫シ捕魚採藻等ノ爲メ所用致居候者有之候處右ハ固ヨリ官有ニシテ本年二月第二十三號布告以後ハ所用ノ權無之候條從前ノ通所用致度者ハ前文布告但書ニ準シ借用ノ儀其管轄廳ヘ可願出此旨布告候事

（參照）　第二十三號　明治八年二月二十日布告

從來雜稅ト稱スルハ舊慣ニ因リ區々ノ收稅ニテ輕重有無不平均ニ付別紙稅目ノ分本年一月一日ヨリ相廢シ候尤右ノ内追テ一般ニ課稅スヘキ分モ可有之候得其差向收稅無之テハ營業取締差支

九年七月十八日太政官達第七十四號ヲ以テ但書取消ス

候類ハ當分地方ニ於テ改テ收稅ノ筈ニ候條此旨布告候事

但從前官有地借用右代料トシテ米金相納候分ハ是迄ノ通可相心得事

○海面借用願ニ關スル件（沿海府縣）明治八年十二月十九日太政官達第二一五號

捕魚採藻等ノ爲メ海面所用ノ儀ニ付今般第百九十五號ヲ以テ布告候ニ付テハ右借用願出候者ハ調査ノ上差許其都度內務省ヘ可屆出此旨相達候事

○捕魚採藻者ニ府縣稅ヲ賦シ營業取締ノ件（沿海府縣）明治九年七月十八日太政官達第七四號

明治八年十二月第二百十五號ヲ以テ捕魚採藻ノ爲メ海面所用ノ義ニ付相達置候處詮議ノ次第有之右但書取消シ候條以來各地方ニ於テ適宜府縣稅ヲ賦シ營業取締ハ可成從來ノ習慣ニ從ヒ處分可致此旨相達候事

（參照）明治八年十二月十九日第二百十五號太政官達

但是迄當分ノ收稅致來候分ハ其稅額ヲ以テ借用料ニ引直シ可申事

○湖川池沼所用ノ件（府縣）明治九年十月三日內務省乙達第一一六號

捕魚採藻ノ爲メ海面所用ノ儀ニ付本年第七十四號ヲ以テ沿海府縣ヘ公達ノ旨モ有之付テハ湖川ト雖トモ總テ海面ニ準シ處分可致其他官有ニ屬スル池沼ハ人民ノ願ニ因リ他ニ無障碍分ハ明治七年當省乙第五十五號達ニ照準各種ノ名儀ヲ以テ借用料收入所用可差許積相心得當省ヘ可申出此旨相達候事

（參照）乙第五十五號（府縣）明治七年九月七日內務省達

今般當省乙第五十三號ヲ以テ相達候通當省事務章程改正相成候ニ付爾後別紙ノ通相改候事

但今後條目ノ通可相改筈ノ處本年ノ儀ハ收入時節差迫リ事務多端ノ儀ニ付從來稅名ヲ以テ地

二十三年一月二十一日訓令乙水第二號ヲ以テ靜岡縣ヘ同文ヲ訓令ス

租帳並ニ雜稅帳ヘ組入來候分ニ限リ來明治八年一月一日ヨリ相改可申事

（別紙略ス）

○漁業ヲ保護シ水產ノ蕃殖ヲ計ル件（府縣）明治十四年一月二十日內務省達乙第二號

水產ノ盛殖ヲ謀ルハ國家經濟ノ要務ニ候處置縣以降往々舊慣ヲ變易シテ捕魚其宜ヲ失シ爲之水族ノ蕃殖ヲ妨ケ巨多ノ障碍ヲ生シ候類不少哉ニ相聞候ニ付篤ト實地取調ノ上一層漁業ヲ保護シ水產ノ盛殖ニ注意可致此旨相達候事

⊙魚兒介苗等捕採制限ノ件（道廳府縣（沖繩縣ヲ除ク））明治十九年六月三十日訓令第九號

魚兒介苗其他未成長ノ苦藻等濫リニ之ヲ捕採セサル樣各地ノ狀況ニ從ヒ適宜之カ制限ヲ立ツヘシ

○眞珠介採收取締ノ件（京都府神奈川縣長崎縣三重縣石川縣山口縣高知縣鹿兒島縣沖繩縣靜岡縣）明治二十二年五月二十四日訓令乙第二四一九號

眞珠ハ海產ノ重要品ナルニ該介濫獲ノ弊ヲ生シ漸次減耗セシムルニ付左ノ要項ニ準シ適宜ノ取締法ヲ設ケ屆出ツヘシ

眞珠介採收取締要項

一　產卵ノ季節ニ於テ採介ヲ禁スル事

一　稚介ノ採收ヲ禁スル事

一　眞珠介ノ附着スヘキ石類ヲ濫ニ取除ヲ禁スル事

一　眞珠介產地ノ海底ヲ攪拌スル漁具即手操網等ノ使用ヲ禁スル事

○銃射捕鯨ノ件　明治二十六年三月十七日　内訓農第一三三〇號

銃射捕鯨ヲ爲サントスル者アルトキハ漁場漁船ノ種類其數及積量乘組員等ヲ詳記シテ出願セシメ其縣限リ處分スヘシ但漁場ノ他府縣海面ニ亘ルモノハ前記事項ヲ具シ意見ヲ附シテ本大臣ヘ經伺ノ上處分スヘシ此旨内訓ス

○漁業取締及組合規則其他ノ命令經伺ノ件（道廳府縣）　明治二十八年十月二十三日　訓令第一四號

漁業取締及漁業組合規則其他水産動植物ノ蕃殖保護等ニ關スル命令ハ自今本大臣ヘ經伺ノ上施行スヘシ但從前發布ニ係ル命令ノ改正又ハ廢止ヲナサントスルトキモ本文ニ準スヘシ

○臘虎臘鼬獣獵法　明治二十八年三月二日　法律第一〇號

第一條　臘虎臘鼬獣ヲ獵獲セムトスル者ハ農商務大臣ノ免許ヲ受クヘシ

第二條　獵虎臘鼬獵保護ノ爲勅令ヲ以テ禁獵區及禁獵期ヲ設ケ獵船、獵具、獵法ヲ制限シ牝牡、年齢ニ依リ其ノ獵獲ヲ禁止スルコトヲ得

第三條　軍艦艦長、警察官吏、稅關官吏其ノ他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ獵虎臘鼬獣獵船、獵具及獵獲物ノ檢査ヲ行ヒ犯則者ト認ムヘキ者及船員ヲ抑留シ獵船、船具、獵具、船籍證書及獵獲物ヲ差押フルコトヲ得

第四條　禁獵區内又ハ禁獵期間ニ於テ獵虎臘鼬獣ノ獵獲ヲ爲シタル者ハ一月以上一年以下ノ重禁錮又ハ二十圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處シ何人ノ所有ヲ問ハス獵船、船具、獵具及獵獲物ヲ沒收ス

第五條　獵船、獵具、獵法ノ制限及牝牡、年齢ニ依レル獵獲ノ禁止ニ違背シ又ハ獵船、獵具及獵獲物ノ檢査ニ關スル規程ニ違背シタル者ハ十一日以上一月以下ノ重禁錮又ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　第一條ノ免許ヲ受ケスシテ臘虎臘鼬獣ヲ獵獲シタル者ハ二圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ獵獲物ヲ沒收ス

第七條　第四條、第六條ニ依リ沒收セラルヘキ獵獲物ヲ既ニ販賣シタルトキハ其ノ代價ヲ追徵ス

第八條　此ノ法律ハ明治二十九年一月一日ヨリ施行ス

明治十七年第十六號布告及明治十九年勅令第八十號ハ此ノ法律施行ノ日ヨリ廢止ス

○臘虎臘鼬獣獵免許規則　明治二十八年十二月六日　省令第一二號

第一條　臘虎若クハ臘鼬獣ヲ獵獲セントスル者ハ其住居地又ハ獵船定繫所管轄ノ地方長官（東京府下ハ警視總監）（臘以下之ニ倣フ）ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

第二條　前條獵業免許ノ願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ但地先沿岸ニ於テ獵銃ヲ使用セス臘虎若クハ臘鼬獣ノ獵獲ヲナス者ハ第三ノ事項ヲ記載スルヲ要セス

一　獵業ノ種類
二　本籍及住所身分
三　獵船ノ數及其船名噸數
四　獵船定繫場
五　獵期及獵場
六　獵具獵法

第三條　獵業ヲ免許シタルトキハ左ノ雛形ニ依リ各獵船ニ免許證ヲ下付ス

（水色紙）

五寸五分

表

花紋

印

許證

獵虎（膃肭獸）獵業免

第　號

番號	本籍及身分	住所	氏名	船名又ハ種類	獵船定繫場

明治年月日

農商務省

裏

獵業從事之檢閲

警察署檢印	檢閲ヲ受ケタル年月日	警察署檢印	檢閲ヲ受ケタル年月日	備考

第四條　獵業免許ヲ得タル者獵業ニ從事スルトキハ出港地管轄警察本分署ニ屆出テ獵期ノ終了ニ際シ獵船定繫場若クハ寄港地管轄ノ警察本分署ニ獵業免許證ヲ差出シ檢印ヲ受クヘシ

前項警察本分署ノ檢印ヲ受ケサルコト二箇年以上ニ渉ルトキハ免許ノ効ヲ失フモノトス

第五條　獵業免許ヲ得タル者ハ左ノ雛形ニ依リ旗章ヲ製シ獵業ニ從事スルトキハ常ニ船檣又ハ船部ノ見易キ所ニ掲クヘシ

獵船ニ屬スル端艇ニハ本船船名ヲ便宜見易キ所ニ表示スヘシ

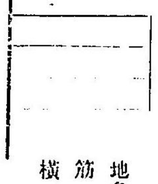
臘虎獵船旗章

地色　白
筋　紅、縱ノ四分ノ一
横　縱ノ一ト二分ノ一

臘虎臘鮪獸獵船旗章

地色　白
筋　上紅、下紺、縱ノ四分ノ一
横　縱ノ一ト二分ノ一

臘鮪獸獵船旗章



地色　白
筋　紺、縱ノ四分ノ一
横　縱ノ一ト二分ノ一

第六條　獵業免許ヲ得タル者獵業ニ從事スルトキハ常ニ免許證ヲ携帶シ軍艦鑑長警察官吏稅關官吏其ノ他特ニ命令ヲ受ケタル官吏ニ於テ檢閲センコトヲ求ムルトキハ直ニ之ヲ示スヘシ

第七條　獵業免許ヲ得タル者獵業ニ從事シタルトキハ終了ノ後二箇月以内ニ於テ其ノ獵獲シタル臘虎臘鮪獸ノ獵獲時日頭數獵獲場所及獵業ニ使用シタル端艇ノ數乘組員ノ種別人員ヲ詳記シ管轄地方廳（東京府下ハ監視廳以下之ニ倣フ）ヲ經由シテ農商務省ニ報告スヘシ

第八條　獵業免許ヲ得タル者第三條ノ免許證ヲ亡失毀損シ又ハ第二條第二第三第四ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其理由ヲ具シ免許證ノ下渡又ハ訂正ノ願書ヲ管轄地方長官ニ差出スヘシ

第九條　獵業免許ヲ得タル者獵業ヲ廢止シ又ハ第四條第二項ニ據リ免許ノ效ヲ失ヒタルトキハ直ニ免許證ヲ管轄地方廳ニ返納スヘシ

○臘虎臘鮪獸獵免許規則第二條但書ノ出願免許委任ノ件（警視廳北海道廳府縣東京府ヲ除ク）

明治二十八年十二月六日
訓令第一五號

明治二十八年農商務省令第十二號臘虎臘鮪獸獵免許規則第二條但書ニ該當スル出願免許ノ件ヲ委任ス

○臘虎臘鮪獸獵免許取扱手續（警視廳北海道廳府縣）

明治二十八年十二月六日
訓令第一六號

第一條　臘虎臘鮪獸獵免許規則第一條ニ據リ出願スル者アルトキハ免許規則第二條ニ記載シタル各項ヲ調査シ意見ヲ添ヘ本大臣ニ差出スヘシ

第二條　臘虎臘鮪獸獵免許規則第二條但書ニ該當スル出願アルトキハ願書記載ノ事項ヲ調査シ不都合ナキモノハ免許證ヲ下付スヘシ

第三條　本手續第二條ノ免許證ハ使用高ヲ概算シ毎年三月本大臣ニ請求スヘシ

第四條　本手續第二條ノ免許證ニハ獵業者ノ本籍身分住所氏名船種及獵船ノ定繫場ヲ記入シ廳印ヲ以テ契印ヲ爲スヘシ

第五條　臘虎膃肭獸獵免許規則第八條ニ據リ免許證ノ下渡訂正ヲ出願シタルトキハ同則第一條ニ依レルモノハ農商務省ニ差出シ本手續第二條ニ依レルモノハ調査ノ上亡失毀損ハ再渡シ異動ハ朱書ヲ以テ訂正シ備考欄内ニ其事由ヲ記シテ下付スヘシ

第六條　臘虎膃肭獸獵免許規則第九條ニ據リ返納スヘキ免許證ニシテ同則第一條ニ依レルモノハ其都度農商務省ヘ送付シ本手續第二條ニ依レルモノハ直ニ斷截スヘシ

第七條　免許證原簿ヲ備置キ本手續第二條ノ免許證下付ノ際臘虎膃肭獸獵免許規則第二條但書ノ事由ヲ登錄シ廢業又ハ免許ノ効ヲ失ヒタルモノハ其事故ヲ記スヘシ

第八條　本手續第二條ノ免許證ヲ下付シタルモノ又ハ免許證再渡訂正ヲ許可シタルモノハ翌年二月十五日マテニ左ノ表式ニ據リ本大臣ヘ報告スヘシ

第一號書式

臘虎膃肭獸獵免許者報告（明治　年）　廳府縣名

免許證番號	獵種	業類	許可ノ月日	獵業及獵場	獵具獵船定繫場	本籍住所身分氏名
第一號	（臘虎膃肭獸）			（北海道何々沿岸）（何縣何々沿岸）		
第二號	（膃肭獸）		〃	〃		
第三號	（臘虎）		〃	〃		

第二號表式

臘虎膃肭獸獵免許者異動報告（明治　年）　廳府縣名

免許證番號	獵種	業類	月日	事由	住所氏名
第一號	（臘虎）（膃肭獸）		何月何日再渡ニテ毀損ニ據ル	何月何日何所ニ於テ（亡失）何何	
第二號	（膃肭獸）		何月何日訂正ニ據ル	（何々轉居）（定繫場）（改名）願出	
第三號	（臘虎）		〃	〃	
第四號	（臘虎）（膃肭獸）		何月何日廢業	〃	
第五號	（膃肭獸）		何月何日返納	何年何月ヨリ何年何月マテ二箇年以上檢印ヲ受ケサルモノ	

第九條　臘虎膃肭獸獵免許規則第四條第一項ニ據リ届出又ハ檢印シタル獵船ノ數ハ同則第一條ニ依レルモノハ其都度第二條但書ニ依レルモノハ毎年二月取纏メ本大臣ニ報告スヘシ

○遠洋漁業奬勵法　明治三十年三月三十一日　法律第四五號

第一條　遠洋漁業ヲ奬勵スル爲國庫ハ毎年度十五萬圓以内ヲ支出スヘシ

第二條　帝國臣民又ハ帝國臣民ノミヲ社員若ハ株主トスル商事會社ニシテ自己ノ所有ニ專屬シ帝國船籍ニ登錄シタル船舶ヲ以テ勅令ニ於テ指定スル漁獵又ハ漁場ノ漁業ニ從事スル者ニ限リ遠洋漁

三十二年三月七日法律第四五號ヲ以テ第三條中第五條ノ噸數並金額等改正同年四月一日ヨリ施行

業奨勵金ノ下付ヲ出願スルコトヲ得

第三條　前條ニ依リ奨勵金ヲ受クルコトヲ得ヘキ船舶ハ木製ト鐵製トヲ問ハス總噸數汽船五十噸以上帆船三十噸以上ニシテ農商務大臣ノ定ムル船舶艤裝規程ニ合格シ其ノ乘組員ハ總員ノ五分ノ四以上帝國臣民ヲ以テ組織シタルモノニ限ル

第四條　遠洋漁業奨勵金ヲ受ケムトスル者ハ其ノ船舶ニ對シ豫メ農商務大臣ノ認許ヲ受クヘシ

第五條　農商務大臣ハ第二條ノ出願者ニシテ漁業ノ組織確實ナリト認ムル者ニハ漁獵ノ種類又ハ漁獵ノ場所ニ依リ定率ヲ設ケ五箇年以内奨勵金ノ下付ヲ許可スルコトヲ得但シ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一汽船總噸數　　毎一噸　　一箇年十五圓

但シ總噸數三百五十噸以上ハ噸數ニ應シ增加セス

一帆船總噸數　　毎一噸　　一箇年十圓

但シ總噸數二百噸以上ハ噸數ニ應シ增加セス

一乘組總員　　毎一人　　一箇年十圓

但シ勅令ニ定ムル乘組定員以外及年齡十六歲未滿ノ者ヲ除ク

第六條　遠洋漁業奨勵金下付ノ許可期間ト雖一箇年中遠洋漁業ニ從事スルコト五箇月ニ滿タサルトキハ其ノ年ニ對シテハ奨勵金ヲ下付セス

第七條　左ニ記載スル船舶ヲ以テ遠洋漁業ニ從事スル者ニハ遠洋漁業奨勵金ヲ下付セス

第一　此ノ法律施行以後帝國船籍ニ登錄ノ際製造後五箇年ヲ經過シタル外國製造ノ船舶

第二　製造後十五箇年ヲ經過シタル船舶

第八條　農商務大臣ハ第五條ノ許可ヲ受ケタル者ヲシテ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ爲サシメ又ハ遠洋漁業練習生ヲ該船舶ニ乘組マシムルコトヲ得

第九條　第五條ノ許可ヲ受ケタル船舶ノ所有者及其ノ承繼人ハ遠洋漁業奨勵金ヲ受ケ漁業ニ從事スル期間並ニ其ノ漁業ヲ終リタル日ヨリ三箇年間其ノ船舶ヲ外國人ニ賣渡、交換、贈與、質入、書入スルコトヲ得ス但シ其ノ船舶ノ既ニ受ケタル遠洋漁業奨勵金ヲ償還シタルトキ又ハ天災其ノ他抗拒スヘカラサル强制ニ因リ航行ニ堪ヘサルトキ若ハ農商務大臣ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニアラス

第十條　遠洋漁業ノ監督及遠洋漁業練習生ヲ養成スルノ必要アルトキハ農商務大臣ハ第一條ニ掲クル金額ヨリ十分ノ一以内ヲ支出シ其ノ費用ニ充ツルコトヲ得

第十一條　詐僞ノ所爲ヲ以テ遠洋漁業奨勵金ヲ受ケタル者又ハ第九條ノ規定ニ違背シタル者ハ六月以上三年以下ノ重禁錮ニ處シ百圓以上五百圓以下ノ罰金ヲ附加ス其因テ得タル遠洋漁業奨勵金ハ之ヲ償還セシム

前項ノ罪ヲ犯サントシテ未タ遂ケサル者ハ刑法未遂犯罪ノ例ニ依リ處斷ス

第十二條　此ノ法律ヲ犯シタル者ニハ刑法數罪俱發ノ例ヲ用ヰス

第十三條　第五條ノ許可ヲ受ケタル者此ノ法律若クハ此法律ニ基キテ發スル命令ニ違背シタルトキハ農商務大臣ハ其ノ遠洋漁業奨勵金ノ下付ヲ停止スルコトヲ得

第十四條　前數條ノ罰則ハ商事會社ニ在テハ其ノ各條ニ掲クル所爲ヲ爲シタル業務擔當ノ任アル社員若クハ取締役ニ之ヲ適用ス

第十五條　此ノ法律ハ明治三十一年四月一日ヨリ十五箇年間之ヲ施行ス

第十六條　此ノ法律ノ施行ニ必要ナル細則ハ農商務大臣之ヲ定ム

○遠洋漁業奨勵法施行細則　明治三十年六月二十六日　省令第一〇號

第一條　遠洋漁業奨勵法ニ依リ遠洋漁業奨勵金ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ書類ヲ添ヘ住居地又ハ船舶定繫場ノ管轄地方官廳ヲ經由シテ之ヲ農商務省ニ差出スヘシ

一　登簿船免狀寫（臙虎臙鰹獵業ハ免許證書ノ寫ヲ添フヘシ）

二　船舶檢査書寫

三　船舶艤裝明細書

（イ）甲板上ノ裝置

（ロ）艙內ノ區劃

（ハ）屬具及船員室ノ配置

（ニ）漁艇及漁獵具ノ種類員數

四　乘組員數

（イ）漁獵長經歷書

（ロ）船舶職員並水火夫以上員數

（ハ）漁獵夫員數

五　漁獵目論見書

（イ）漁獵ノ種類及方法

（ロ）漁獵ノ場所及區域

（ハ）漁業ノ時期

（ニ）漁獵物處理法

第二條　農商務大臣ニ於テ前條ノ願書ヲ受理シタルトキハ檢査ノ場所及期日ヲ定メ當該官吏ヲシテ其船舶ヲ檢査セシメ適當ト認ムルトキハ地方官廳ヲ經テ認許證書（書式第一號）ヲ本人ニ下附スヘシ

第三條　認許證書ヲ受有スル遠洋漁業奨勵金ヲ受クル漁業ニ從事スルトキハ毎年一回艤裝ノ檢査ヲ受クヘシ

前項漁業ニ從事スルトキハ發著地寄港地及期日ヲ其都度農商務省ニ屆出ツヘシ

第四條　認許證書ハ常ニ船內ニ保持シ當該官吏其他職權アル者ニ於テ檢閱センコトヲ求ムルトキハ何時ニテモ之ヲ示スヘシ

第五條　認許證書ヲ受有スル船舶ハ農商務省ヨリ下付セル漁獵日誌ヲ備ヘ同日誌記載心得ニヨリ各事項ヲ記入スヘシ

第六條　認許證書ヲ受有スル者漁獵ノ種類漁獵ノ場所船體機關ノ構造及艤裝並ニ乘組員數ヲ變更セントスルトキハ豫メ農商務大臣ノ認可ヲ請フヘシ但シ止ムヲ得サル事故ニ因リ認可ヲ請フノ暇ナクシテ變更シタルトキハ其事由ヲ詳記シ更ニ本條ノ手續ヲナスヘシ

前項ノ手續ヲ怠リタルトキハ認許證書ノ效力ヲ失フモノトス

第七條　認許證書ヲ亡失毀損シタルトキ又ハ該證書ノ表面ニ記載スル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其再授若クハ書換ヲ出願スヘシ

第八條　認許證書ヲ受有スル者死亡又ハ破產シタルトキハ其遺族又ハ破產管財人ヨリ認許證書ヲ返納スヘシ

認許證書ヲ受有スル商事會社解散又ハ破產シタルトキハ其淸算人又ハ破產管財人ヨリ認許證書ヲ返納スヘシ

第九條　認許證書ヲ受有スル者左ノ事項ノ一ニ該當スルトキハ直チニ認許證書ヲ返納スヘシ

一　船舶ヲ賣渡、貸渡、交換又ハ讓渡シタルトキ

二　漁獵業ヲ廢止シタルトキ

三　船舶ヲ喪失又ハ解撤シタルトキ

四　遠洋漁業奨勵金ノ下附ヲ停止セラレタルトキ

五　前數項ノ外遠洋漁業奨勵金ヲ受クヘキ條件ヲ缺キタルトキ

第十條　認許證書ヲ受有スル船舶ハ發着ノ都度帝國ニ在テハ稅關、稅關支署、警察本分署又ハ浦役場外國ニ在テハ帝國領事館又ハ帝國貿易事務館ニ屆出テ其證明ヲ請求スルコトヲ得

第十一條　明治三十年勅令第百七十六號第一條ニ指定シタル漁獵又ハ同第二條ニ指定シタル場所ノ漁業ニ從事シタル者ハ漁業終了後農商務大臣ノ指定シタル官廳ニ於テ當該官吏又ハ其他特ニ委任セラレタル官吏ヨリ船舶乘組員數ノ證明ヲ受クヘシ

第十二條　賣買交換又ハ讓渡ニ依リ認許證書受有ノ船舶ヲ取得シテ其事業ヲ繼續セントスル者ハ第一條ノ書類ニ其事實ニ對スル市町村長ノ證明書又ハ登記ノ謄本ヲ添ヘ農商務省ヘ願出テ更ニ認許ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ船舶ノ檢査ヲ須ヰスシテ認許證書ヲ下附スルコトアルヘシ

第十三條　遠洋漁業奨勵法第八條ニ依リ遠洋漁業練習生ヲ船舶ニ乘組マシムルトキハ相當ノ待遇ヲ爲シ中途下船セシムルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ但シ止ムヲ得サル事故ニ因リ認可ヲ受クル暇ナクシテ下船セシメタルトキハ其理由ヲ詳記シ更ニ本條ノ手續ヲ爲スヘシ

遠洋漁業練習生ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條　遠洋漁業練習生ヲ乘組マシメタル船舶ノ船長漁獵長ハ該練習生ヲシテ技術ヲ練習セシメ漁獵終了後其ノ狀況ヲ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十五條　遠洋漁業奨勵法第八條ニ依リ遠洋漁業ニ關スル調査ヲ命シタルトキハ指定ノ期日內ニ之ヲ報告スヘシ

第十六條　遠洋漁業奨勵金ヲ請求スルモノハ請求書（第二號書式）ニ遠洋漁業明細書（第三號書式）漁獵日誌及第十條第十一條ノ證明書其他漁獵ノ事實ヲ證明スルニ必要ナル書類ヲ添ヘ之ヲ農商務省ニ差出スヘシ

第十七條　農商務省ニ於テハ前條ノ請求書及關係書類ヲ審査シテ遠洋漁業奨勵金ヲ下付スヘシ

第十八條　遠洋漁業奨勵法違反ニ關シ起訴セラレタル者ニ對シテハ其裁判ノ確定スル迄遠洋漁業奨勵金ノ下附ヲ中止ス

第十九條　遠洋漁業ニ從事スルコト一回五箇月ニ滿タサルトキハ二回以上ヲ通算シ五箇月ヲ經過シタルトキ奨勵金下附ノ請求ヲ爲スコトヲ得

漁業ノ期間一箇年以上ニ涉ルモノハ毎年度末ニ於テ之カ請求ヲ爲スヘシ

第二十條　天災其他抗拒スヘカラサル强制ニ因リ航行ニ堪ヘスシテ其船舶ヲ外國人ニ賣渡交換贈與質入書入ヲナシタルトキハ船長又ハ所有者ヨリ其事由ヲ具シ農商務省ニ屆出ツヘシ

第一號書式

第　號

認許證書

帆船	何丸	所有者 府縣郡市町村 氏名
		登錄年月日
汽船		本船番號
		定繫場
		製造年月日
		登簿噸數

本船ハ遠洋漁業奨勵法ノ規程ニ適合シタルヲ認メ茲ニ此證書ヲ下付ス

年號月日　農商務省

第二號書式

汽船(帆船)何丸遠洋漁業奨勵金請求書

一金　　但登簿噸數何噸ニ對スル奨勵金何年度分

一金　　但乘組員何名ニ對スル奨勵金何年度分

合計金

右ハ何丸明治何年何月何日何國何地又ハ何港ヲ發シ何地ニ於テ何日間何々漁獵ニ從事シ何國何地何港ヲ經テ明治何年何月何日何國何地又ハ何港ニ歸着致候間前記ノ遠洋漁業奨勵金御支給相成度別紙明細書並漁獵日誌其他證憑書類何通相添此段及請求候也

年　月　日　　住所

大臣宛　　氏名　㊞

第三號書式

汽(帆)船何丸漁業明細書

年月日	發地名	著地名	碇泊地	漁獵場所	漁獲物 種類	數量	價額	記事

表面

裏面

艤裝檢査之證

漁獵種類	漁獵場所	漁獵具種類	漁獲物處理場	漁艇員數	火藥室	支柱及索具又ハ擡重器	乘組人員	飲料水容器	檢査年月日	檢査官印	備考

右之通候也

年　月　日　　氏　　名　㊞

備考　記事欄内ニハ漁獲ニ從事シタル月日ノ天氣風向風力氣温水温其他必要ト認ムル事柄ヲ記載スヘシ

○船舶乘組員數證明ニ關スル事務取扱所　明治三十一年八月三十一日告示第二〇號

明治三十年農商務省令第十號遠洋漁業奬勵法施行細則第十一條ニ依レル船舶乘組員數證明ニ關スル事務ハ左記所在地ノ警察署内ニ於テ取扱フ

一武藏國横濱市（加賀町）　一渡島國函館　一安房國北條

○遠洋漁業船舶艤裝規程　明治三十年六月二十六日省令第九號

第一條　遠洋漁業奬勵法ニ依リ遠洋漁業奬勵金ヲ受クヘキ船舶ハ其船體ノ構造遠洋漁業ニ適シ明治二十九年法律第六十七號船舶檢査法ニ依リ遠洋航船又ハ近海航船タルヘキ檢査證書ヲ有スルモノニシテ本規程ニ合格シタルモノニ限ル

第二條　遠洋漁業船ノ船體ハ總甲板ヲ有シ適度ノ荷足ヲ搭載シ得ヘキ構造ナルヲ要ス

第三條　遠洋漁業船ハ漁艇ノ搭載捕獲物ノ處理及貯藏ニ必要ナル場所ヲ設クヘシ

第四條　遠洋漁業船ニシテ火藥室ヲ設クルノ必要アルモノハ安全ノ場所ニ構造スルヲ要ス

第五條　遠洋漁業船ハ漁艇及捕獲物等ノ揚卸ヲ便ニスル爲メ之ニ適スル支柱、索具又ハ擡重器（デレッック）ヲ備フヘシ

第六條　遠洋漁業船ハ乘組總員ニ對シ一人ニ付一日少クモ二升ノ割合ヲ以テ三箇月分ヨリ少ナカラサル飲用水ヲ貯藏シ得ヘキ水箱又ハ水樽ヲ備フヘシ

但天水貯溜ノ裝置若クハ蒸溜器ノ備ヘアルモノ又ハ漁業ノ種類ニ依リ當該官吏ニ於テ本條ノ水量ヲ貯藏スルノ必要ナシト認メタルトキハ該水箱又ハ水樽ノ容積ヲ遞減スルコトヲ得

第七條　遠洋漁業船ニシテ其漁獵ノ方法漁艇ヲ要スルモノハ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ設備スヘシ

一　臘虎獵船　漁艇三隻以上
二　臘鮏獵船　同　四隻以上
三　鯨獵船　同　二隻以上
四　右ノ外各種ノ漁船　同　二隻以上

前各號ノ漁艇ニハ每隻航海用具、羅針盤、信號喇叭及水樽ヲ備フルヲ要ス

第八條　遠洋漁業船ニ於テ使用スル漁獵具ハ左ノ制限ニ從ヒ之ヲ設備スヘシ

第一　臘虎、臘鮏獵船

一　銃殺獵法ヲ爲スモノハ漁艇一隻ニ付獵銃二挺以上及之ニ要スル彈丸、火藥、雷管等ヲ設備スルヲ要ス
二　投銛獵法ヲ爲スモノハ漁艇一隻ニ付綱及竿ノ全備セル銛二挺以上トス

第二　鯨獵法

一　銃殺獵法ヲ爲スモノハ本船ニ銃砲二挺以上漁艇ニハ各一挺ニシテ之ニ要スル爆裂矢ハ銃砲一挺ニ付各二十發以上トシ火藥雷管等ハ其割合ヲ以テ之ヲ設備スヘシ
二　投銛獵法ヲ爲スモノハ漁艇每隻銛四挺又ハ爆裂銛二挺以上トス
三　捕鯨綱ハ銃砲一挺又ハ漁船一隻ニ付麻綱三百尋以上トス

第三　右ノ外各種ノ漁船

一　釣漁ヲ爲スモノハ左ノ割合ヲ以テスヘシ
延繩漁ヲ爲スモノハ漁艇一隻ニ付延繩千五百尋以上トス
手釣漁ヲ爲スモノハ漁夫一人ニ付手釣三具以上トス
二　網漁ヲ爲スモノハ左ノ割合ヲ以テスヘシ
刺網漁ヲ爲スモノハ漁艇一隻ニ付刺網百尋以上トス
其他網漁ヲ爲スモノハ網及附屬具ノ全備セルモノ一統以上及其修繕ニ要スル原料ヲ備フルモノトス
三　釣漁ハ網漁ヲ爲スモノニシテ餌料ヲ要スルモノハ其採取又ハ貯處ニ必要ナル器具ヲ備フルモノトス

○遠洋漁業奬勵法ニ依リ奬勵金ヲ受クヘキ漁獵ノ種類及場所竝船舶乘組定員ノ件
明治三十年六月五日勅令第一七六號

第一條　遠洋漁業奬勵法ニ依リ遠洋漁業奬勵金ヲ受クヘキ漁獵ハ左ノ種類トス
鯨獵業
臘虎獵渡
膃肭獸獵業
鰹漁業
鮪漁業
鰹漁業
鱈漁業
鯖漁業
鰯漁業
柔魚漁業（スルメイカ）
大鮃漁業（ヒラメ）

第二條　遠洋漁業奬勵法ニ依リ遠洋漁業奬勵金ヲ受クヘキ漁獵ノ場所ハ左ノ洋海トス
支那海
臺灣海峽
東海
黃海
朝洋海峽
日本海
痾哥德斯克海
太平洋

三十二年四月五日勅令第一二六號ヲ以テ第三條改正

第三條　遠洋漁業奬勵法ニ依リ遠洋漁業奬勵金ヲ受クヘキ船舶乘組定員ハ左ノ如シ

汽船		乘組定員
總噸數	五十噸以上	二十八名以下
同	七十五噸以上	同　三十名以下
同	百噸以上	同　三十二名以下
同	百五十噸以上	同　三十五名以下
同	二百噸以上	同　三十八名以下

同	二百五十噸以上	乘組定員	四十一名以下
同	三百噸以上	同	四十四名以下
同	三百五十噸以上	同	四十七名以下

帆船

總噸數	三十噸以上	乘組定員	二十名以下
同	四十噸以上	同	二十三名以下
同	六十噸以上	同	二十六名以下
同	八十噸以上	同	二十八名以下
同	百噸以上	同	二十九名以下
同	百二十噸以上	同	三十名以下
同	百四十噸以上	同	三十一名以下
同	百六十噸以上	同	三十二名以下
同	百八十噸以上	同	三十四名以下
同	二百噸以上	同	三十七名以下

○遠洋漁業練習生規程

明治三十一年五月六日
告示第一二號

第一條　遠洋漁業練習生ハ遠洋漁業ニ關スル技術ヲ練習スルモノトス

第二條　遠洋漁業練習生ハ左ノ資格ヲ有スル者ヨリ試驗ヲ經テ採用スルモノトス但時宜ニ依リ特ニ選拔採用スルコトアルヘシ

一　水産講習所本科漁撈科卒業生

二　舊大日本水産會水産傳習所漁撈科卒業生

三　前二號ト同等以上ノ學術技能ヲ有スル定員トシ其修業年限ハ三年トス

第三條　遠洋漁業練習生ハ二十人ヲ以テ定員ヲ增減スルコトアルヘシ

前項遠洋漁業練習生ノ定員ハ時宜ニ依リ之ヲ增減スルコトアルヘシ

第四條　遠洋漁業練習生タラント欲スルモノハ左ノ書式ニ依リ調製シタル願書ニ履歷書及醫師ノ體格證明書ヲ添ヘ毎年三月三十一日迄ニ地方長官ヲ經由シテ農商務大臣ニ出願スヘシ

第五條　地方長官ニ於テ前條ノ願書ヲ受ケタルトキハ願人竝ニ身許引受人ノ身許ヲ調査シ副申書ヲ附シ農商務大臣ニ進達スヘシ

第六條　遠洋漁業練習生ハ農商務大臣ノ定ムル命令條件ヲ遵守シ其職務ニ從事スヘシ

第七條　遠洋漁業練習生ニ支給スヘキ手當金ハ一箇月金十五圓以内トス

遠洋漁業練習生ニシテ特ニ外國派遣ヲ命シタルトキハ前項ニ依ラス相當ノ手當ヲ支給ス

第八條　遠洋漁業練習生ニシテ修業年限ヲ了ヘタル者ニハ其成績ヲ考査シ修業證書ヲ下付ス

第九條　遠洋漁業練習生ニシテ農商務大臣ノ定ムル命令條件ヲ遵守セサルカ又ハ成業ノ見込ナシト認ムルトキハ何時ニテモ遠洋漁業練習生ヲ免スヘシ但命令條件ヲ遵守セサルモノハ既ニ支給シタル手當金ヲ辨償セシムルコトアルヘシ

三十三年告示第九十六號ヲ以テ第二條第三條中改正

三十三年告示第四五號ヲ以テ第七條第二項追加

書式

遠洋漁業練習生志願書

私儀遠洋漁業練習生志願ニ付御試驗ノ上御採用被成下度修業中ハ御規則命令等堅ク遵守可仕候依テ身許引受人連署ヲ以テ此段奉願候也

年　月　日

族籍住所職業誰子弟
願人　氏　名　印
族籍住所職業
身許引受人　氏　名　印

農商務大臣宛

○漁業組合準則（道廳府縣沖繩縣ヲ除ク）明治十九年五月六日省令第七號

漁業組合準則左ノ通相定ム依テ此準則ニ基キ組合ヲ設置セシメ其規約認可ノ上當省ヘ屆出ヘシ

漁業組合準則

第一條　漁業（水産動植物採捕ヲ併稱ス）ニ從事スルモノハ適宜區畫ヲ定メ組合ヲ設ケ規約ヲ作リ管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

但漁者僅少ニシテ他ノ漁場ニ關係セサル地ハ管轄廳ノ見込ヲ以テ組合ヲ要セサルコトアルヘシ

第二條　組合ハ營業ノ弊害ヲ矯正シ利益ヲ增進スルヲ目途トスヘシ

第三條　組合ハ左ノ二類トス

第一類　捕魚採藻（遠海漁業若クハ大地引網捕鯨鯡漁昆布採收ノ類）各其種類ニ從ヒ特ニ組合ヲナスモノ

第二類　河海湖沼沿岸ノ地區ニ於テ各種ノ漁業ヲ混同シテ組合ヲナスモノ

第四條　前條第二類ノ漁業ニシテ漁場ノ相連帶スルモノハ必ス一組合トナスヘシ

第五條　組合ノ規約ニ掲クヘキ事項ハ左ノ如シ

一　組合ノ名稱及事務所ノ位置
二　組合ノ目的
三　役員選擧法及權限
四　會議ニ關スル規程
五　加入者及退去者ニ關スル規程
六　違約者處分ノ方法
七　費用ノ徵收及賦課法
八　捕魚採藻ノ季節ヲ定ムル事
九　漁具漁法及採藻ノ制限ヲ立ル事
十　漁場區域ニ關スル事
十一　前各項ノ外組合ニ於テ必要トナス事項

第六條　組合ハ契約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキハ管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

第七條　組合ハ聯合會ヲ設ケ其規約ヲ作リ若クハ之ヲ更正セントスルトキハ管轄廳ノ認可ヲ請フヘシ

第八條　二府縣以上ニ渉ル組合及聯合會ノ規約ハ交渉管轄廳ヲ經テ農商務省ノ認可ヲ請フヘシ

但規約ヲ更正シ若クハ其組合ヲ分立合併セントスルトキモ亦本條ニ準スヘシ

第九條　二府縣以上ニ渉ル組合ハ便宜ノ地ニ事務所本部ヲ設ケ其他ハ每府縣事務所支部ヲ置クヘシ

但支部ハ組合ノ事情ニ依リ其必要ナラサル場合ニ於テハ之ヲ置カサルヲ得

○漁業組合外ノ者ヲシテ組合規約ヲ遵守セシムル件（道廳府縣）明治二十五年十二月十七日訓令第四一號

廳府縣令ヲ以テ漁業組合外ノ者ヲシテ組合規約ノ條項ヲ遵守セシムルトキハ其條項ヲ告示スヘシ

○日本朝鮮兩國通漁規則

明治二十三年一月八日公布
同年同月十一日ヨリ施行

大日本大朝鮮國政府ハ日本明治十六年七月二十五日朝鮮開國四百九十二年六月二十二日兩國全權大臣ノ協議訂定セル朝鮮國貿易規則第四十一款ニ據リ兩國海濱ニ往來捕魚スル者ノタメニ漁業稅ヲ定メ取締規則ヲ立ルヲ必要トシテ日本政府ハ代理公使近藤眞鋤ニ委任シ朝鮮政府ハ督辨交渉通商事務閔種默ニ委任シ各委命ヲ奉シテ會議定立スル各條左ノ如シ

第一條　兩國議定地方ノ海濱三里（日本國海里ノ算測ニ據ル已下之ニ準ス）以內ニ於テ漁業ヲ營マントスル兩國漁船ハ其船ノ問數所有主ノ住所姓名及乘組人員ヲ詳記シ其船主若クハ代理人ヨリ願書ヲ認メ日本漁船ハ其領事官ヲ經テ開港場地方廳ヘ朝鮮漁船ハ議定地方ノ郡區役所ニ差出シ該船ノ檢査ヲ經テ免許鑑札ヲ受クヘシ

但シ免許鑑札ハ漁業ノ時必ラス携帶スヘシ

第二條　漁業免許ノ鑑札ヲ受クル者ハ漁業稅トシテ左ノ割合ニ照シ稅金ヲ納ムヘシ而シテ此鑑札ハ之ヲ受ケタル日ヨリ滿一年間其効ヲ有スルモノトス

乘組人　　日本銀貨

十名已上　拾圓
五名已上九名已下　伍圓
同　四名已下　參圓

第三條　漁業免許ノ鑑札ヲ受ケタル此國漁船ハ其捕獲シタル魚介ヲ彼國海濱ノ地方ニ於テ販賣スルコトヲ得ヘシト雖モ彼國政府ニ於テ衞生上又ハ其他ノ事故ニ由リ一般ニ販賣ヲ禁シタル魚介類ハ之ヲ販賣スルコトヲ許サス

第四條　兩國ノ漁船ハ漁業免許ノ鑑札ヲ受ケタルモノト雖モ特許ヲ得ルニアラサレハ兩國海濱三里以內ニ於テ鯨鯢ヲ捕獲スルコトヲ許サス

第五條　此國ノ漁船彼國海濱三里以內ニ於テ地方ノ禁制ニ背キ魚介其他海產ノ蕃殖ヲ害スヘキ方法ヲ用ユルコト勿ル可ク又ハ各地方ニ於テ魚介ノ種類ヲ限リ其捕獲ヲ禁制シタル時期ニ方リテハ彼是ノ漁民決シテ該魚介ヲ捕獲スルコト勿ル可シ

第六條　兩國地方官署ノ官吏ハ此規則ヲ執行スル爲メ必要ナリト認ムルトキハ該地方海濱三里以內ニ在ル彼國漁船內ヲ查檢シ若シ違犯者アレハ之ヲ押留スルコトヲ得

但シ朝鮮地方官ニテ日本船ヲ押留シタルトキハ其趣速カニ最寄日本領事館ニ通知シ該規則ニ從テ處分ヲ求ムヘシ

第七條　漁業免許ノ鑑札ヲ受ケスシテ海濱三里以內ニ於テ魚介ヲ捕獲シ若クハ捕獲セントシタル漁船ハ五圓已上拾五圓以下ノ罰金ニ處シ其捕獲物ヲ沒收ス

第八條　第一條免許鑑札ヲ携帶セサルモノ第四條ヲ犯スモノ及ヒ第六條地方官吏ノ查檢ヲ拒ムモノハ壹圓已上貳圓已下ノ罰金ニ處ス

但シ第四條ヲ犯シタル者ハ別ニ捕獲シタル鯨鯢ヲ沒收ス

第一條乘組人員ヲ僞リ稅金ヲ不足納シタル者ハ其不足高二倍ノ罰金ニ處ス

第三條禁制ノ魚介ヲ販賣シ及第五條魚介海產ノ蕃殖ヲ害スルノ方法ヲ用ヒ若クハ禁制ノ魚介ヲ捕獲シタルモノハ日本海濱ニ於テハ地方規則ニ照シテ處分シ朝鮮海濱ニ於テハ壹圓已上貳圓已下ノ罰金ニ處シ其捕獲物ヲ沒收ス

第九條　漁業鑑札ヲ他人ニ貸附シ海濱三里以內ニ於テ魚介ヲ捕獲セシメタルモノハ貸者借者共ニ該

鑑札ニ相當スル稅額二倍ノ罰金ニ處シ其捕獲物ヲ沒收ス

第十條　兩國議定地方ニアラサル海濱三里以內ニ於テ魚介ヲ捕獲シタルモノハ漁船漁具及其捕獲物ヲ沒收ス

第十一條　此規則ニ據テ處分スヘキ者ハ日本國海濱ニ於テハ日本地方裁判所ノ裁斷ニ歸シ朝鮮國海濱ニ於テハ其地方官ヨリ最寄日本領事官ニ告訴シ其裁斷ニ歸スヘシ

第十二條　此規則實行ノ後更ニ增減スヘキ事項出來スルトキハ雙方協議改正スルヲ得漁業稅ニ至テハ此規則調印ノ日ヨリ二年間施行ノ後漁利ノ有無ヲ看テ再ヒ改正スヘシ

茲ニ雙方記名調印シ右確實ナルヲ證スル者也

大日本國明治二十二年十一月十二日　代理公使　近藤眞鋤印

大朝鮮國開國四百九十八年十月二十日　督辨交涉通商事務　閔種默印

○鹽業調査所官制

明治三十二年三月三十日勅令第九一號

第一條　鹽業調査所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鹽業改良ニ關スル調査及試驗ノ事務ヲ掌ル

第二條　鹽業調査所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　一人
技師　專任四人
技手　專任八人
書記　專任二人

第三條　所長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ掌ル

技師ノ內一人ハ勅任ト爲スコトヲ得

第五條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第六條　書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

附則

第七條　本令ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス

○鹽業調査所及同試驗場位置

鹽業調査所——農商務省內
松永試驗場——廣島縣沼隈郡松永村
津田沼試驗場——千葉縣千葉郡津田沼村大字谷津

三十二年八月勅令第四〇號ヲ以テ第三條追加第二條中改正

○鹽業調査所處務規程（鹽業調査所）

明治三十二年六月二十一日勅令第三二號

第一條　鹽業調査所ニ試驗部分析部及庶務部ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二條　試驗部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　採鹵ニ關スル事項
二　煎熬ニ關スル事項
三　氣象ニ關スル事項
四　其他鹽業ノ調査ニ關スル事項

第三條　分析部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　製鹽及副産物ノ分析鑑定ニ關スル事項
二　鹽田土壤及鹹水等ノ分析鑑定ニ關スル事項

第四條　庶務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　生産製造品ノ賣拂ニ關スル事項
二　地所建物並ニ物品ノ購買及保管ニ關スル事項
三　會計ニ關スル事項
四　報告ノ編纂印刷及配布ニ關スル事項
五　所員ノ進退身分ニ關スル事項
六　所長ノ官印及所印ノ保管ニ關スル事項
七　公文書類及成案文書ノ接受發遣ニ關スル事項
八　他部ノ主掌ニ屬セサル事項

第五條　鹽業調査所長ハ官制ノ定ムル所ニ從ヒ主管事務ノ整理ニ付其責ニ任ス

第六條　所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ處辨セシムルコトヲ得

第七條　所長ハ事務整理ノ爲メ經伺ノ上處務細則ヲ設クルコトヲ得

第八條　所長ハ判任官以下ノ歸省看護墓參轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第九條　所長ハ其主管業務ノ順序方法及分任擔當ヲ定メ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十條　所長ハ月俸十五圓又ハ日給五十錢ヲ超ヘサル雇員及鹽業氣象報告員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第十一條　事業上至急所員ノ出張ヲ要シ經伺ノ暇ナキ場合ニ限リ臨機出張ヲ命シ同時ニ其事由ヲ記シ農商務大臣ニ報告スヘシ

第十二條　所長ハ主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

第十三條　試驗及調査ニ關スル成績ハ各擔任者ニ於テ其結了ノ日ヨリ三十日以內ニ所長ニ報告スヘシ
但本項ノ報告アリタルトキハ其都度農商務大臣ニ其要領ヲ具申スヘシ

第十四條　所長ハ試驗及調査ニ關スル成績ヲ編纂シ每年一回農商務大臣ニ報告スヘシ

第十五條　農商務大臣ニ經伺又ハ報告ヲ要スヘキ事項ハ總テ水産局長ヲ經由スヘシ

第十六條　鹽業ニ關スル質問及分析鑑定ハ所長ニ於テ必要ト認ムルモノニ限リ應答スヘシ

○鹽業調査所長專決事項　明治三十二年九月十六日 鹽發第二號達

其所事務ニ屬スル左記ノ事項ハ經伺ヲ要セス專決處分スルコトヲ得

一　標本又ハ備品ヲ內國博覽會共進會其他類似ノ會及廳府縣ノ稟請ニ對シ出陳又ハ貸與ノ件
一　寄贈ノ圖書標本等ノ領收證及謝狀發送ノ件
一　一廉金貳百圓ヲ超ヘサル印刷物ノ調製物件ノ賣買貸借及建物ノ新營修繕ノ件
一　生産ニ係ル食鹽ノ賣拂ハ一廉千石以內、試驗ノ爲メ下付スル食鹽ハ其數量三十石以內處理ノ件
一　官吏出張先ニ於テ公務ニ要スル通信運搬費等金額五十圓以內處理ノ件
一　各部長ヲ除ク外所員ニ事務分擔命免ノ件
一　所員一週間以內缺勤屆處理ノ件
一　金額百圓以內現金前渡ノ件
一　所員地方出張ニ際シ必要ト認ムルトキ其順路指定ノ件

一　官役人夫死傷者ニ療養料扶助料及埋葬料ヲ成規ニ據リ定額内ヲ以テ給與ノ件
一　定傭夫ノ傭罷及賞與ノ件
一　鹽業氣象報告員手當金支給ノ件

○鹽業調査所ニ顧問ヲ置ク件　明治三十二年六月八日勅令第二三九號

第一條　鹽業調査所ニ顧問一人ヲ置クコトヲ得
第二條　顧問ハ所務ニ關シ意見ヲ開陳ス
第三條　顧問ハ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス
第四條　顧問ハ勅任官ノ待遇ヲ受ク
第五條　顧問ニハ俸給豫算定額内ニ於テ年俸三千圓ヲ給ス

○府縣水産試驗場規程　明治三十二年八月一日省令第二二號

第一條　本規程ニ於テ府縣水産試驗場ト稱スルハ府縣ノ費用ヲ以テ設立スル水産試驗場ヲ謂フ
第二條　府縣水産試驗場ハ一府縣ニ一箇所ヲ限リ設立スルコトヲ得但分場ヲ設クルコトヲ妨ケス
第三條　府縣水産試驗場ハ其府縣内ノ水産業ノ改良發達ヲ圖ルヲ以テ目的トシ漁撈、製造、養殖等ニ關スル事項ニ付キ試驗ヲ行フモノトス
府縣水産試驗場ハ毎年一回以上試驗ノ成績ニ關スル報告書ヲ發行スルコトヲ要ス
第四條　府縣水産試驗場ハ左ノ業務ヲ行フコトヲ得
一　巡回講話

二　魚兒、介苗等ノ配付
三　水産製品其他ノ分析及ヒ鑑定
四　水族ノ蕃殖及ヒ漁場等ニ關スル調査
第五條　府縣水産試驗場ハ農商務大臣ノ指定シタル事項ニ付キ試驗又ハ調査ヲ爲スコトヲ要ス
第六條　府縣水産試驗場ハ試驗ノ成績ニ付キ當業者ニ傳習スルコトヲ得
第七條　府縣水産試驗場ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス分場ヲ設ケントスルトキ亦同シ
一　名稱及ヒ位置
二　業務ノ項目
三　試驗用地ノ種類及ヒ其面積
四　建物ノ種類及ヒ其坪數
五　職員ノ職名、其員數及ヒ俸給額
六　收支豫算書
第八條　府縣水産試驗場ノ收支豫算書ハ毎會計年度前三十日ヲ限リ地方長官ヨリ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス但國庫ノ補助ヲ受クル府縣水産試驗場ニ付テハ此限ニ在ラス
前條第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ地方長官ハ毎年三月三十一日ニ於テ現存スル事項ヲ翌月中ニ農商務大臣ニ屆出ルコトヲ要ス
第九條　府縣水産試驗場毎年度ノ業務功程ハ地方長官ヨリ翌年度五月限リ之ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス
府縣水産試驗場ノ試驗成績報告書ハ之ヲ發行スル毎ニ地方長官ヨリ之ヲ農商務大臣ニ差出スコト

ヲ要ス

第十條　府縣水産試驗場又ハ其分場ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

附　則

第十一條　本規程ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十二條　本規程施行前ニ設立シタル府縣立水産試驗場ニ付テハ地方長官ハ明治三十二年十月三十一日マテニ第七條ニ掲ケタル事項ヲ屆出ルコトヲ要ス

○府縣水産講習所規程　明治三十二年八月一日　省令第二三號

第一條　本規程ニ於テ府縣水産講習所ト稱スルハ府縣勸業費ヲ以テ設立スル水産講習所ヲ謂フ

第二條　府縣水産講習所ハ一府縣ニ一箇所ヲ限リ設立スルコトヲ得但分所ヲ設クルコトヲ妨ケス

第三條　府縣水産講習所ハ漁撈、製造、蕃殖等ニ必要ナル講習ヲ爲サシムルヲ以テ目的トス

府縣水産講習所ハ數學、物理、化學、動物、植物、氣象、地文、圖畫等ノ補助科目ヲ設クルコトヲ得

第四條　地方長官心要ト認ムルトキハ府縣水産講習所ノ職員ヲシテ水産ニ關スル巡回講話試驗又ハ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

第五條　府縣水産講習所ノ修業年限ハ二年以内トス

第六條　府縣水産講習所ヲ設立セントスルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス分所ヲ設ケントスルトキ亦同シ

一　名稱及ヒ位置

二　講習所規則

三　實習用地ノ種類及ヒ其面積

四　建物ノ種類及ヒ其坪數

五　職員ノ職名、其員數及ヒ俸給額

六　收支豫算書

第七條　府縣水産講習所ノ收支豫算書ハ毎會計年度前三十日ヲ限リ地方長官ヨリ農商務大臣ニ差出スコトヲ要ス但國庫ノ補助ヲ受クル府縣水産講習所ニ付テハ此限ニ在ラス

前條第一號乃至第五號ニ掲ケタル事項ニ變更ヲ生シタルトキハ地方長官ハ毎年三月三十一日ニ於テ現存スル事項ヲ翌月中ニ農商務大臣ニ屆出ルコトヲ要ス

第八條　府縣水産講習所毎年度ノ業務功程ハ地方長官ヨリ翌年度五月限リ之ヲ農商務大臣ニ報告スルコトヲ要ス

第九條　府縣水産講習所又ハ其分所ヲ廢止セントスルトキハ地方長官ハ其事由ヲ具シ農商務大臣ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

附　則

第十條　本規程ハ明治三十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十一條　本規程施行前ニ設立シタル府縣立水産講習所付テハ地方長官ハ明治三十二年十月三十一日マテニ第六條ニ掲ケタル事項ヲ農商務大臣ニ屆出ルコトヲ要ス

○水産講習所官制　明治三十年三月二十二日　勅令第四七號

三十一年十月勅令二八九號ヲ以テ第一條第三條中改正第十一條削除

三十四年勅令第四二號ヲ以テ教授以下人員改正

第一條　水産講習所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ水産ノ傳習及試驗ニ關スル事務ヲ掌ル

第二條　水産講習所ニ左ノ職員ヲ置ク

所長　一人
監事　專任一人
技師　專任四人
教授　專任三人
技手　專任九人
助教　專任四人
書記　專任五人

第三條　所長ハ水産局長ヲ以テ之ニ充ツ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中全般ノ事務ヲ掌理ス

第四條　監事ハ奏任トス所長ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ處理ス

第五條　技師ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ヲ分掌ス

第六條　教授ハ奏任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ヲ掌ル

第七條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ所務ニ從事ス

第八條　助教ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ教授ノ職務ヲ助ク

第九條　書記ハ判任トス上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第十條　農商務大臣ハ講習上ノ須要ニ依リ水産講習所ニ商議委員ヲ設クルコトヲ得

○水産講習所位置

東京府東京市芝區三田四國町二番地

○水産講習所監事任用ノ件　明治三十年三月勅令第四九號

水産講習所監事ハ文官任用令第四條ニ依リ任用スルコトヲ得

○水産講習所處務規程（水産講習所）　明治三十一年十一月二十八日訓令第四〇號

第一條　水産講習所ニ傳習試驗ノ二部及庶務掛ヲ置ク

第二條　傳習部ニ於テハ漁撈製造及養殖ニ關スル學理及技術ヲ傳習ス

第三條　試驗部ニ於テハ漁撈製造及養殖ニ關スル試驗ヲ爲ス

第四條　庶務掛ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　公文書類及成案文書ノ接受發遣ノコト
二　所員進退出張巡廻等ニ關スルコト
三　傳習生ノ募集及取締ニ關スル事項
四　傳習及試驗成績編纂印刷ニ關スルコト
五　其他傳習試驗ノ二部ニ屬セサル事項

第五條　所長事故アルトキハ部下ノ官吏ニ代理ヲ命シ又ハ主管事務ノ幾分ヲ委任シテ之ヲ處辨セシムルコトヲ得

第六條　水産講習所長ハ月俸二十圓又ハ日給五十錢ヲ超エサル傭員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得

第七條　水産講習所長ハ農商務大臣ヘ經伺ノ上傳習科程及傳習生ニ關スル規程ヲ定ムヘシ

第八條　水産講習所長ハ傳習及試驗ノ成績ヲ審査編纂シ毎年二回農商務大臣ニ報告スヘシ但臨時必

要ト認ムルモノハ其都度報告スヘシ

第九條　水産講習所長ハ卒業シタル生徒ニ交付スヘキ證書ニ署名スヘシ

第十條　水産講習所長ハ其主管事務ニ付各官廳ニ照會往復スルコトヲ得

○水産講習所商議委員規程　明治三十年四月十九日訓令第一一號

第一條　水産講習所官制第十條ニ依リ水産講習所ニ商議委員ヲ置ク

第二條　商議委員ハ左ノ人員ヲ以テ之ニ充ツ

農商務省高等官　一名

海軍省、文部省、遞信省又ハ其所屬高等官　四名以内

水産ノ經歷アル者　五名以内

第三條　商議委員ノ會議ニ附スヘキハ講習科目及講習ニ關スル重要ノ諸規則其他所長ニ於テ必要ト認ムル事項トス

第四條　商議委員會ハ農商務大臣ノ諮問アルトキハ意見ヲ陳述スヘシ

第五條　商議委員會ハ所長之ヲ開キ其議案ヲ提出スルモノトス

第六條　商議委員會ノ議事ニ關スル規程ハ委員會ニ於テ之ヲ議定スルコトヲ得

第七條　商議委員會ノ議決ハ所長ヨリ農商務大臣ニ報告スヘシ

○水産講習所傳習規則　明治三十三年一月廿六日告示第七號

第一條　本所ハ水産ニ關スル學理及技術ノ傳習ヲ爲ス

第二條　本所ニ本科及現業科ヲ置ク

第三條　本科ノ修業年限ハ三箇年トシ學理及技術ヲ併習セシメ現業科ノ修業年限ハ一箇年以内トシ專ラ技術ヲ習得セシム

第四條　本科ノ卒業生ニシテ尚深ク學理及技術ヲ攻究セント欲スル者ノ爲メニ研究科ヲ置キ其修業年限ハ三箇年以内トス

第四條ノ二　遠洋漁業ニ從事スヘキモノヲ養成スル爲遠洋漁業練習科ヲ置キ其修業年限ハ三箇年トス

遠洋漁業練習科ノ生徒タルモノハ明治三十一年五月告示第十二號遠洋漁業練習生規程ニヨリ採用シタル遠洋漁業練習生ニ限ル

第五條　本科ハ漁撈製造養殖ノ三科ニ分チ其一科ヲ專修セシム

第六條　本科ノ學科課程ハ左ノ如シ

一、漁撈科　漁具ノ構成漁船ノ構造漁撈ノ方法其他漁撈ニ必要ナル學科ヲ授ケ尚製造及養殖ノ大要ヲ授ク

二、製造科　水産物ノ製造及製鹽法其他製造ニ必要ナル學科ヲ授ケ尚漁撈及養殖ノ大要ヲ授ク

三、養殖科　淡鹹水動植物ノ養殖及其蕃殖保護法其他養殖ニ必要ナル學科ヲ授ケ尚漁撈及製造ノ大要ヲ授ク

第七條　現業科ノ課程ハ漁撈製造養殖ノ三科ニ分チ各其範圍内ニ於テ種目ヲ限リ之ヲ授ク但其種目ハ水産講習所長之ヲ定ム

第七條ノ二　遠洋漁業練習科ノ學科課程ハ航海學其他遠洋漁業ニ必要ナル學科ヲ授ケ尚ホ造船學ノ大要ヲ授ク

三十三年九月二十二日告示第九五號ヲ以テ第四條ノ二ヲ追加

全上ヲ以テ第七條ノ二追加

第八條　本所ハ授業料ヲ徴收セス

第九條　學年ハ九月十一日ニ始マリ翌年七月十日ニ終ル

第十條　休業日左ノ如シ

一日曜日

一大祭祝日

一冬季休業自十二月二十五日至一月七日

一夏季休業自七月十一日至九月十日

但實習ハ休業中ト雖時宜ニヨリ施行スルコトアルヘシ

第十一條　生徒ノ募集ハ本科ハ毎年六月研究科ハ九月現業科ハ四月十月ノ二期トス

第十二條　本科生及現業科生入學ノ人員ハ募集ノ際之ヲ定メ研究科生ハ教授上ノ都合ニ依リ之ヲ許否ス

第十三條　入學志願者ハ左ノ資格ヲ有スルモノタルヘシ

一　本科ニ於テハ年齢十七年以上ニシテ中學校卒業若ハ之ニ相當スル學力ヲ有シ品行方正身體强健ニシテ在學中家事ノ係累ナキモノ

二　現業科ニ於テハ年齢二十年以上三十五年以下ニシテ二箇年以上水産ノ業ニ從事シタル者若クハ其ノ子弟ニシテ品行方正身體强健在學中家事ノ係累ナキ者

第十四條　本科生及現業科生ノ進級及卒業ハ學科及技術ノ試業ヲ施シテ之ヲ決シ本科ニハ卒業證書ヲ現業科ニハ修業證書ヲ授與ス研究科生ハ研究ヲ完了シタルトキハ其專攻ニ係ル證明書ヲ授與ス

第十五條　本科ノ生徒中學術優等品行方正ニシテ生徒ノ模範トナルヘキモノハ特待生トシ學費ヲ補給スルコトアルヘシ

第十六條　本所ノ規則告示其他命令ニ違反シ若ハ風儀ヲ紊ス等ノ行爲アル者ハ其情狀ニヨリ戒飾ヲ加ヘ又ハ停學或ハ放所ヲ命ス

第十七條　學業不進若ハ品行不良ニシテ成業ノ見込ナキ者ハ除名ス

第十八條　本規則施行ニ關スル規程ハ水産講習所長之ヲ定ム

附　則

第十九條　本規則ハ明治三十三年四月一日ヨリ施行シ明治三十一年(一月)告示第三號水産講習所傳習生規程ハ本規則施行ノ日ヨリ廢止ス

○水産講習所傳習規程　明治三十三年三月決定

第一章　總則

第一條　本所ハ水産ニ關スル學理及技術ノ傳習ヲ爲ス所トス

第二條　本所ニ本科及現業科ヲ置ク

第三條　本科ノ修業年限ハ三箇年トシ現業科ハ一箇年以内トス

第四條　本科卒業生ニシテ尚深ク既修ノ學科ヲ攻究セントスルモノヽ爲メ研究科ヲ置キ其修業年限ヲ三箇年以内トス

第二章　學科課程

第五條　本科ハ漁撈、製造、養殖ノ三科ニ分チテ其一科ヲ專修セシム

第六條　本科ハ一箇年ヲ以テ一學年トス其學科及課程ハ左表ノ如シ

第三章　學年學期及休業

第七條　學年ハ九月十一日ニ始マリ翌年七月十日ニ終ル

第八條　本科ノ學年ヲ分チテ三學期トス第一學期ハ九月十一日ヨリ十二月二十四日ニ至リ第二學期ハ翌年一月八日ヨリ三月三十一日ニ至リ第三學期ハ四月一日ヨリ七月十日ニ至ル

第九條　本所ノ休業日ハ左ノ如シ

一毎日曜日
一秋季皇靈祭
一神嘗祭
一天長節
一新嘗祭
一冬季休業（自十二月二十五日　至翌年一月七日）
一孝明天皇祭
一紀元節
一季春皇靈祭
一神武天皇祭
一夏季休業（自七月十一日　至九月十日）

第十條　實習ハ課業ノ餘暇又ハ休業中ト雖時宜ニヨリ從事セシメ本科第三學年ニ於テハ夏季休業ヲナサス

第四章　入學在學及退學

一、入學

第十一條　本科入學ハ毎學年ノ始メトシ毎學年ノ終ニ於テ入學試業ヲナス

第十二條　本科入學志願者ハ前章掲クル所ノ分科ニヨリ專修スヘキ科ヲ選ヒ入學ノ後ハ甲科ヨリ乙科ニ轉スルコトヲ許サス

第十三條　本科ニ入學ヲ許スヘキモノハ官立府縣立中學校ヲ卒業シ若クハ之ト同等以上ノ學力ヲ有シ年齡十七年以上ニシテ入學試業ニ及第シ且體格檢査ニ合格シタル者トス

第十四條　入學試業ハ中學校卒業ノ程度ニ依リ左ノ學科ヲ試驗ス

一讀書　和漢文
一化學
一作文　漢字交リ文、日用文
一動物學
一植物學
一物理學
一地理　本邦及外國地理
一數學　算術、代數、幾何
一外國語　英語（書取、英文和譯）
一圖畫　自在畫

第十五條　官立府縣立中學校及本所ニ於テ適當ト認メタル市町村立又ハ私立中學校ノ卒業生ニシテ入學ニ必要ナル資格ヲ具ヘ其卒業ノ成績本所入學試業ノ學科定點三分ノ二以上ヲ得タルモノハ當該學校長ノ證明ニヨリ體格ノ外試業ヲ須ヒスシテ入學ヲ許可ス

但定員ヲ超過シタルトキハ特別試業ヲ施ス

第十六條　競爭試業ニヨリテ入學ヲ許スモノハ募集定員中無試業入學者ヲ控除シタル殘餘ノ人員ニ限ル

第十七條　入學志願者ハ第一號第二號第三號又ハ第四號ノ書式ニ倣ヒ各地方廳ヲ經テ（東京ニ在リテハ直接）入學願書竝ニ履歷書ヲ差出スヘシ

但無試業入學ヲ出願スルモノハ入學願書ニ第五號書式ニ倣ヒテ調製シタル體格檢査書ヲ添付スルヲ要ス

第十八條　願ニ依リ一旦退學シタルモノ再入學ヲ請フトキハ詮議ノ上學年ノ始メニ於テ原級以下ニ編入スルコトアルヘシ

二、在學證書及保證人

第十九條　入學ノ許可ヲ得タルモノハ其當日ヨリ五日以内ニ第五號書式ノ在學證書ヲ本所ニ差出スヘシ

第二十條　保證人ハ正副二人ヲ要シ俱ニ東京市内ノ公民ニシテ生徒ノ身分及ヒ修學上ニ關渉シ得ヘ

キモノトス

但本所ニ於テ適當ト認メタルモノハ此限ニ在ラス

第二十一條　保證人死去若クハ市外ニ轉住スルコト等アルトキハ速ニ之ヲ改メ更ニ證書ヲ出サシメ轉居旅行改印等ノコトアルトキハ其都度直ニ屆出ツヘシ

但シ正副保證人共ニ旅行スルコトアルトキハ相當代人ヲ定メ屆出ツヘシ

第二十二條　入學ヲ許可セシモノト雖第十九條ノ成規ヲ履行セサルモノハ入學スルコトヲ得ス

第二十三條　生徒ハ入學後一箇月以内ニ於テ本所制定ノ被服帽子ヲ著用スヘシ

三、體格檢査

第二十四條　體格檢査ハ入學試業ノ際之ヲ行フ但地方ニ於テ試業ヲ執行スル場合ニハ第六號書式ノ檢査書ニ依リテ檢定ス

四、闕席、闕課

第二十五條　疾病又ハ事故ニ依リ闕課若クハ闕席スルモノハ其事由ヲ詳記シ通學生ハ保證人連署寄宿生ハ生徒取締ノ證明ヲ得テ屆出ツヘシ

但疾病ニヨリテ引續キ闕席一週間以上ニ渉ルトキハ通學生ハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ寄宿生ハ本所顧問醫ノ證明書ヲ添フヘシ

五、休學

第二十六條　疾病ニヨリ一學期以上修學スルコト能ハサルモノト認ムルトキハ其學年間休學ヲ許可スルコトアルヘシ

第二十七條　休學ノ許可ヲ得ントスル者ハ本所顧問醫又ハ本所ニ於テ適當ト認ムル醫師ノ診斷書ヲ添ヘ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ

但本所ヨリ借受ノ圖書器械及食費未納等一切之ナキ旨其掛員ノ證明書ヲ添付シ若シ貸費生ナルトキハ貸費者ノ承諾書ヲ添付スルヲ要ス

第二十八條　休學ノ許可ヲ得タル若ハ第四章第四十條ニ依リテ處分セス

第二十九條　休學者ハ次學年ノ始メヨリ原級ニ編入ス

六、兵役

第三十條　一年志願兵トナリ兵役ニ服シタルモノ服役ヲ終リ直ニ就學スル者ハ原級ニ編入ス

但服役滿期後直ニ就學セサルモノハ退學者トス

第三十一條　兵役ニ服スル爲メ退學シタルモノ服役滿期又ハ歸休ノ後再ヒ入學ヲ請フトキハ學年ノ始メニ於テ試業ヲ行ヒ原級ニ編入ス

七、特待

第三十二條　本科生徒ニシテ學術優等品行方正他ノ模範トナルヘキモノハ特待生トナスコトアルヘシ

第三十三條　特待生ハ其學年試業ノ成績ニヨリ平素ノ學業品行ノ如何ヲ攷ヘ所長之ヲ定ム

第三十四條　特待生ニハ學資ヲ補給ス

第三十五條　特待生品行不良學業懈怠若クハ疾病ニ罹リ修業ニ堪ヘ難シト認ムルモノハ之ヲ停止スル

八、懲罰

第三十六條　規則及命令ニ違反スルモノ風紀ヲ害スルモノ又ハ怠惰不品行等生徒タルノ本分ニ背キタルモノハ其輕重ニヨリ懲罰ス

第三十七條　懲罰ヲ分チテ訓戒停學放所ノ三トス

第三十八條　訓戒ハ將來ヲ戒メ停學ハ二週間以内修學ヲ停止シ放所ハ學籍ヲ除キテ退去セシメ再ヒ

入學ヲ許サス

九、退學及除名

第三十九條　疾病事故等ニヨリテ退學セントスルモノハ其事由ヲ詳記シ疾病アルモノハ醫師ノ診斷書ヲ添付シ保證人連署ノ上願出ツヘシ

但本所ヨリ借受ノ圖書器械及食費未納等一切之ナキ旨其掛員ノ證明書ヲ添付シ貸費生ナルトキハ貸費者ノ承諾書ヲ添付スルヲ要ス

第四十條　左ノ一項若クハ數項ニ觸ルヽモノハ除名ス

一　數々遲刻闕課又ハ闕席スルモノ

二　二箇月以上無屆闕席スルモノ

三　一學期間全ク出席セサルモノ

四　一學年間停學ノ處分三回ニ及フモノ

五　二學年間一ノ學級ニ在リテ進級スルコトヲ得サルモノ

六　成業ノ見込ナキモノ

第四十一條　除名ニ關シテハ學業ノ成績平素ノ品行及事故ノ如何ヲ參酌シ特別ノ處分ヲナスコトアルヘシ

第五章　試業、進級及卒業

一、試業

第四十二條　本科ノ試業ヲ分チテ學期試業學年試業ノ二トス

一　學期試業ハ第一學期第二學期ノ終ニ於テ施行シ各其學期中ニ履修シタル學業ノ範圍內ニ於テス

二　學年試業ハ學年ノ終ニ於テ施行シ其學年中ニ履修シタル學業ノ範圍內ニ於テス

第四十三條　實習ノ試業ハ實習ノ檢定及試問ノ二トシ學年末ニ於テ之ヲ行フ

第四十四條　實習ノ檢定ハ其學年ノ終ニ於テ實習ノ成績竝ニ實習報告書ニ就キ試問ハ筆答及口答トシ其學年中ニ於テ實習シタル諸項目ニ就キテ之ヲ行フ

第四十五條　平生ノ學業及實習ノ成績ニヨリ評點ヲ付シ之ヲ學期試業又ハ學年試業ノ評點ニ算入スルコトアルヘシ

第四十六條　學期ノ三分ノ一以上修學スルニアラサレハ其學期若クハ學年ノ試業ヲ受クルコトヲ得ス

第四十七條　最終學年ノ終ニ於テハ專修シタル學科ニ關シタル卒業論文ヲ提出スヘシ

二、進級及卒業

第四十八條　試業ノ評點ハ每學科一百ヲ以テ定點トス

第四十九條　試業ノ成績ハ各學科ノ得點四十以上平均點六十以上ヲ得タルモノヲ及第トス

但得點四十以上ノモノ三學科以上アルトキハ此限ニアラス

第五十條　學年試業ニ於テハ學期試業ノ各學科ノ得點ヲ平均シ更ニ學年試業ノ評點ヲ加ヘ二分シテ各學科ノ得點トシ及落ヲ判定ス

第五十一條　最終ノ學年ニ於テハ實習檢定ノ評點及試問ノ評點ヲ加ヘ二分シテ其得點トシ及落ヲ判定ス

但實習及試問ノ得點ハ各六十點以上ヲ及第トス

第五十二條　生徒ノ席次ハ學年試業平均點ノ多少ニヨリテ之ヲ定メ卒業生ノ席次ハ三學年間ノ試業ノ平均點ノ和ニ卒業論文ノ評點ヲ加ヘ四ヲ以テ除シ其平均點ニヨリテ之ヲ定ム

第五十三條　學年試業ニ於テ及第セサルモノハ原級ニ止ム

第五十四條　病氣其他止ヲ得サル事故ニヨリ相當ノ手續ヲ經テ試業ニ闕席シタルモノハ願ニヨリ詮議ノ上特ニ試業ヲ受ケシムルコトアルヘシ

第五十五條　最終ノ試業ニ及第シタルモノニハ卒業證書ヲ授與ス

現業科規程

第一條　現業科ハ水産ノ技術ヲ習得セント欲スルモノヽ爲メニ設ク

第二條　生徒ノ修學ハ現業ヲ主トシ其事項ニ關スル學理ノ講義ヲ授ク

第三條　現業科ノ修業年限ハ一箇年以内トス

但必要ト認ムルトキハ其豫定ノ期限ヲ伸縮スルコトアルヘシ

第四條　現業練習ノ爲メ出張ヲ命シタルトキハ其往復ノ旅費ヲ給ス

第五條　現業科ノ生徒募集ハ毎年四月及十月ノ二期トス

但現業開始ノ期日ハ其種目ニヨリテ別ニ之ヲ定ム

第六條　現業科ニ入學ヲ許スモノハ試業ヲ要セス二箇年以上水産ノ實業ニ從事シタルモノ若クハ其子弟ニシテ品行方正身體强健年齡二十年以上三十五年以下ノモノタルヘシ

第七條　現業科ノ生徒タラント欲スルモノハ募集ノ期日ニ先チテ本所傳習規程第四章第十七號ノ手續ヲナスヘシ

但本所傳習規程第六號書式ニ準シタル體格檢査書ヲ添付スヘシ

第八條　現業科ノ修業種目及人員ハ募集ノ都度之ヲ定ム

第九條　入學志願者ニシテ定員ニ超過シタルトキハ其經歷ト地方ノ狀況ニヨリテ許否ヲ決ス

第十條　入學ノ許可ヲ得タルモノハ指定ノ期日ニ入所スヘシ

第十一條　實習ハ總テ本所實習規程ヲ準用ス

第十二條　修業期ノ終ニ於テ試業ノ上修業證書ヲ授與ス

第十三條　本規程ノ外ハ本所傳習規程ヲ準用ス

研究科規程

第一條　研究科ハ本科ノ卒業生ニシテ已修ノ學科ヲ更ニ攷究セントスル者ノ爲ニ設ク

第二條　研究科ノ修業年限ハ三箇年以内トス

第三條　研究ノ爲メ出張ヲ命シタルトキハ往復ノ旅費ヲ給ス

第四條　研究科志願者ハ毎學年ノ始メニ於テ出願スヘシ

但出願期外ト雖詮議ノ上特ニ許可スルコトアルヘシ

第五條　研究科ノ生徒タラント欲スルモノハ出願ノ期日ニ先チテ本所傳習規程第四章第十七條ノ手續ヲナスヘシ

第六條　研究シタル事項ハ指定ノ期日内ニ報告書ヲ作リ擔當教官ニ差出スヘシ

第七條　研究生ハ擔當教官ノ指導ヲ受クヘシ

第八條　毎學年ノ終ニ於テ擔當教官ハ其成績ヲ檢定シ意見ヲ具シテ所長ニ申報スヘシ

第九條　研究ヲ完了シタルトキハ其事項ニ就キ論文ヲ提出スヘシ

第十條　研究ヲ完了シ論文ヲ提出シタルトキハ所長ハ擔當教官ノ申報ニ基キ適當ナリト認ムルトキハ證明書ヲ授與ス

第十一條　本規程ノ外ハ總テ本所傳習規程ヲ準用ス

遠洋漁業練習科規程

第一條　本所ハ遠洋漁業ニ從事スヘキモノヲ養成スル爲メ遠洋漁業練習科ヲ置ク

第二條　遠洋漁業練習科ノ修業年限ハ三箇年以内トス

第三條　遠洋漁業練習科ノ學科及課程ハ左表ノ如シ

第四條　遠洋漁業練習科生徒タルモノハ明治三十一年(五月)農商務省告示第十二號遠洋漁業練習生規程ニ依リ採用セラレタル遠洋漁業練習生ニ限ル

第五條　各學期ノ終ニ於テ學期試業ヲ行ヒ學年ノ終ニ學年試業ヲ行フ其試業ニ關シテハ本所傳習規程ヲ準用ス

第六條　學科ヲ修了シタルトキハ船舶ニ乘組マシメ實地ノ練習ヲ爲サシム

第七條　乘船實習ヲ命セラレタルトキハ別ニ定ムル所ノ實習規程ヲ遵守スヘシ

第八條　最終ノ學年ニ於テハ自己ノ研究シタル事項ニ就キ論文ヲ提出スヘシ

第九條　豫定ノ年限間乘船實習ヲ完了シ論文ヲ提出シタルトキハ所長ハ擔當教官ノ申報ニ基キ平素ノ成績ヲ攷ヘ適當ナリト認ムルモノハ農商務大臣ニ申報スヘシ

第十條　本規程ノ外ハ總テ本所傳習規程ヲ準用ス

(學科及課程並ニ各書式略ス)

地質調査

○地質調査所位置

東京市麹町區道三町三番地

○地質調査所ニ於テ爲ス分析試驗ニ關スル手數料ノ件

明治二十五年七月十一日
勅令第六三號

第一條　農商務省地質調査所ニ分析試驗ノ依頼ヲ爲ス者ハ左ノ區別ニ從ヒ手數料ヲ納ム可シ

一　一性分ノ定性分析ハ金一圓トス一定性ヲ增ス毎ニ金五十錢ヲ加フ

二　鑛物、工業用原料、製造品等中一性分ノ定量分析ハ金二圓トス一定量ヲ增ス毎ニ金一圓ヲ加フ

三　一金屬ノ乾式定量分析ハ金二圓トス一定量ヲ增ス毎ニ金一圓ヲ加フ

四　鑛物類ノ比重、硬度等ノ檢定ハ一廉毎ニ金五十錢トス

五　耐火材料用ノ粘土煉化石等ノ火熱ニ於ケル實驗、陶磁器、煉化石、「セメント」原料用粘土類ノ器械分析及ヒ應用試驗ハ金二圓以上金二十圓以下トシ試驗ノ難易ニ從ヒ農商務省地質調査所長ノ定ムル所ニ依ル

六　器械油等ノ比重、粘力、引火點、凝結點、沸騰點、熔融點、乾燥質ノ試驗ハ一廉毎ニ金五十錢トス金屬ニ於ケル作用、酸類及ヒ「アルカリ」ノ作用、酸類ノ定量、分餾、沃度化合數、鹼化數等ノ試驗ハ第二號ニ準ス

七　建築材料等ノ吸水力、耐壓力、耐延力、凍寒ニ於ケル作用、石灰ノ「モルタル」製出力等ノ試驗ハ

一廉毎ニ金一圓トス

八　「セメント」ノ比重、一定容量ノ重量、硬化ノ時間、粉末ノ細粗硬化ノ際膨膨ノ程度、龜裂ノ現象等ノ試驗ハ一廉毎ニ金五十錢硬力即チ耐壓力並ニ耐延力等ノ檢定ハ一廉毎ニ金一圓以上金十圓以下トシ試驗ノ難易ニ從ヒ農商務省地質調査所長ノ定ムル所ニ依ル

九　右各號外ニシテ化學工業ニ屬スルモノト認ムル試驗手數料ハ前示割合ニ準シ時々農商務省地質調査所長ノ定ムル所ニ依ル

十　時日ヲ限リ分析試驗ヲ依頼スルトキハ前示手數料ノ二倍トシ同人ニシテ同種類ノモノ五箇以上ノ試驗ヲ同時ニ依頼スルトキハ前示手數料ノ二割ヲ減ス

第二條　前條ノ手數料ハ登記印紙ヲ以テ納ム可シ

第三條　本令ハ明治二十五年八月一日ヨリ施行ス

○分析試驗依頼者心得

明治二十五年七月二十五日
告示第一三號

一　明治二十五年勅令第六十三號ニ依リ農商務省地質調査所ニ分析試驗ノ依頼ヲ爲ス者ハ依頼書ニ供試品ヲ添ヘ直ニ該所ニ差出スヘシ

二　供試品ノ分量ハ左ノ區別ニ依ルヘシ

一　鑛物類ノ分析ハ　十匁以上

二　石炭ノ分析ハ　一斤以上

三　金屬ノ乾式定量分析ハ　四十匁以上

四　鑛物類ノ比重、硬度等ノ檢定ハ　二匁以上

五　耐火材料用ノ粘土、煉化石等ノ火熱ニ於ケル實驗、「セメント」原料用粘土類ノ器械分析及應用試驗ハ　三斤以上

六　器械油等ノ比重、粘力、引火點、乾燥質ノ試驗等ハ　五合以上

七　建築材料等ノ吸水力、耐壓力、凍寒ニ於ケル作用等ノ試驗煉化石ハ試驗一廉毎ニ標本　八箇以上

石材ハ試驗一廉毎ニ一寸六分五厘乃至三寸三分立方（五乃至十「センチメートル」立方）ノ標本　八箇以上

八　「セメント」ノ比重、硬化ノ時間、粉末ノ細粗、硬化ノ際膨脹ノ程度、龜裂ノ現象等ノ試驗ハ

一　定容量ノ重量ノ檢定　三斤以上

二　耐延力及耐壓力ノ試驗　五斤以上

九　右各號外ノ分析試驗品ノ分量ハ臨時指揮ヲ受クヘシ　二十七斤以上

三　依頼書式ハ左ノ如シ

第一號書式（用紙美濃紙）

分析依頼書（此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ）

一　試驗品名何々（試驗品ノ名稱ヲ記スヘシ）

二　産地若クハ製造地名（市町村等ヲ掲クヘシ）及ヒ製造人名何々

三　定性若クハ定量スヘキ物質（定性若クハ定量スヘキ物質ノ名稱ヲ左ニ列記スヘシ）

一　何々

一　同

一　同

右分析及御依頼候也

年　月　日

分析依頼者　氏　　名　印

現住所

農商務省地質調査所長氏名殿

第二號書式（用紙美濃紙）

試驗依頼書　此處ニ登記印紙ヲ貼用シ消印スヘシ

一　試驗品名何々　試驗品ノ名稱ヲ記スヘシ

二　産地若クハ製造地名　市町村等ヲ掲クヘシ　及ヒ製造人名何々

三　試驗ノ目的　例ヘハ建築料即チ燒化石ノ如キモノナレハ吸水量、耐壓力、凍凌ニ於ケル作用等、「セメント」ナレハ比重、一定容量ノ重量、硬化ノ時間、粉末ノ細粗、硬化ノ際膨脹ノ程度、龜裂ノ現象等其所要試驗ノ要領ヲ記スヘシ

右試驗及御依頼候也

年　月　日

試驗依頼者　氏　　名　印

現住所

農商務省地質調査所長氏名殿

○臨時油田調査ニ關スル職員ノ件　明治三十三年六月二十八日　勅令第二八一號

油田ノ調査ヲ爲サシムル爲農商務省ニ臨時左ノ職員ヲ置キ地質調査所ニ屬セシム

技師　　專任三人

技手　　專任十四人

屬　　專任　二人

本令ハ明治三十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

三十四年勅令第四號ヲ以テ人員改正

製鐵所

○製鐵所官制

明治三十二年六月二十三日
勅令第三〇七號

第一條　製鐵所ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ鋼鐵製造ノ事ヲ掌ル

第二條　製鐵所ニ左ノ職員ヲ置ク

長官	一人	勅任
書記官	專任二人	奏任
事務官	專任三人	奏任
技師	專任三十人	內一人ハ勅任トス
書記	專任六十四人	判任
技手	專任百人	

三十三年勅令第三十四號
四八年勅令第一號
七號ヲ以テ第五四
二條中改正

第三條　長官ハ農商務大臣ノ指揮監督ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ總理シ部下ノ職員ヲ指揮監督ス
長官ハ奏任官ノ進退ハ之ヲ農商務大臣ニ具狀シ判任官以下ノ進退ハ之ヲ行フ

第四條　書記官ハ長官ノ命ヲ承ケ所務ヲ掌ル

第四條ノ二　事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ庶務ニ關スル事務ヲ掌ル

第五條　技師ハ上官ノ命ヲ承ケ技術ニ關スル事務ヲ掌ル

第六條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第七條　技手ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ關スル事ニ從事ス

第八條　製鐵所ニ左ノ諸部ヲ置ク

全上勅令第一五七號ヲ以テ第四條ヲ改正シ第四條ノ二ヲ追加ス

工務部
製銑部
製鋼部
製品部
經理部

各部ニ於ケル事務ノ分掌ハ農商務大臣之ヲ定ム

第九條　農商務大臣ハ所中ニ課ヲ置クコトヲ得

第十條　製鐵所ニ技術長ヲ置キ勅任技師ヲ以テ之ニ充ツ
技術長ハ長官ノ命ヲ承ケ技術官ヲ指揮監督シ技術ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十一條　各部ニ部長ヲ置キ工務部製銑部製鋼部製品部ニ在テハ技師經理部ニ在テハ書記官ヲ以テ之ニ充ツ
部長ハ上官ノ命ヲ承ケ部下ノ官吏ヲ監督シ所部ノ事務ヲ掌理ス

全上ヲ以テ第一一條中改正

第十二條　農商務大臣ハ製鐵所豫算定額內ニ於テ製鐵所出張所ヲ設置スルコトヲ得
出張所所管ノ事務ハ農商務大臣之ヲ定ム

○製鐵所及出張所位置

製鐵所	福岡縣遠賀郡八幡村
同出張所	農商務省內
同	赤谷出張所　新潟縣北蒲原郡赤谷村
同	二瀨出張所　福岡縣嘉穗郡二瀨村

○製鐵所事務官及書記任用ノ件　明治三十一年二月四日勅令第一八號

製鐵所事務官ハ滿三年以上製鐵所ノ業務ニ從事シ判任官二級俸以上ノ俸給ヲ受ケタル者、同書記ハ製鐵用材料ノ取引ニ經驗アル者ニ限リ試驗ヲ要セス事務官ニ在リテハ文官高等試驗委員、書記ニ在リテハ文官普通試驗委員ノ銓衡ヲ經テ任用スルコトヲ得

本令發布後一箇年間ハ現ニ製鐵所書記ノ職ニ在リ二級俸以上ノ俸給ヲ受クル者ハ文官高等試驗委員ノ銓衡ヲ經テ直ニ製鐵所事務官ニ任用スルコトヲ得

○製鐵所處務規程　明治三十三年八月三日決定

第一條　製鐵所官制ニ定ムル所ノ各部ノ外製鐵所ニ文書課及鑑査課ヲ置キ事務ヲ分掌セシム

第二條　工務部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　本所諸工事及出張所起業ノ計畫ニ關スル事項

二　諸營造物ノ築造、器具機械ノ製作並修理及其條件ニ關スル事項

三　土木、測量及其條件ニ關スル事項

四　諸機械ノ運轉、貨物ノ運輸及電氣ニ關スル事項

第三條　製銑部ニ於テハ銑鐵爐材及骸炭製造ノ事ヲ掌ル

第四條　製鋼部ニ於テハ鋼鐵製造ノ事ヲ掌ル

第五條　製品部ニ於テハ製品製造ノ事ヲ掌ル

第六條　經理部ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　收入支出ノ豫算決算ニ關スル事項

二　據置運轉資本ノ運用ニ關スル事項

三　收入支出ノ出納ニ關スル事項

四　土地建物原料及製品其他諸物件ノ賣買貸借ニ關スル事項

五　物品會計ニ關スル事項

第七條　文書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機密ニ屬スル事項

二　所員ノ進退身分ニ關スル事項

三　長官ノ官印及所印ノ管守ニ關スル事項

四　公文書類ノ接受發送及諸報告ニ關スル事項

五　諸規則ノ起案並公文書及圖書類ノ編纂保存ニ關スル事項

六　構內取締及附屬病院ニ關スル事項

七　各部課ノ主掌ニ屬セサル事項

第八條　鑑査課ニ於テハ原料、製品及諸工事鑑査ノ事務ヲ掌ル

第九條　文書課及鑑査課ニ課長ヲ置キ文書課長ハ書記官又ハ事務官鑑査課長ハ技師ヲ以テ之ニ充ツ

課長ハ上官ノ命ヲ承ケ課員ヲ監督シ課務ヲ掌理ス

第十條　長官事故アルトキハ他ノ高等官ヲシテ事務ヲ代理セシムルコトヲ得

第十一條　長官ハ他ノ高等官ニ主管事務ノ一部ヲ委任シ自己ノ名義ヲ以テ處辨セシムルコトヲ得

第十二條　長官ハ主管事務ニ付各官廳ニ照會往復シ公告ヲナスコトヲ得

第十三條　外國人ニ對シ義務ヲ負擔スル文書ハ凡テ長官ノ名ヲ以テ往復スヘシ

三十四年八月廿一日決定第九條改正

第十四條　長官ハ事務整理ノ爲メ處務細則ヲ設クルコトヲ得
第十五條　長官ハ判任官以下ノ所員ニ賞與スルコトヲ得
第十六條　長官ハ所員ニ內地出張ヲ命スルコトヲ得

○製鐵所赤谷出張所處務規程　明治三十二年九月七日製鐵第五〇一號達

第一條　製鐵所赤谷出張所ニ所長ヲ置キ技師ヲ以テ之ニ先ツ
第二條　所長ハ製鐵所長官ノ指揮監督ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理シ凡テ其責ニ任ス
第三條　所長ハ主掌事務ニ付例規ニ據リ各官廳ニ照會往復スルコトヲ得
第四條　所長ハ事務ノ必要ニ依リ所員ニ內地出張ヲ命スルコトヲ得
第五條　所長ハ所員ノ歸省看護墓參轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得
第六條　所長ハ月俸拾五圓又ハ日給五拾錢以下ノ傭員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得
第七條　所長事故アルトキハ次席ノ所員ニ代理ヲ命スルコトヲ得
第八條　所長ハ事務整理ノ爲メ製鐵所長官ノ認可ヲ受ケ事務章程ヲ設クルコトヲ得

○二瀨出張所處務規程　三十二年十二月製鐵第八七四號大臣達

第一條　製鐵所二瀨出張所ニ所長ヲ置キ技師ヲ以テ之ニ充ツ
第二條　所長ハ製鐵所長官ノ指揮監督ヲ承ケ所中一切ノ事務ヲ掌理シ凡テ其責ニ任ス
第三條　所長ハ主掌事務ニ付例規ニ據リ各官廳ニ照會往復スルコトヲ得
第四條　所長ハ事務ノ必要ニ據リ所員ニ內地出張ヲ命スルコトヲ得
第五條　所長ハ所員ノ歸省看護墓參轉地療養願ヲ許可シ及除服出仕ヲ命スルコトヲ得

第六條　所長ハ月俸拾五圓又ハ日給五拾錢以下ノ傭員ノ採用解免ハ之ヲ專行スルコトヲ得
第七條　所長事故アルトキハ次席ノ所員ニ代理ヲ命スルコトヲ得
第八條　所長ハ事務整理ノ爲メ製鐵所長官ノ認可ヲ受ケ事務章程ヲ設クルコトヲ得

○器具機械製鐵原料等隨意契約ニ依リ購入ノ件　明治二十九年十二月一日勅令第三七八號

製鐵所ニ於テ製鐵事業設備完了ニ至ル迄ニ必要トスル器具機械其他物件ヲ外國ニ於テ購入スルトキ又ハ內國ニ於テ製鐵原料ヲ購入スルトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○若松築港ニ關聯スル工事隨意契約ニ依ル件　明治三十二年二月一日勅令第二五號

製鐵所創立費支辨ニ屬スル用地地先浚渫及荷揚場設置工事ニシテ若松築港工事ニ關聯スル工事ノ請負ハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

○製鐵所ノ請負拂下隨意契約ニ依ルノ件　明治三十三年二月二十二日勅令第三九號

製鐵所ノ鑛山採掘及骸炭製造ノ請負幷採掘ヨリ生スル不用生產物拂下ハ本令發布ノ日ヨリ三箇年間ニ限リ競爭ニ付セス隨意契約ニ依ルコトヲ得

農商工高等會議

○農商工高等會議規則

明治三十年六月一日
勅令第一八八號

第一條　農商工高等會議ハ農商務大臣ノ監督ニ屬シ農商工業ニ關スル重要ノ事項ニ付農商務大臣ノ諮問ニ應シ意見ヲ開申ス

第二條　農商工高等會議ハ農商工ニ關スル重要ノ事項ニ付關係各省大臣ニ建議スルコトヲ得

第三條　農商工高等會議ハ會務整理ノ爲メ規則ヲ議定シ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四條　農商工高等會議ハ議長副議長各一人及議員三十人以内ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　特別ノ事件ヲ審議スル爲メニ臨時必要ノ場合ニ於テ前條定員ノ外臨時議員ヲ命スルコトヲ得

第六條　議長副議長議員及臨時議員ハ官吏又ハ農商工ニ關スル學識若クハ經驗アル者ノ中ニ就キ農商務大臣ノ奏請ニ依リ内閣ニ於テ之ヲ命ス

第七條　議長ハ議事規則ニ依リ議事ヲ整理シ會議決議ヲ農商務大臣ニ具申ス

第八條　議長事故アルトキハ副議長ヲシテ事務ヲ代理セシム

第九條　農商工高等會議ニ幹事二人ヲ置キ農商務省高官等ヲ以テ之ニ充ツ幹事ハ議長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

第十條　議長副議長議員及幹事ニハ一箇年三百圓以内臨時議員ニハ事件ノ輕重ニ應シ其ノ都度相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十一條　農商工高等會議ニ書記ヲ置ク議長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス書記ハ農商務省判任官又ハ其他ノ者ニ就キ之ヲ命ス

第十二條ノ書記ニハ事務ノ繁閑ニ應シ相當ノ手當ヲ給スルコトヲ得

第十三條　農商務大臣ニ於テ必要ト認ムルトキハ議員又ハ其他ノ者ヲシテ農商工業ニ關スル諸般ノ調査ヲ爲サシムルコトヲ得

附　則

第十四條　從前ノ議長副議長議員臨時議員及幹事ハ別ニ辭令ヲ用ヰス本令施行ノ日ヨリ其ノ任ヲ解カレタルモノトス

○第五回內國勸業博覽會事務局官制

明治三十三年六月四日
勅令第二五六號

第一條　第五回內國勸業博覽會事務局ハ農商務大臣ノ管理ニ屬シ第五回內國勸業博覽會ニ關スル一切ノ事務ヲ掌ル

第二條　第五回內國勸業博覽會事務局ニ總裁一人ヲ置キ第五回內國勸業博覽會ニ關スル事項ヲ總裁セシム

總裁ハ皇族中ヨリ勅ニ依リ之ヲ命ス

第三條　第五回內國勸業博覽會事務局ニ左ノ職員ヲ置ク

副總裁　一人
審査總長　一人
事務官長　一人
審査部長　一人
事務官
審査官
書記

第四條　副總裁ハ農商務大臣ヲ以テ之ニ充テ審査總長ハ勅任官ノ中ヨリ之ヲ命シ事務官長ハ農商務總務長官ヲ以テ之ニ充テ事務官ハ高等官ノ中ヨリ之ヲ命ス

副總裁、審査總長、事務官長及事務官ハ各其本官ノ待遇ヲ受ク

審査部長及審査官ハ學識又ハ經驗アル者ノ中ヨリ之ヲ命ス

審査部長、審査官ニシテ官吏タル者ハ各其ノ本官ノ待遇ヲ受ケ其ノ官吏ニ非サル者ハ奏任官ノ待遇ヲ受ク

書記ハ判任官又ハ官吏ニ非サル者ノ中ヨリ之ヲ命ス

書記ハ判任官ノ待遇ヲ受ク

第五條　重要ノ事項ヲ審議調査セシムル爲學識又ハ經驗アル者ノ中ヨリ選定シテ評議員若干人ヲ置クコトヲ得

第六條　審査總長、審査部長、事務官、審査官及評議員ハ農商務大臣ノ奏請ニ依リ內閣ニ於テ之ヲ命シ書記ハ副總裁之ヲ命ス

第七條　副總裁ハ所部ノ職員ヲ統督シ局務ヲ總判ス

第八條　事務官長ハ副總裁ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌理ス

第九條　事務官ハ副總裁又ハ事務官長ノ命ヲ承ケ事務ヲ分掌ス

第十條　審査總長ハ副總裁ノ命ヲ受ケ出品ノ審査及之ニ關スル事務ヲ掌理ス

第十一條　審査部長ハ副總裁又ハ審査總長ノ命ヲ承ケ出品ノ審査及之ニ關スル事務ヲ分掌ス

第十二條　審査官ハ副總裁、審査總長及審査部長ノ命ヲ承ケ出品ノ審査及之ニ關スル事務ヲ掌ル

第十三條　書記ハ上官ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

○第五回內國勸業博覽會事務局分課規程

明治三十三年六月十八日決定

第一條　本局ニ文書課、庶務課、出品課及會計課ヲ置キ其事務ヲ分掌セシム

第二條　文書課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル

一　機密文書ニ關スル事

二　局員ノ進退身分及褒賞ニ關スル事

三　官印ノ管守ニ關スル事

四　賞品及賞狀ニ關スル事
五　儀式ニ關スル事
六　接待ニ關スル事

第三條　庶務課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　諸文書ノ接受及發送ニ關スル事
二　記錄、編纂、飜譯及印刷ニ關スル事
三　官報、統計及報告ニ關スル事
四　各課ノ主掌ニ屬セサル事項

第四條　出品課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　出品及其陳列ニ關スル事
二　陳列場整理ニ關スル事
三　賣店ニ關スル事

第五條　會計課ニ於テハ左ノ事務ヲ掌ル
一　經費ノ豫算決算及金錢出納ニ關スル事
二　地所、建物及建築ニ關スル事
三　陳列館內外及式場裝飾ニ關スル事
四　需用品調度ニ關スル事
五　場內休憩所、飲食店等ニ關スル事
六　入場券（優待券ヲ除ク）、章標、門鑑等ニ關スル事
七　場內取締ニ關スル事
八　守衛給仕小使諸職工ノ傭使罷免及其取締ニ關スル事

參照法規

明治三十二年勅令第二五四號ヲ以テ第七條第二項但書追加

○各省官制通則

明治二十六年十月三十日
勅令第一二二號

第一條　本則ハ外務、內務、大藏、陸軍、海軍、司法、文部、農商務、遞信ノ各省ニ適用ス

第二條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ責ニ任ス

主任ノ明瞭ナラサル事務ニシテ兩省以上ニ關涉スルモノアルトキハ閣議ニ提出シテ其ノ主任ヲ定ム

第三條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付法律勅令ノ制定、廢止及改正ヲ要スルコトアルトキハ案ヲ具ヘ閣議ニ提出スヘシ

第四條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付其ノ職權若クハ特別ノ委任ニ依リ省令ヲ發スルコトヲ得

第五條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ニ指令又ハ訓令ヲ下スコトヲ得

第六條　各省大臣ハ主任ノ事務ニ付警視總監、北海道廳長官、府縣知事ヲ監督ス若シ警視總監、北海道廳長官、府縣知事ノ命令又ハ處分ノ成規ニ違ヒ公益ヲ害シ又ハ權限ヲ犯スモノアリト認ムルトキハ其ノ命令又ハ處分ヲ停止シ又ハ取消スコトヲ得

第七條　各省大臣ハ所部ノ官吏ヲ統督シ奏任官ノ進退ハ內閣總理大臣ヲ經テ之ヲ上奏シ判任官以下ハ之ヲ專行ス

地方官廳奏任官ノ進退ハ內閣總理大臣ヲ經テ內務大臣之ヲ上奏ス

但シ視學官ノ進退ハ內閣總理大臣ヲ經テ內務大臣及文部大臣之ヲ上奏ス

第八條　各省大臣ハ內閣總理大臣ヲ經テ所部ノ官吏ノ叙位叙勳ヲ上奏ス